

の長男、資性英邁、明敏達識なる材幹にしてその明脚なる頭腦は幼時より既に衆をぬき、長じて世紀の終末とまで稱された彼の世界大戦に際し正義の爲に勇躍出征、赫々たる武功を樹立、勳八等に叙された。尙郷に在りては専心公共の事に意を用ひ、夙に軍人分會長、區長、國勢調査員として執筆、現在は當組合事務理事の重責に在る外村會議員、農會代議員の任にあり、その事績頗る多く、村民の人望高い。

伊勢崎町

伊勢崎町長 星野源右衛門



伊勢崎は往昔奈良朝の文化を蒙り開明したる所にし

寛治年間源義家後三年の役、東國の家人赤石左衛門の功を賞し、上毛三箇の莊を給す。爰に於て赤石城を築きて此地を領す。平治より永祿に至る間、三浦、新田、頼田、那波、荻田、由良の諸族相亞いで領有し、永祿九年に由良成繁伊勢大神宮を赤石城中に勧請して之を祀りしより赤石の郷を伊勢崎と改稱せり。明治二年六月酒井忠彰封土を朝廷に奉還せしが尙、伊勢崎藩知事として此地を管轄、明治四年七月癸酉藩置縣となり伊勢崎縣を置かれ十月群馬縣の管轄に移り第十六大區一小區に編入せられ、六年六月熊谷縣に轉屬し、九年八月群馬縣に復す。同十二年一月伊勢崎戸長役場を置きて統轄し、二十二年四月、町村制實施に依り從來の地域を伊勢崎町とし今日に至る。現町長星野源右衛門氏は先代徳次郎氏の次男にして明治五年十月十日の岳降、當家は新田義貞の一族にして連綿今日に至る由緒ある家柄にして、氏は安女村より明治二十三年星野家に養子に迎へられたるものであ

る。尙又星野家代々戸長、名主等を勤めたる町の舊家なり。氏は若冠二十五歳にして町會議員に出馬して當選、三十五年縣會議員三期當選議長に推薦され今日縣政界の長老として重きをなしてゐる。現時町長の外、上毛貯蓄銀行取締役、伊勢崎信用組合理事等の要職を兼ねてゐる。氏の二男壽邦氏は、法政大學在學中、又とみ子さんは榎本武場氏の令孫武英氏に嫁してゐる。家庭は令閨とく子さん、長男龜年氏外、令孫大勢の大家族にして春風駘蕩として和樂の笑聲は常に氏の門に滿ち溢れてゐる。

殖蓮村上植木

殖蓮村長 矢嶋 次市

氏は性來剛毅廉直の人たり、濃厚且矜愍の情に厚く、氣宇頗る太く、圓滿なる人格溫容の風格と相俟つて、地方人士の信望極めて厚くその比肩を見ざる處である。大正十二年以來村長として村治の上

に明敏闊達の手腕を以て執筆し、其の功

實に枚擧に遑なき程である。現に産業組合長、農會長をも兼任して、村産業の上に多大の力を致し村民の澎湃たる感謝を受けてゐる。昨年九月には選ばれて縣會議員に當選した。地方自治の中に殆んど其半歳を過した人であり、自治功勞者中の木鐸たるべき巨大なる存在である。當家は土地有數の舊家であり殊に素封家として知らる。祖父權藏氏は會つて村會議員として精勵した人、嚴父小源太氏も亦多年村會議員、區長等と多くの功績のあつた人で、當主はその長男として生れ、日露戦争に出征、實戦に馳驅して勳八等に叙され、白色桐葉章を賜つた。又上海事變當時の自治功勞によつて、銀杯を下賜された。實に氏の當村に於ける存在は村政各般の上に巨大なる樹蓋の如きものであり、一村擧げて一致戮力せる村勢伸長擴大への、樞幹として勵格せるものといふべきである。今や氏の名聲はたゞ一村のみならず縣下にも燦とかゞやきわたつてゐる。

采女村上淵名

元縣會議員
元京都府視學

長沼宗雄



當家は本采女村第一の名門と稱される素封家にして

代々村政に貢献多大なる家柄、先々代彌一氏は名主を勤めて功あり、先代彌之丈氏は清廉潔白なる人格者にて村民の信望を一身に集め、村長に推輓を受け村勢發展に執筆、亦人望高まると共に縣會に立候補して當選、その縣政村治に寄與するところ多大である。當主宗雄氏はその長男、幼より智慮衆に勝れて神童の稱あり長じて群馬縣師範學校に入學、優秀なる成績を以て卒業、後文檢に合格、以來育英界に盡力すること數十年の永きに及びその貢献すこぶる多大、縣下各校を歴勤せし後福島師範學校教諭を拜命し、尙京

境 町

町會議員 荒木亀次郎

現在の我國運隆盛の導火線にて、無事勝戦のうちに平和に戻りし彼の明治二十七年の日清戦役に際し、赤羽工兵隊に屬して勇躍参戦、各戦線に在りては雨と降る彈丸の中に常に第一線に立ちて活躍、

遂に燦たる武勳を

樹て勇名をとゞろ

かし勳七等に叙さ

れたる氏は資性温厚にして篤實なる人格者、先考今朝市氏の養嗣子である。出生は明治元年三月二十二日にて明治の黎明と共にこの世に生を享け、長じて後は専ら家業たる米穀肥料商の繁榮に努めて現在の隆昌を見るに至つたものである。亦自治に寄與せる功勞も尠からず、會て區長を勤めて執掌すること實に二十ヶ年の永きに及び、現在は町會議員三期目の任にありて一身を挺し町發展の爲に奔走活躍してゐる。今や町會の元老として議員には勿論の事、一般庶民よりの衆望するに厚く、人望四隣に普き及んでゐる。長男佳雄氏は今四十二歳の働き盛りにて資性果斷にして明敏達識なる材幹、三男二女の愛兒がある。

采女村

村會議員 大島徳次郎

會て土地賃貸價格調査員として一身を挺して活躍執掌、事績とみにあがり東京稅務監督局長より表彰を受けし氏は先代兵吉氏の男にして、亦我國運伸展へ拍車をかけし日露戰役に際して勇躍參戰、赫赫たる武勳を樹て、勳八等に叙されし勇士でもある。凱旋歸郷後は専心村治、産業の爲に盡瘁、大正十四年區長に推輓を受けてより引續き三期を歴任、昭和十二年四月には村會議員に當選、現任中にて兼ねる學務委員は昭和十年より勤めるもの、その多年に亘る盡瘁功勞實に多大なるものあり、亦氏は温厚にして清廉なる風格を有し、その高潔なる人格は功勞と相俟つて村民の信頼いよ／＼高まり、敬慕の的となつてゐる。因に當家は栃木縣安蘇郡より移住し來りし家柄、家業は農である。庭は實に圓滿にして春の如きである。

剛志村

關東絹毛株式會社取締役 天田清三郎



氣骨稜稜として獨力獨行の氣性に富み、青年時より

努力これ力め、寢食を忘れて活躍、遂に成功、一代にして巨大な富を成し、立志傳中の第一人者と稱され地方民より驚嘆の眼を以て迎へられてゐる氏は亦、社會公共の爲に寄與するところ大、人望自ら翕然と集まり推輓を受けて村會議員、學務委員の任にあり、會ては所得稅調査員としても執掌せし事がある。社會に貢獻する篤行も多く當村青年學校に練習用の機關銃二臺を寄附、亦自動車待合所を獨力を以て建設、尙事業家としては關東絹毛株式會社取締役の職に在りて活躍、斯業界の王者と稱され伊勢崎織物聯合統制

境町

町會議員 富岡光三郎

會長、伊勢崎織物組合副組合長、評議員 齋査員等の業界の重職を勤めて機業發展の爲に盡瘁中、長男氏は元在郷軍人分會長を勤めて功ある材幹、次男氏は立教大學出身の俊英、滿蒙毛織會社に奉職してゐる。

殖蓮村植木

元專賣局技師 下城英三

清光織物工場 我國屈指の織物工場にして全國各地に販路を有し業績日に日に發展を見せつゝある當工場は明治四十一年創立せられのち明治四十五年より昭和五年に至る迄の年産平均約六萬反でおどろくべきものである。最近高級品のみ製産する爲年産二萬反にして、彼の有名なる伊勢崎御召、千代田御召は當工場の發明に係り、製産される。昭和九年には宮中より御買上の榮譽に浴してゐる。従業員は一〇〇人、工場長として瘁瘁するは温厚篤實にして資性清廉潔白なる澁澤道三郎氏である。桐生に本工場を有して電話は桐生二三三六番當工場は境三三番、伊勢崎出張所八四二番である。

境町の舊家と聞える當富岡家は染色業を家業とし創業五十年に及ぶ家柄、其家を先考常吉氏の長男とて明治十六年二月十三日出生の氏は資性穩健、智慮衆に勝れて群をぬきんじ、長じて明治三十七年日露戰役の非常時局に際し勇躍應召、出征して各地に勇戰、遂に脚部に貫道銃創を負ひ、除隊に際して功に依り勳八等に叙された。歸郷後は専心家業に精進、家運を益々繁榮せしめ、その傍ら社會公共の事に意を用ひて執掌、人望を高めて遂に十二年十一月に、町會議員に推輓を受けて現任中、兼ねて區長、衛生支部長、區評議員の任にあり、その事績輝かしいものがある。俊敏の氣象に富む長男氏はいま北支に出征活躍中、當家は父子そろいて國戰に参加せる名譽の家である。家庭はすこぶる圓滿、春風洋々とし、附近羨望の的となつてゐる。

當家はその家系極めて古く數百年を傳ふる由緒正しき家柄にして、先代連三氏は當村々長として且又其の他の公職に歴任多大の功績と巨大な足跡を印した人である。代々地主として當地方屈指の素封家である。氏は嚴父連三氏の長男として岳降し、東京帝國大學農學部の出身である。幼にして、村内に神童を以て稱された。資性極めて清廉にして温雅の風格を持し、その思念の純正高潔なる實に高士の風貌あり、人格圓滿殊に情操豊かにして、地方人士の間に多大の敬仰を受けてゐる。東大卒業後專賣局に入り、鹿兒島市、廣島市等に勤務の後宇都宮專賣局に轉じて勅任技師たり、その該博なる學識と圓滿なる人格は地方産業の上にも大いなる役割を果しつゝあり、その裨益する處甚大である。退職後は悠々自適の中に地方の爲めに貢獻さるゝ思惟こそ、氏

の面目さる處といふべきである。

境 町

町會議員 小茂田才次郎



小茂田 家はもと伊勢町に住し近在切つての舊家と聞

えた家柄であるが、明治の聖代に至りて明治十年當境町に移住、荒物商を家影となして隆盛を見、後現在の書籍文房具商を創め、先代榮藏氏家運興隆の爲、寢食を忘れて努力、當主才次郎氏はその長男に明治十年八月二十七日呱呱の聲を擧げた。資性穩健にして清廉潔白なる人格者中に明晰機敏なる氣性を有し夙に嚴父の衣鉢を襲ぎて家業に精進し、益々家運を盛大ならしめ、今日の繁榮を見るにいたつた。亦それと共に町勢伸展と町民の福祉増進に意を用いて早くより自治に關與

區長として四期を歴任し區民の爲に奔走活躍の勞を執りし事あり、衆望を一身に集めて町會議員に推舉され引續き二期を歴任して現任中、兼ねる納稅組合長としては納稅報國をモットーに執筆、その町勢發展に寄與せる盡力功勞は實に多大なるものあり、自治功勞者として町より表彰を受け、亦納稅功勞者としては東京稅務署より表彰され、今や當町に缺くべからざる人物の一人として町民敬慕の的となつてゐる。家庭は圓滿、淑徳の譽高き豐子夫人との間に三男一女の愛兒あり、二男準三氏は組合病院に勤務し、三男常夫氏は頭腦明敏なる俊器である。



下城家を繼ぎしもので、氏は明治十九年十月三日呱呱の聲を擧げる。資性英邁、温厚篤實なる氏は又明敏にして商機を捉へるに巧みにして、よく今日養父の遺業を繼承し磐石の礎を固めしは、氏の非凡なる手腕による處である。昭和十二年一月株式組織とし、氏は現在、伊勢崎織物同業組合長、同織物工業組合理事長を兼任してゐる。氏の圓熟せる手腕、識見ともに今後を期待すべきである。家庭は貞淑なる令閨才子さんとの間に二男一女があり、長男善哉氏(十五才)は伊勢崎工業に在學中長女宜子さん(十九才)は、東京家政學中在學中である。家庭すこぶる圓滿にして才子夫人は淑徳の譽あり、琴瑟相和し附近羨望の的である。

伊勢崎織物 町 同業組合組合長 下城虎次

當家は二十五代連綿繼續せる家柄にして、赤城神社の本社より神社と共に移轉し代々を神主を勤む。先代榮作氏神官を勤め中途明治十三年より織物工場を創立し、今日隆盛の基礎を造りし功勞者である。

境 町

町會議員 齋藤豊次郎

當家は町屈指の舊家として聞えた家柄である。先代半三郎氏の男として氏は明治十六年九月二十日呱呱の聲を擧げる。資性温厚にして信義に厚く、又一面俊敏にして商機を捉えるに巧みなる氏は、郷土校を卒業後は家業に精勵して齊家修身その圓滿なる人格と情誼に厚き氏は、曩に推されて區長の公職に就き、これに盡瘁貢獻するところ甚大、町民の澎湃たる信望は翕然氏の一身に集り町會議員に出馬するや見事に當選し現在二期を勤め町政の刷新明朗化に盡瘁してゐる。氏はその他、料理店組合長をも兼ねてゐる。家庭は令閨きち子さんとの間に長女すぎ子さん(十三歳)が有る。

産業組合長 宮崎昭一郎

氏は寡黙實踐冗長を好まず、重厚の風

格と該博緻密の頭腦によつて、公共に齊家に眞摯なる格勵をなす。その研究己むなき熱意と誠心温厚の人格は村民の間に比肩なき人望あり。前扶桑會副會長たり現に村産業の動脈否現下農村の生命線たらざるべからざる産業組合に組合長として、其の機能の全的發揮、内容の純化とを期し、組合同業成績揚達の爲めに昨年十二月來夙に盡瘁なしつゝある。當家は當地方の名門にして、祖父有啓氏は初代の群馬縣會議長として、縣政上に巨大なる足跡と功績を致し、其氣宇の大、手腕の豪放、細緻の思慮はその高潔なる人格と共に高士としての普ねき瞻仰を受けた人である。又嚴父有親氏は南洋マリアナ群島に椰子の植林事業に活躍せる、我國南洋拓殖の先見的役割を果した太き偉材である。實弟氏は豫備陸軍大佐であり、實に一家族悉く一家を爲すの巨材、氏も亦大日本農會より農事功勞者として表彰された、農業經營の權威ある専門家たり實に産業組合長の最適任者を得たるもの

境 町 町會議員 金子仲次郎

當町織物業界の重鎮との稱あり、いま伊勢崎織物工業組合理事長の重職を勤めて斯業界への貢獻多大なるものある氏は明治二十年一月二十六日先代助治郎氏の長男に呱呱の聲を擧げた。因に當家の家業とする織物業は五十年前の創業に係り、當町織物業の先驅をなして、今日の伊勢崎の名を全國に弘めた功勞ある家柄である。宮内省より御買上の光榮に浴せし事もあり、業績いよ／＼伸展するばかりにて、今やその途次にある。仲次郎氏は斯業界に貢獻するばかりでなく、町勢發展にも寄與多く、推輓を受けて町會議員を歴任する事三期、今その任に在りて一身を挺し盡瘁なしつゝあり、その事業家と

しての手腕は自治にもめき／＼頭角を現はして名聲いよ／＼擧り、その努力止まざる精進振りは圓滿潤達なる人格と相俟つて町民尊敬の的にて、庶民の範となるもの、今やその一擧手一投足期待を以て囁目されてゐる。家庭は春風洋々として圓滿、内助の勞多く淑徳の譽あるるい子夫人とは琴瑟相和し間に政志君がある。

伊勢崎町

本間億次



伊勢崎生糸株式会社社長
氏は佐波郡東村須永武助氏の三男にして明治七年七月二十日生れ、先代三郎氏に懇望され當本間家を繼いだものである。先代本間三郎氏は元代議士にして又當家は代々念流の劍客者たる家柄なり。氏の生家須永家の千代吉氏は現貴族院議員である。氏は

夙に町政に意を注ぎ、區長を永らく歴任し又、町會議員として多年町政に盡瘁せし功勞者である。現在氏は伊勢崎生糸株式會社々長の重職の外、伊勢崎信用組合長、伊勢崎倉庫株式會社取締役等を兼ねてゐる。家庭は、よね子夫人との間に四男二女在り、長男貞吉氏(三十八歳)は中島飛行機製作所に勤務中、二男幸次郎氏は商科大學卒業安田銀行に勤務、三男健三氏は福島高商を出て東京オリエンタル行母株式會社勤務、四男敬造氏は帝國大學工科に在學中、又長女今子さんは森邦比古氏に嫁し、二女まつ子さんは、大澤一郎氏に嫁してゐる。家庭は春風駘蕩の和かさである。

町會議員 齋藤幸太郎

國勢の發展は地方町村の伸展如何により左右されるものであるが、その國政の一分子たる町自治に參畫して努力寄與大なるものある氏は先考徳次郎氏の長男に

る。他に一男二女あり家庭頗る圓滿春風洋々としてゐる。

境町

町會議員 金谷道太郎



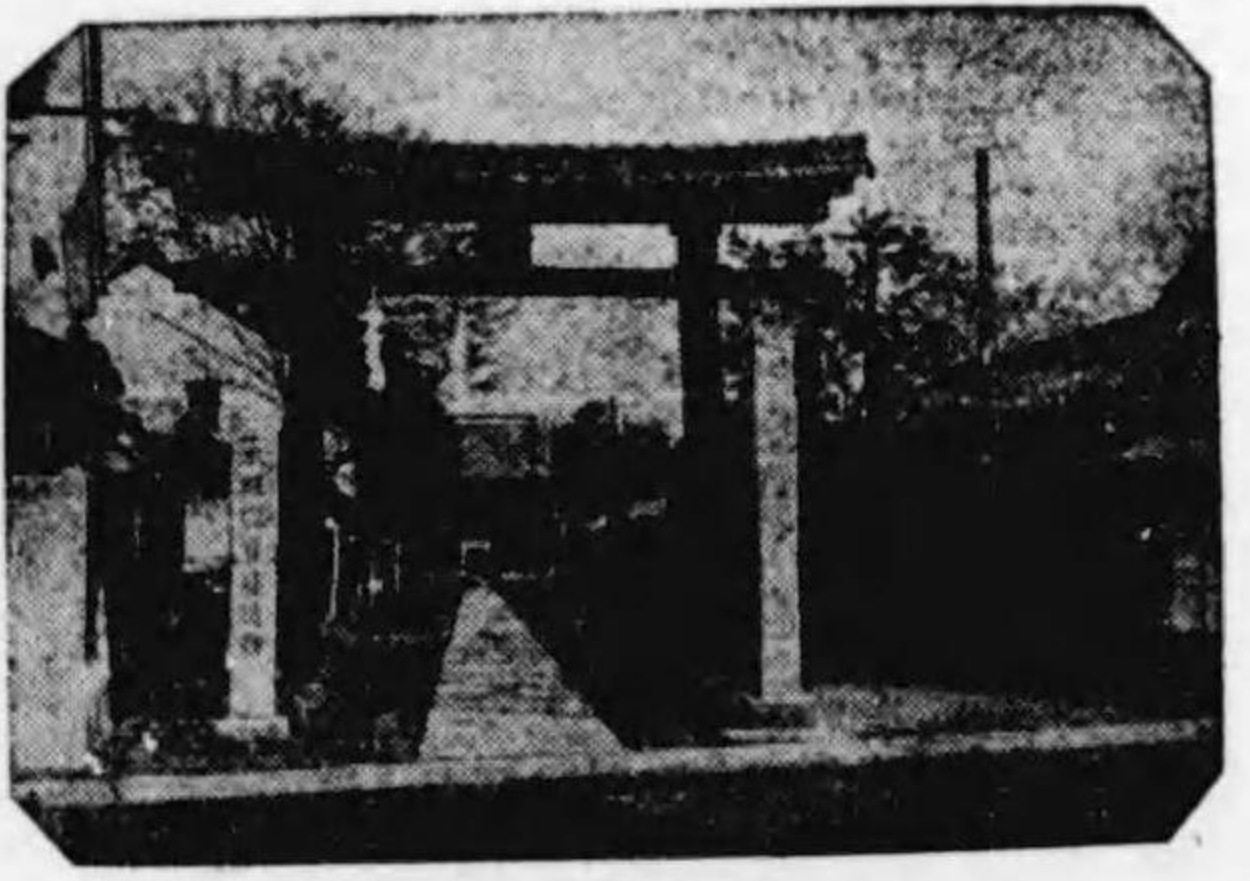
資性穩健にして智慮衆に勝れ俊敏の氣性に富む氏は

に町自治に關與、町會議員に推轡を受け以て來歴任すること二期、現にその任にあり、議員中の年少者であるがその語るは正に熱と意氣そのものであり、議員中の白眉と稱讃を浴びその將來は町會を背負て立つ材幹として一擧一動期待を以て囁目されつゝあり、愈々町民の福祉増進の爲に活躍邁進の勞を執つてゐる。亦、米穀組合長の任にありても斯界發達の爲に執掌努力、その活動振りは町民等しく驚嘆して已まざるところである。才媛の譽高きまつ子夫人との間には二男子あり家庭は圓滿である。

玉村町

縣社 玉村八幡宮

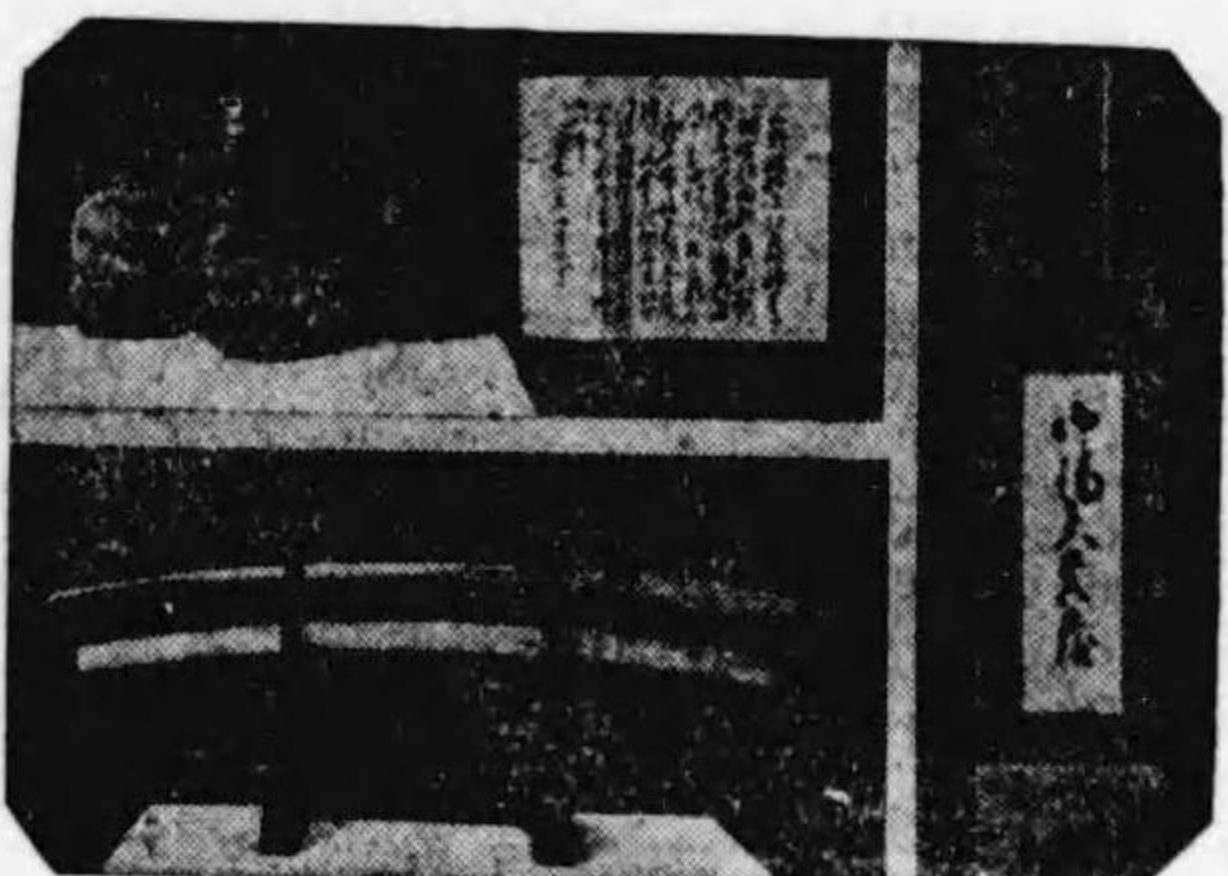
鎌倉右府源頼朝公新田館より三原に赴く途中この玉の里を過ぎ「往昔神功皇后海中に如意珠を得給ひ征韓凱陣ありて宇瀨の里にて天皇を安々と御産せ給ふ」とある玉のゆかりに依り歸府後、寵臣上野奉行安達藤九郎盛長をして玉樓を建立せ



大島居と拜殿

勸請鎮座せられしを起源とする常社はその御祭神は弓矢の神殖産興業の神たる譽田別命にして氣長足姫命、比咩神外十五柱を配祀する。古くより武將の崇敬厚く源頼朝公を始めとし屢々御社殿の造營あり、慶安二年以來徳川幕府累代朱印地三十石を寄進、酒井雅樂頭は毎月參詣、明治に至りて四十一年十一月近衛師團機勳演習の際、東宮に在らせし大正天皇長く

しめ 建久 六年 乙卯 八月 十六 日 八幡 神の 別御 魂を

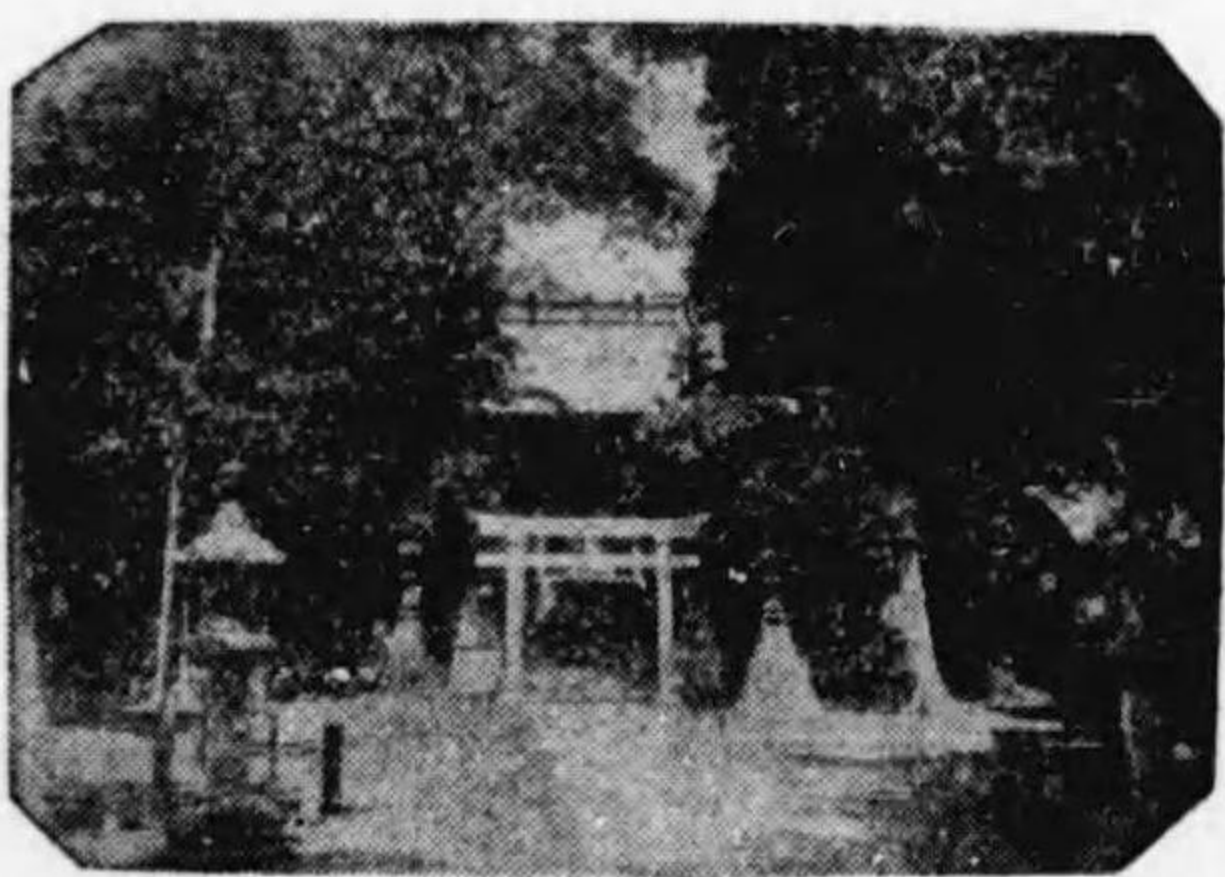


寶物の数々

も諸官を率ひて御参拜御休憩あらせられ昭和九年十一月に本殿は國寶建造物に指定せられてゐる。寶物として藏するは御神號軸、圓頓章軸各一幅、菊一文字太刀一口、その他多数である。縣社に列せられしは大正十四年九月二十一日のこと、毎年十月十六日例祭を執行し、亦六十年毎に特殊大祭を行ひ世にこれを御開帳と稱す。末社は巖島神社、五神社、日枝神社、春日神社、外五社に及ぶ。氏は一町二ヶ村に互りて約一千二百戸である。

采女村伊與久

郷社 雷電神社



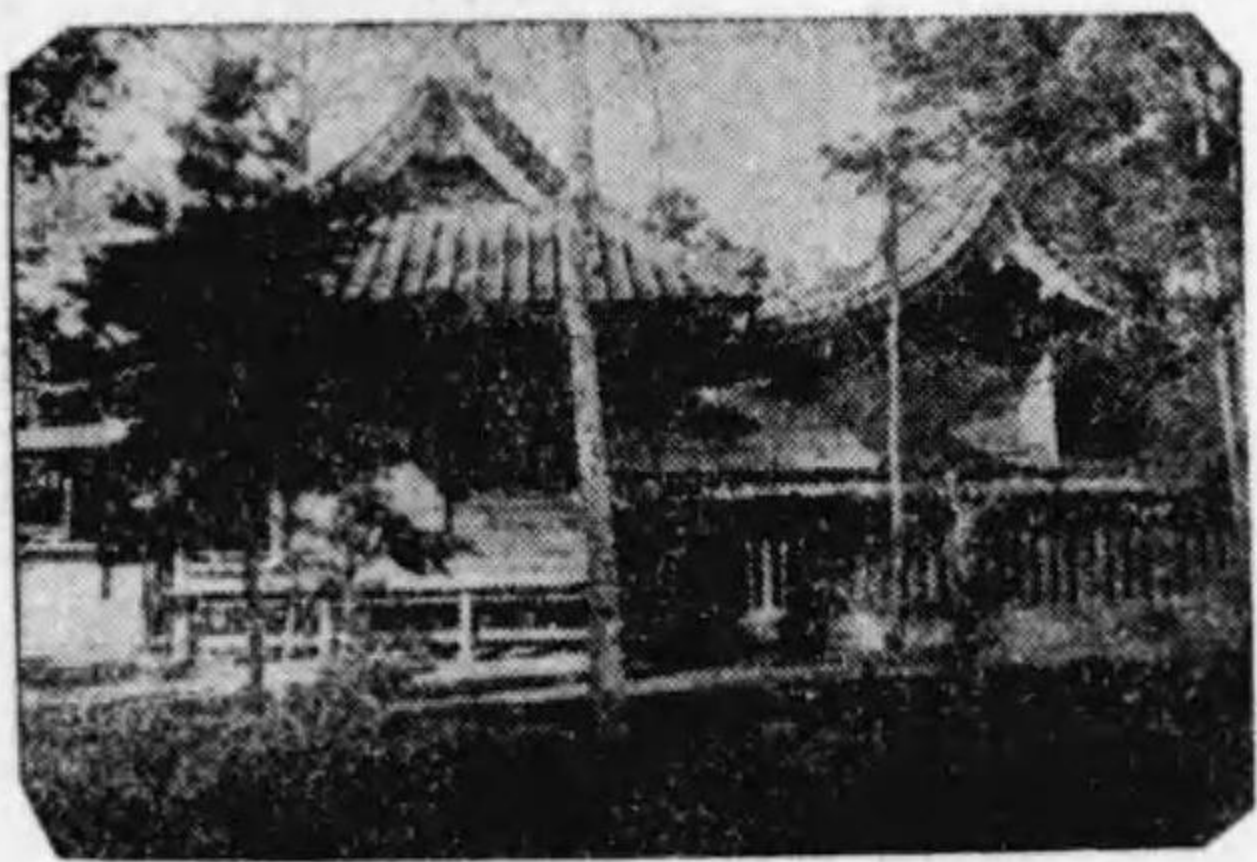
神社全景

尊敬せらる。然れば、古來崇敬者頗る多し。關東、北に互る。

は陸軍特別大演習御統裁の爲、聖上陛下行幸の御御幣帛料御奉納あらせられた。その由緒の深きを語る社殿は建久六年源頼朝公寶殿玉宮を創建せしに初まり爾來二百有餘年次第に風雨の爲損傷の度を加ふれば慶永十八年關東管領島山滿家再興その後久しからずして祝融の災に會ふて炎上。その後度々武將再建し、現在の社殿は永正四年の造營なりと傳へられる。

當神社の御祭神は大雷命、高於賀美神外十三柱命。當社は古來靈驗頗るあらたかにして、雷災除けの御神符を懷中せば婦女子と雖も決して恐ることなく落雷の災なし。又蠶神として馬の脊を納むる物多く特に病惱を救ひ雨乞ひの御靈驗も著し。尙本社は家内安全農工商繁榮は勿論雷災除、病氣平癒、養蠶倍盛、開運、祈雨、蟲除け等、萬民幸福の守護神として

去る文化三年及明治二十一年又大正十五年の正遷宮式大祭典には非常なる殷賑を極め今尙人心に新にして、地方神社崇敬者の中心たり。從て百數十年前より近縣は勿論遠地より講社を結びて來拜する者に多きを加ふ。當社の御由緒は、順徳天皇の御宇建保三年（昭和十三年より七百二十二年前）赤石城主（伊勢崎）三浦之助義澄山城國加茂大明神を勸請す。新



幣殿神樂殿 殿備はり基本財産は千圓、田畑八段がある。例祭



妙眞寺の景

念珠の得難き三點を賣物と藏する當寺は開創すこぶる

田義貞の一族鎌倉出陣に際し當社に祈願社殿を造營せりその裔岩松萬次郎又當地伊與久地頭伊與久彈正正久及伊勢崎城主等の崇敬篤く社殿建立諸寄進の事あり。特に藩主酒井下野守忠寛は守護神として篤く奉齋し參勤中江戸邸内に其分靈を奉齋せり。昭和五年郷社に昇格す。祭日、春祭一月二十五日、新年祭二月二十五日、列祭三月二十五日、夏祭七月二十五日、秋祭十月二十五日、新嘗祭十一月二十五日、月次祭一日、十五日、二十五日、社司は五十嵐留吉氏、氏子總代は、松村行雄氏、田島丑太郎氏、古澤雪松氏、五十嵐幸平氏、眞下善次氏、櫻井巖氏の諸氏である。

名和村堀口

村社 飯玉神社

村社に列し豐受大神、大國魂命を奉祀す。安閑天皇元年の創建と傳へらる。武神にして、また農神である。その御神徳はあらたかである。本殿を始め、拜殿、

は十月十九日に行はれ、古來傳承久しき神儀が營まれる。閑院宮春仁王殿下の御参拜があつた。氏は三百戸、現任社掌は中根重忠氏であつて、誠心誠意を傾けて奉齋してゐる。

采女村淵名

妙眞寺

般若心經及び弘法大師の御眞筆、水晶

古く正慶二年の創建にして、開基は淵名妙眞尼、地名及び寺號の起りはこれによるもの、當地方屈指の古刹と稱され、本堂、庫裡、山門、鐘樓等がある。毎年の節分會には五〇〇戸の村内檀徒は勿論、近在より多くの信徒が参詣し、頗る殷盛を極める。總代として一身を挺して執掌するは人格高潔にして村民の信望頗る高き大橋良平氏で、權少僧都三品宥勝師が

現住職としてひたすら寺運興隆に意を用ひてゐる。

東 村

長 安 寺

文應年間、亮海法印の開創に係る當寺は天臺宗に屬して阿彌陀如來を本尊とする。寺内には善光寺如來の分身あり相當由緒の深きを語つてゐるが、その沿革は不明、伊勢崎華藏寺と本末關係にある。御本尊の阿彌陀如來像が寶物となつてゐる。檀家は二〇〇戸、總代として盡瘁するは糸井徳太郎氏外六名にてその貢獻多大



高潔なる人格の持主、近在に聞える善知

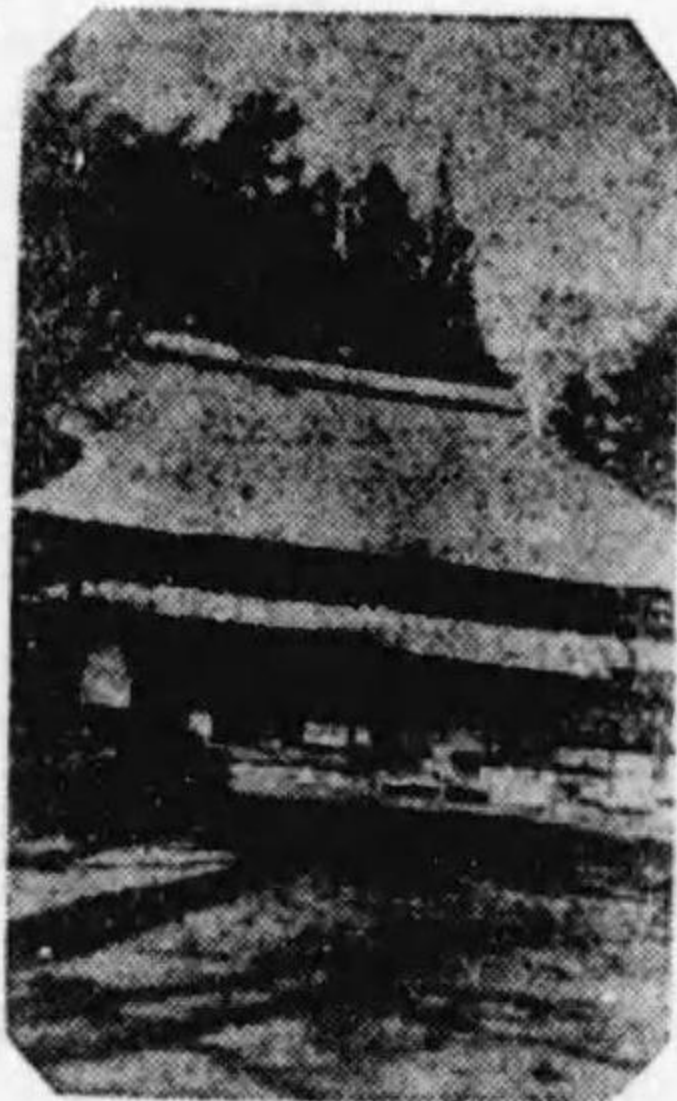
住 職 當住職として寺運の興隆に意を用ひて鋭意して努力

するは中 律師林晃 善師である。師は資性英邁にして、

殖蓮村神谷

順慶山雲晴院

當寺は阿彌陀如來を御本尊とする淨土宗鎮西派の古刹である。其の由來沿革は天保十二年十二月の火災の爲めに諸記録諸古器などを烏有に歸し詳かでないが、開基は法連社傳譽の道上人で、開山は渡邊富次氏である。京都知恩院の直末にして、鐘樓、庫裡等の堂宇も揃ひ靜寂の靈



域をなしてゐる。境内千二百二十四坪に及ぶ京都知恩院の直末寺、古き作になる本尊像並に鐘を秘藏してゐる。檀家八〇戸で、現在は無住であるが、近く知恩院よ

り有徳の師を任命される筈である。

剛志村小柴

福 壽 院



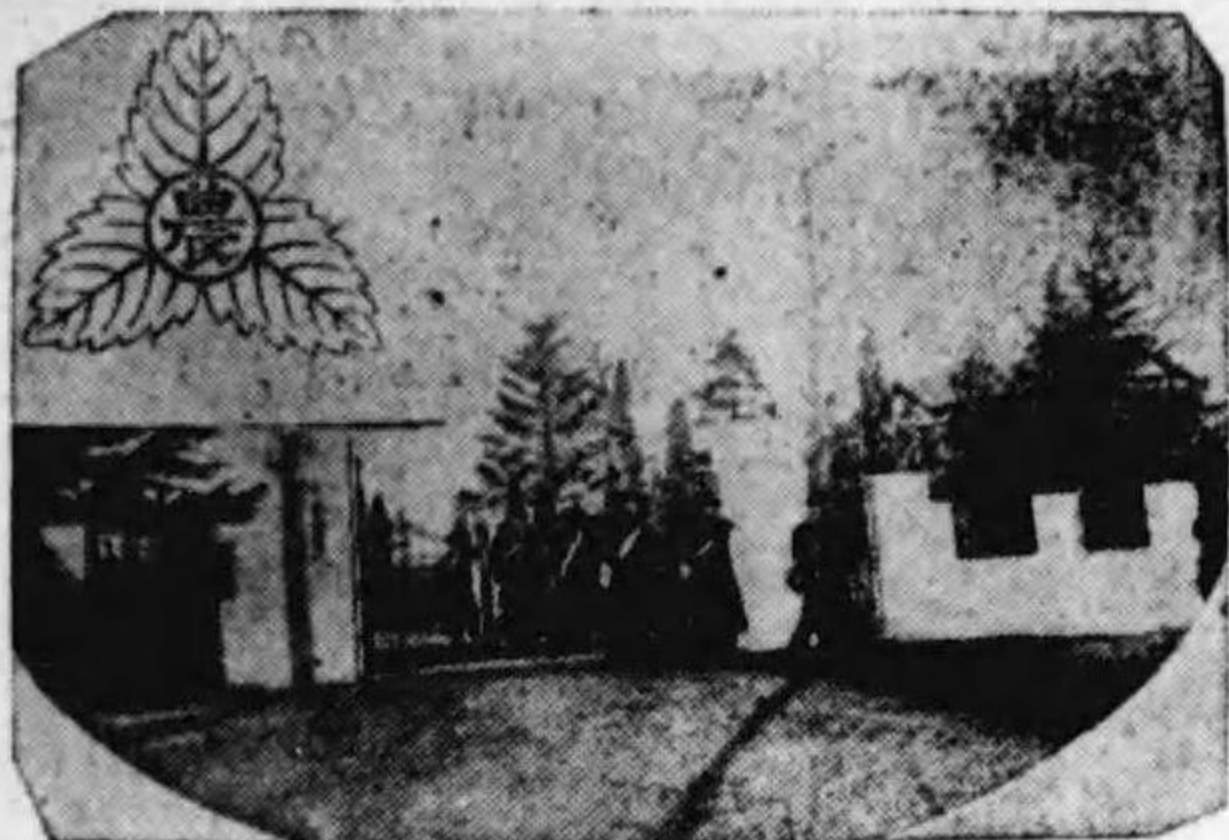
大 長 延 澤 年 八 月 獨 住 朗 日 圓 大

和尙の開山に係る當院は新義眞言宗豐山派に屬し阿彌陀如來を本尊とする。元祿三年八月能登國領主小柴左衛門長光の信仰頗る厚く小柴家の祈願所となる。境内面積九〇〇坪、本堂、庫裡、鐘樓、山門等が立並ぶ。檀家は二〇〇戸に及び、現住職として盡瘁貢獻するは大澤昭恭師である。師は眞摯敬虔なる人格者にて中に清康潔白なる風格を有し、檀家信徒は勿論の事、一般庶民よりの信望頗る厚き善知識である。

利 根 郡

利南村戸鹿野

利根農業學校



門 正 校 學 と 旗 校

本校は大正八年三月二十七日郡立乙種實業學校として創立し、利根郡立實業學校と稱した。同年十一月利根實業學校と改稱して未だ假校舍によつて授業を爲したが、大正十年三月群馬縣利根農業學校と改稱し九月新校舍の竣工を見た。大正十二年には縣に移管され群馬縣立利根農業學校と改めた。大正十五年三月甲種實業學校となつた。卒業回数十七回七百餘名に達し、縣下農事研究の實踐樞軸として萬全の機能をなしてゐる。本校の教育主眼とする處は聖旨を奉體せしめ、公德を擧げてこれが實踐と愛農精神の確立に向つて沼田校長以下十五職員の眞摯なる活動が見られる。又農村青年子女に對する誘導を目的とする講習會が開設せられ

る。殊に本校の特色は華を去り形式を排して實に就き、行の體顯を主眼目とする農民精神の能動的養成をなすことにあり校内施設に或は指導にこの精神が全的に一貫してゐる。本校の功勞者としては本校創立當時の郡長野中富三郎氏を第一として初代校長藤井節三氏の貢獻も亦大なるものがある。

校 長 氏は沼田町の舊大家先代沼田音吉 瀧三郎氏の三男として岳降す。明治三十七年群馬縣師範學校を卒へ明治四十二年



東京帝大農學部附屬農業教員養成所を卒業して明治四十五年館林農業學校創設と共に就任した。教務主任、實習主任として大正十二年小泉農學校と改稱される迄其の設備に教授に具さに體驗を積み併せ同校の基礎確立に大いなる足跡と功勞を

残した人、大正十三年本校に赴任して再び本校の今日あらしむる爲めの寧日なき努力を累ねた實に縣農業教育の父ともいふべく、その功績は氏の圓滿なる人格と共に多數人士の間に信望を高からしめてゐる。現在校友會長、同窓會長、郡農會顧問、利根農業教育研究會顧問、利根蠶業研究會顧問に推され、學校のみならず利根郡農事の爲めに献身的努力をなす。家庭は夫人との間に三男二女の子福者にて長男氏は本年東京醫專を卒業し、二女は教師、三女さんは高女在學中で一家常に春風團圓を極めてゐる。因に從五位勳六等に叙されてゐる。

沼田町

沼田尋常高等小學校

電話沼田六三番

長期抗戰下の非常時局にそくした國民精神確立、體力増進と保護鍛鍊、愛郷心養成と穩健中立の精神涵養その他の教育方針に基いて荒木正恭校長外五十一名の

職員一致協同し、専心次時代國民の養成に邁進してゐる當校は、明治七年の創設に係り、開校當初は倉内小學校と稱し、同十八年利根小學校に同十九年に沼田尋常小學校に改稱し、明治二十六年現在校名に改め、その間五回の校舍増築をなし

て現在に至りしもの、學區は當町一圓に及び、卒業期數を累ねること四十期、六六七六人の尋常科卒業生を出し、高等科は二三人である。出身者中には久米民之助、山田寅次郎、生方敏郎、原澤仁齊その他の諸氏あり、尙特記すべきは當校の衛生施設及び週訓の實踐、高等科日直兒童の活動等にして、衛生設備として看護婦を常置し専用衛生室を設け、急救治療に遺憾なきやうつとめ寄生虫驅除にも努力する。亦競技もなか／＼盛にて、柔劍(體育増進として)陸上、野球、庭球、籠球、排球の六部に分れ、柔、劍道は縣師範大會に於て優勝してゐる。現校長として執筆する荒木正恭氏は資性溫厚篤實にして高潔なる人格者その寄與貢獻する

もの多大にして兒童よりは慈父の如く慕はれ、町民間には彼の人ならばと信頼の念を寄せられ、衆望すこぶる高いものがある。

古馬牧村後田

古馬牧信用販賣利用組合

當組合は昭和十二年一月の創立として従前ありし小組合の現下農村の時潮に伴ふに不便なるを痛感された爲め、之が解散を爲し、眞に當村産業の樞軸たり得べき系統的組合の組織を爲すべく、松田富三郎現組合長始め榊潮儀左衛門、増田徳郎の諸氏協力して遂に其の設立を見たものである。出資總額一萬七千七百圓、組合員數四一三名、貯金二千五百五圓五十錢、十二年度購買價格一萬六千七百九十三圓授托販賣五千四百餘圓、農倉一棟にして未だこの當組合が、内容の徹底的純化維持と基礎の擴大確固を將來に囑しつゝ役員以下組合員の協心戮力によつて、優秀なる足跡を残すならんことは期して俟た

る。なほ當組合創立に當りその發起主唱者としての増田喜市氏の功勞は特記に値するものがある。

組合長

當家は開祖以來八代松井田富三郎を傳へ村屈指の舊家たり、又素封家として廣く知らる。先代三右衛門氏は地元總代其の他の名譽職を爲し人望のあつた人である。富三郎氏はその長男として、明治五年一月十五日生れた。夙に齊家修身に努め、又村治産業の上に眞摯なる思惟を以て臨む。曩に村會議員、區長、消防部頭として貢献多く、志操強健、溫厚の人格を未だ壯者を凌ぐ豐饒の熱意は村民の間に崇敬され、組合設立に淬勵して創立さるゝや、其組合長に就任して益々精勵を爲しつゝある。又學務委員を兼ね。消防に二十年勤続し表彰されてゐる。家庭ははる夫人との間に一男二女あり、頗る圓滿を極む。

水上村湯原

水上郵便局

當局はその歴史頗る古く、當初は郵便取扱所であつたが、明治十九年水上郵便局と改稱して今日に及んでゐる。事務の開始は内外電信事務は明治七年十二月にして、内外爲替事務開始は明治三十三年である。郵便取扱等は一ヶ月約二萬、電信取扱一ヶ月一千位、保險一千三百圓餘となつてゐる。局員は男子七名女子三名にして、局扱成績、三十年勤続まで遞信大臣より表彰されてゐる。明治六年開局當時の局長は鈴木治郎兵衛氏である。

に村自治方面にも關與する處あり、曩に村會議員、青年團長、在郷軍人分會長、國勢調査員等を歴任して貢献多く、現在郵便局長たるの外村會議員として村治の上に盡瘁する。殊に水上村の觀光方面發展の爲め大いに努力せんと企圖してゐる人格溫厚明朗にして敬神崇祖の念に厚く殊に慈味溫雅の風格は村民の間に信望がある。趣味は園藝と讀書である。家庭はちか子夫人との間に長男昇氏(沼田中學卒)、慶應大學在學中の二男達君、文化女學院卒業の才媛千枝子さんなどの二男一女があり、頗る和樂の家たり。

水上村小日向

旭鑛山工業所

國家の財源である金銀銅鉛亜鉛鑛を採掘し、地質は中世紀の守山岩と石英斷面岩で、方位三百二十度より三百五十度の間交叉する鑛脈を有する當鑛山はその採掘年甚だ古く沼田藤生が銀鉛を採鑛せし事あり、その後明治四十年頃關重吉と稱

する者銅鑛石を採鑛し製鍊し、大正五年に芝義太郎亞鉛鑛を採掘、而しそれはいづれも小規模なるものにてその後全く出願なきところ、昭和十年の秋、此地の湯原の温泉に遊び居りし平井銀藏氏が不圖した機會より有力鑛脈のある事を發見昭和十一年九月面積七十八萬五千八百坪を出願、舊採鑛なせる所二十三ヶ所ありしが新に五ヶ所を採鑛し現在に至るもの、鑛石は重晶石と石英と共に隨判し、岩面に接して鑛床あり、曾て採鑛せし跡を見るに大なる富鑛帯も存在してゐた形が判明、鑛道は三百六十尺程度のもので、四月末に遂にこの修繕工事が完成され、今や平井銀藏氏を初め従業員一同、山の中腹より下部にかけて累々たる金銀銅鉛鑛の富鑛帯を的に晝夜分たず全員努力、採鑛に邁進してゐる。

技手 旭鑛山工業所技手として**平井銀藏** 國家の財源増大の爲なればと一身を挺し努力奮闘しつゝある氏は資性果斷、而して獨力獨行の氣性に富みて

潑刺たる氣概を有する材幹、明治二十八年三月二十八日今は亡き春吉氏の長男に健やかな呱呱を擧げた。福井縣大野郡下味見村出身にて郷校卒業のあたり、當家先々代氏が田畑を賣つて迄も努力して開坑せる鑛山を尊父と共に見學、その時、心に深く感じるものあり祖父の苦心せる事業の萬分の一でもと堅く心に誓つて、遂に春秋に富む生涯へのテープを切つた永らく岩間豊吉先生に就いて研究、地質學、鑛物學は獨力を以て圖書館に於て學び、大正三年嚴父の長逝に會ひしが志を曲げず遂に探鑛を開始、後ち大正十三年福井市高橋長之助氏の鑛山部に技手助手として研鑽を積み、昭和七年三月木村政太郎の推擧に依り宮川敏樹先生の鑛山部に技手を奉職、而し昭和九年宮川氏の死亡に會つて後は獨力を以て探鑛、遂に當鑛山探鑛を決し昭和十二年七月双葉鑛業社に技手として當鑛山に勤務、現在に至りしものである。家にはます子夫人との間に二男二女がある。



沼田町材木町 縣會議員 從七位勳六等 高山 和助 電話沼田三六五番 當家は開祖以來六百有餘年を開する素封家にして、

現邸宅は四百年前の建築に成るものである。氏は明治十六年九月十三日を以て吉野忠次郎氏の二男に生れ、同四十年先代良吉氏の養子となつた。養父は名主、戸長をはじめ、片岡村收入役、助役、村會議員三期をつとめた自治功勞者である。氏は郷費卒業後、警察協會全國警察官講習所に修業し、群馬縣警部、地方警視、警察署長、保安課長を歴任、警察署長時代、重大犯罪の檢擧のほか、各種の爭議や暴動事件の解決に努力し、保安課長當時、新田郡世良田水平社燒打事件をはじめ

め、桐生市國粹會大賭博事件、その他の大檢擧に相當の業績を擧げ、縣下檢察界の敏腕家と賞讃された。日露戰爭の時は近衛騎兵にて出征、沙河、奉天附近に參加し、前進して各地偵察戰には拔群の功績を樹てた。現在は縣會議員、利根畜牛馬畜産組合長、保證責任利根蠶繭販賣利用組合長、利根製絲所社長の要職を兼任して事績顯著なるものあり、また郡友金融顧問に擧げられてゐる。立憲政友會の主義綱領に賛同し郡自治をして隣佑團結の實あらしめ、産業開發、交通機關の完備、耕地開墾擴張を計り、食料問題の解決を期して、活躍頗る著しきものがある。捕財賞與五十六回、その他表彰されしこと三十數回の多きに及んでゐる。資性温良なる一面霸氣滿々たる熱情を有し且つ剛毅果斷のところもあり、言語明晰動作機敏、才智縱横にして衆望四隣に轟いてゐる。趣味は乗馬と圍碁である。家庭には養父良吉氏、令閨花の井さん、次男學氏、三男操氏あり、夫人は愛國、國

防兩婦人會分會幹事として重きをなす。

沼田町沼田

前縣會議員 正七位

佐藤 金松

電話沼田三四〇番



奇才縱横、思慮綿密なる氏は、奮闘努力により立身

成功したる人にて、郷黨の間に信望あつく、高風は現代の儀表と稱される。抑々佐藤家は約二百八十年を経る素封家にて代々農耕を專業として今日に至り、氏は明治十二年二月十五日を以て新潟縣に出生、長じて佐藤喜左衛門氏の養子となつた。夙に明治三十八年警視廳巡查を拜命し、勤務の傍ら日本大學法科に通つてこれを卒業、同四十一年新潟縣巡查部長に任じ、次で警部補、警部に累進、大正三年には同縣十日町警察署長、同縣巡查教

習所長となり、同年八月群馬縣警部に轉じ、高等課長、保安課長、警務課巡查教習所長を歴任、大正八年には群馬縣警視となり、高崎警察署長を拜命、越えて同十年三月より十三年十月利根郡長をつとめ、在任中郡内米産額僅か四萬石内外にて、住民の經濟は養蠶の收益により左右されてゐたが、氏は陸稻による米の自給方策を確立し、爾來陸稻栽培は年と共に増大し、當初百町歩内外なりしものが、今日では千數百町歩に達してゐる。大正十五年沼田町長に推され沼田中學校改築沼田町上水道設置費の國庫補助、沼田公園の開設、群馬銀行並に上州銀行の救済等幾多の事績を残して昭和二年辭職、次で縣會議員に選ばれて縣政界に重きをなした。また利根郡聯合青年團長七年をつとめ、現時利根林産販賣利用購買組合長、利根郡畜産組合長、産組郡部會長を兼任するほか、政友會振興會及び在郷軍人分會の顧問として寄與貢獻多からず、家庭には利子夫人との間に二男三女を有し

至幸至福の生活を送られる。

沼田町沼田

沼田町長
町會議員



清水 彌平

その人を覆ふ雰圍氣、過去に於ける不朽の功績は、

村民大衆の心奥に、一味多光の閃きを與へず措かぬのは、わが清水彌平氏の存在であり、求めずして重んぜられる所以である。遠慮深謀にして謹嚴實直、その謙恭なる人格は、實に自治首腦者として稀に見るところであり、識見高邁にして頗る炯眼、英才と謳はるゝも當然であらう。清水忠兵衛氏宅より分家二代目に當り、明治三十二年三月六日を以て初代此衛氏の長男に生れ、沼田中學校を抜群の成績で卒業後、初め農業に従事したるも後、質商に轉じ今日に至つた。夙く自治

界の人となり、町會議員二期、名譽助役一期、消防組第四部長、青年團々長、方面委員、金錢債務臨時調停委員、學務委員、町農會顧問に歴任し、現時町會議員三期目をつとめ、且つ町長の重責に就いて夙夜盡瘁するほか、群馬縣町村長會利根郡支部長、在郷軍人分會顧問、勝地協會利根郡支部長を兼ね、曾ては紛議の絶え間なかつた沼田町を、受難に受難を累ね、寢食を忘れて平和協力の町への更生を圖り、遂に今日の圓滿なる町政を行ふことに成功せるほか、沼田小學校増築工事その他の難事業を多數遂行せる力量と手腕の持主であり、曩には日清日露兩戰役以來の戦傷病死者の靈を慰むべく、沼田公園内に碑を建立し、銃後國民の意氣を振作するに與つて功多かつた。稅務監督局、縣知事より表彰を受け、日本赤十字社からは有功賞を授與されてゐる。趣味はスポーツ、殊に野球、ピンポン、テニスに鍊達である。家庭には母堂健在し千代夫人は愛國婦人會分會長、國防婦人

會副分會長をつとめて令名高く、長男は沼田中學に在學中、長女幸子さんは沼田高女在學中、他に二女ツヤ子さんがある。

白澤村平出

白澤村長 小野 保義



軒昂たる意氣を以て白澤村政を執掌し、事績大いに

賭るべきものある氏は、先代小野啓藏氏の長男にして明治二十三年四月二十六日の出生である。尊父は農業に従事しつゝ、収入役その他の重責に推され、村のため盡力尠ならず、自治功勞者として敬慕される。氏は沼田中學校の出身である。恭儉己を持して他の範となり、志操堅固資性機敏、夙に自治産業等のことに關與盡瘁し、収入役、消防組頭、信用組合理事を歴任した。實行力のあること村内第

一といはれ、現在は白澤村長に選任されるほか村農會長をつとめ、嘗ては政友會の闘士であつたが、今は全く政黨關係を離れ、一黨一派に偏せず、自治の圓滑なる運用と村勢の撓むなき躍進を目指し、舉村一致の實をあげてゐる。多年役場勤務の功により表彰を受けしことあり、一方濃厚誠實の人として村民の信望があつた。夫人は愛國、國防兩婦人會の分會長に擧げられ、稀に見る賢慮の婦人と稱される。

白澤村助役 鶴淵伊勢松

鶴淵家は桓武平氏三浦黨の後裔にして平内左衛門盛俊鎌倉に出仕し、始めて鶴淵姓を名乗り



降つて沼田家の重臣鶴淵左衛門入道、同左京進、同三郎兵衛、同六郎左衛門等あり、沼田氏滅亡後は農となり、世々名主をつとめ

た。氏は先代重右衛門氏長男にして明治十八年十二月二十三日の出生、助役並に白澤信購販利組合理事を現任し、副業の改良を圖り、耕地整理組合を起して三澤五十歩の開田事業及び耕地道を完成、郷土史を編纂するなど業績頗る多く、趣味は俳句、和歌のほかに考古學に通じ、縣兵事聯合研究會より表彰を受くるなど、木村の偉材である。

古馬牧村師 増田 喜市

古馬牧村長 増田 喜市



當家は村内の素封家増田本家より分れて三代を關し

氏は明治六年十一月七日を以て生をこの世に享け、長じて増田嘉與吉氏の養子となり今日に至つた。養父は區長に擧げられて部落のため各種施設を遂行し、衆庶

福祉の増大に多大の貢獻ありし人望家である。氏は家督相續後、専ら農耕の業に精勵して家運を盛大ならしむると共に、村會議員三回、村長二ヶ年、區長永年をつとめ、村政の改革、村治事務の刷新に多大の努力を拂ひ、現時、専ら村長に任じ、多年の宿望と抱負とを村政に活かして横範村古馬牧村の建設に邁進しつゝあり、氏が村長就任以來、本村勢は文字通りの躍進を遂げ、國民精神總動員の如き殊に順調良好なる成績を收め、村内各會合には必ず伊勢大廟、皇居を遙拜し、神社の清掃參拜もよく行はれ、國家主義精神の強調は着々としてその實績を擧げてゐる。氏は資性溫順にして言語明瞭、舉措極めて沈着、村民の信望あつく、今後の活動は倍舊の期待を以て囑目されてゐる。趣味は和歌、秀麗の句調、嶄新の表現、幾多秀歌を示してゐる。家庭には嗣子のほか令孫四人を有し、和氣に溢れてゐるが、今後はいや榮えに榮えてゆくばかりである。

古馬牧村後閑

古馬牧村 助役 佐藤 元三



資性温雅の一面 毅然たるところある氏は、天稟の創造的才能と熱烈なる郷土愛とを有し、人に接しては懇懇丁寧、事に當つては綿密周到、衆望をあつめて名聲赫々たる光茫を放つてゐる。抑々佐藤家は、開祖不明なりと雖も相當由緒ある舊家名門にして祖先是名主、戸長、區長等をなしたる名望家である。嚴父權平氏も村長に選任、村治上偉大なる足跡を印せるほか村會議員その他の公名譽職を永年勤績し、温容稀に見る義徳の人であつた。氏はその五男にして明治二十一年十月十日を以て健康な呱呱をあげ、郷校卒業後は、父を扶けて農蠶の業に夙夜精勵し、模範青年と

賞讃され、青年時代から大器の士といはれ人望があつた。郡養蠶指導員に任じて勤績十ヶ年、郡下養蠶業の改良發達に貢献せるところ絶大にして實に郡内養蠶業の今日ある盛況は氏の努力と献身的奮闘の賜物といふも過言でない。さればその指導実績良好なるの故を以て縣農會より表彰されしは當然である。また利根郡農會總代二回、消防組頭永年をつとめ、現時古馬牧村助役に推されて手腕を發揮しつゝあり、ツル夫人とは琴瑟相和し、長男菊三氏は群馬師範を出て川田小學校訓導拜命中、長女篤子さんは文化女學校出身、他に一男五女がある。

水上村綱子

水上村長 阿部豊次郎

剛毅果斷なる資性を有し、自治に關しては卓拔な手腕家である氏は明治十三年十二月十八日先考圓之助氏の長男に呱呱の聲を擧げた。幼にしてすでに頭腦明敏夙に俊英の名を以てその名近在に普く及

び、長じては家業たる農に精進すると共に自治公共の事に關與、その優れた手腕はめき／＼と事績に現はれて村民みな驚嘆の眼を以て迎へ、その勤めて執掌するところ役場に入りては書記より助役に、助役より村長に推輓を受けしは大正八年の事、退職後は村會議員二期を歴任、いま尙ほ二度目の村長の重責にあり、兼ねて當村信用組合の組合長、農會長その他の任に在り、永年に互る盡瘁寄與すこぶる多大にして、村内重要道路の開拓、學校講堂の建築等は實に氏の献身的努力によりてなりたるもの、氏はまた、政友會に屬して副會長として活躍する闘士でもあり、衆望は自ら翕然と集まり、村民仰慕の的となつてゐる。因に當家は開祖以來六代を傳へる家柄、代々名主、戸長として當村繁榮に貢献せる村屈指の名門である。家庭は圓滿、令閨ウメ子さんとの間に猛夫氏、速男氏外一男二女さんあり猛夫氏はいま三十三歳の俊敏の氣性に富む材幹にしてその將來に多大の期待を寄

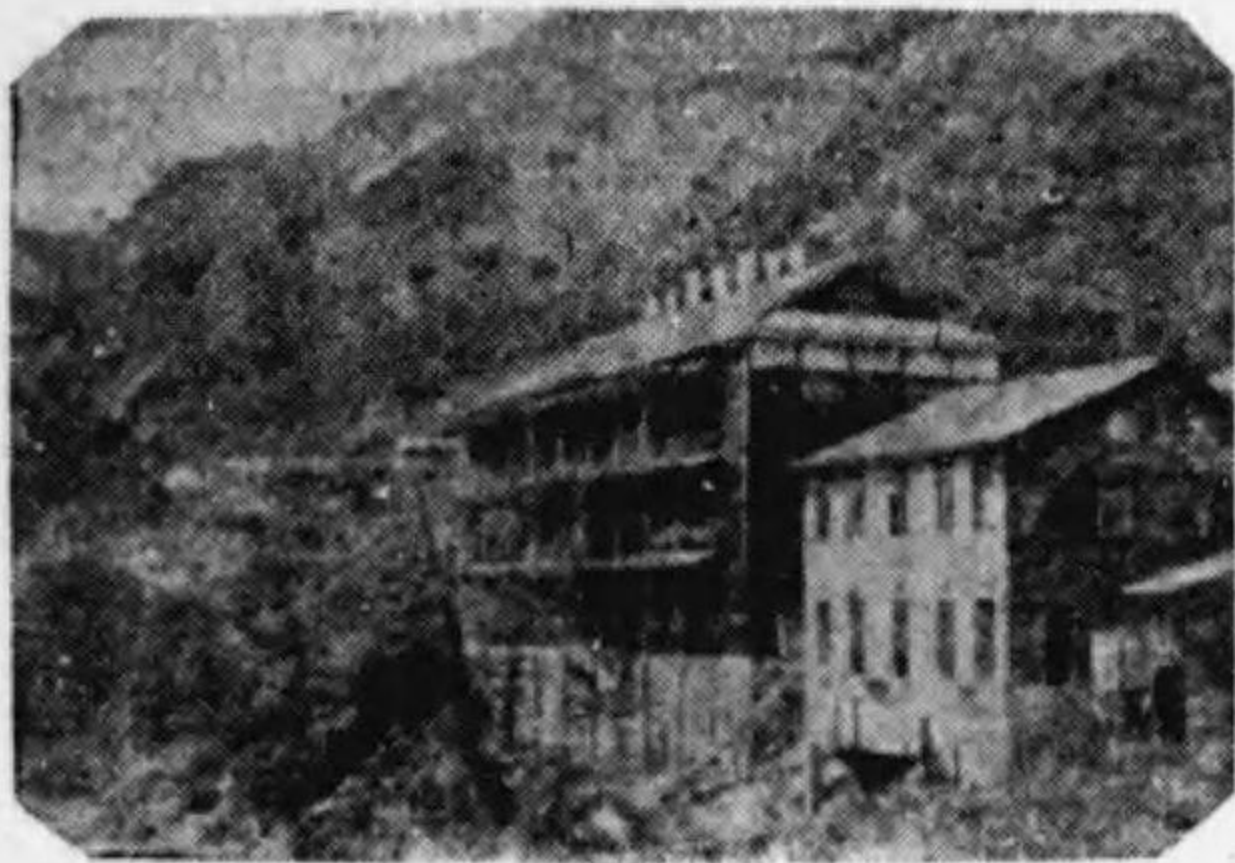
せられ八重子夫人とは琴瑟相和し春風駘蕩たる感がある。

水上村小日向

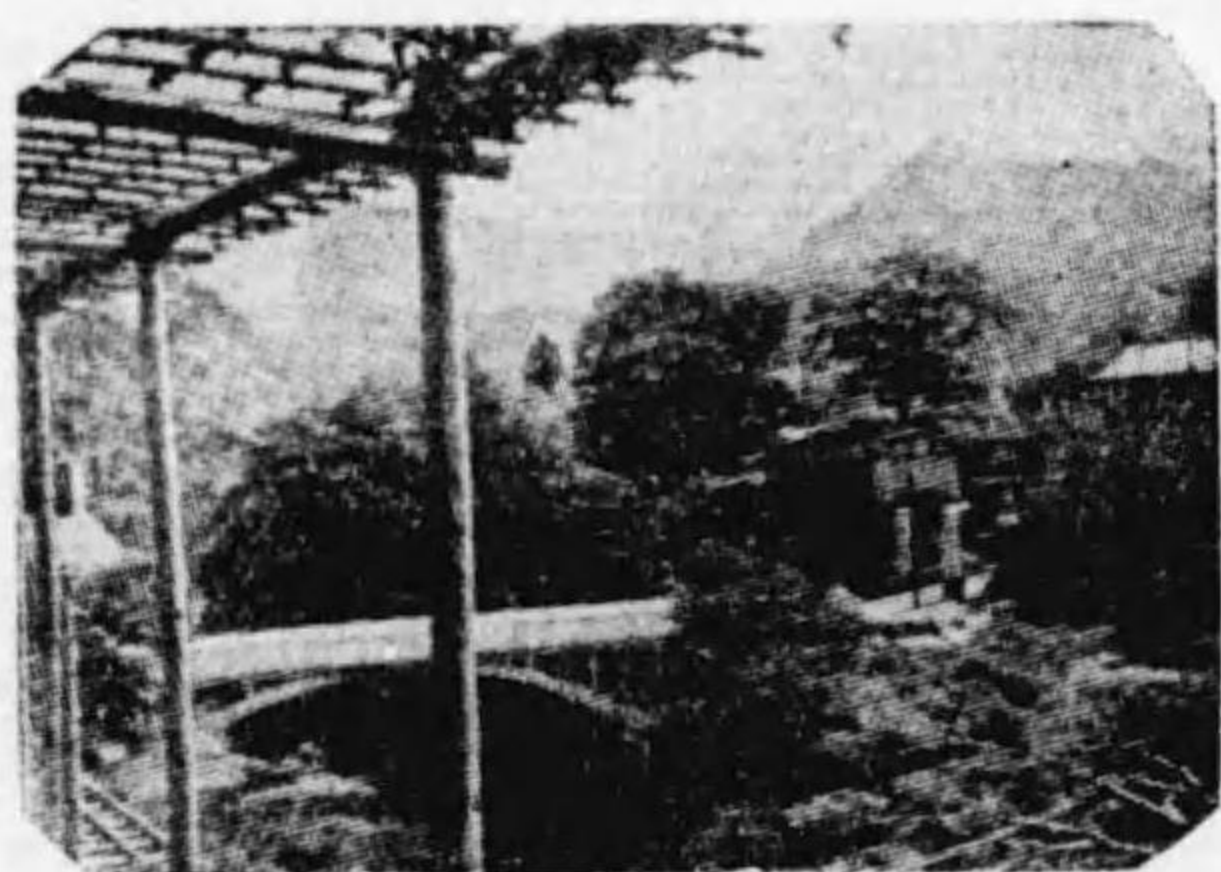
水上村助役 木村 喜作

開祖以來六代目、代々農耕を專業となし、先代は名主をつとめた。氏は廣吉氏二男として明治五年七月七日に生れ、後先代木村半七氏の養子となつた。夙に消防組頭、農會長、收入役、助役、村長二期、國勢調査員、土地賃賃價格調査員等を歴任せる村治の功勞者にして、現時再び役場に入りて助役となり、村長の格式を以て觀光課事務を執掌するほか、方面委員、學務委員、その他の要職を兼ねる學校増改築問題に手腕を揮ひ、國有鐵道の敷設に當つて期成請願委員長となり、また村内に國有林相當面積を占めるため、國有林野所有町村へ交附金の請願を起す一方、これが期成同盟會を組織し、附近諸村と合同、全國町村にこれが賛助決議をなさしめ、五ヶ年の歳月を費し、

昭和三年遂に法案通過し、一ヶ年四十五萬圓の國庫負擔となり現在に及んでゐる。郡、縣その他各方面より表彰數次に及ぶ。趣味は俳句。家庭には夫人マツさん、長男義一氏、長女ハルさんあり、長男義一氏は昭和二年以來、溫泉旅館水上館（電話水上三七番）を經營し、曾ては村會議員、消防組頭等に擧げられて活躍した自治界の大恩人である。



館 全 景



館 内 景

氏經營の同館は驛より縣道に沿うて南へ六町、役場下に在り、各室五十、收容人員二百人の大旅館にて、ピンポン、撞球、弓場、釣り堀、八幡池ボート等の娯樂設備を有し、鐵道省及び逓信局、ツーリストビューローの指定旅館たり、一流名士の來遊引きも切らざる状態である。水上の名勝はすでに全国的に有名であり當溫泉は利根の碧流を眺める浴槽中に玲

瓏たる河鹿の聲を聞くを得、海拔四八〇米、胃腸病、神経痛、婦人病、皮膚病、痔疾等に特効がある。

新 治 村

新村長 木 檜 仙太郎

木檜家は創始以来の経歴頗る久しきに亘り、代々農に勵みたる篤農の名門にして、鬱然大成せる素封家である。仙太郎氏は故庄三郎氏の長男として、安政六年九月六日に生れた。志を抱いて東都に上り、早稻田大學の前身たる東京専門學校に學んでこれを卒業した。細川町外聯合戸長、吾妻郡教育會議員、縣會議員、蠶絲業組合常置委員、地方衛生會委員、消防組頭、農會長、社寺保存協會委員、縣農會理事、郡會議員、日本赤十字社利根郡委員、郡參事會委員、三國製絲會社長、武徳會郡馬支部役員、碓氷社監事、須川信用組合理事等に歴任して大功あり、利根教育會より表彰されたるを始め、教育功勞者及び村務自治功勞者として御大典

記念章を授けられ、小學校教育功勞者として教育功績状を受けた。大日本農會より感謝状を受けた。かくて明治四十五年十月十一日より大正五年まで村長に就任し、また昭和十年八月三十日より再び村長に擧げられて現任中である。神道を奉じてゐる。夫人は極めて貞淑であつて内助に勉め、孫夫婦、曾孫三人揃つて健康で家門益々繁榮を極めてゐる。

新 治 村 布 施

新村助役 原 澤 平 重

原澤家は創立以来相傳へて十數代を閑したる舊家である。名主を勤めた人も出た。また戸長や地元總代を勤めた人も出た。當家は名門の一である。當主の平重氏は故故平重郎氏の孫に當り、明治十一年十一月二十三日に生れた。吾妻高等小學校を卒業した。消防組小頭、村役場書記、區長、煙草耕作委員、村會議員、畜産委員長、碓氷社三國組理事、三國製絲信用販賣組合長理事、金錢債務調停委員

社會教育委員、工場安全衛生委員、碓氷社商議委員、選舉肅正實行委員、土地賃貸價格調査委員、土地賃貸價格調査委員等を歴任してそれ〴〵功勞顯著なるものがあつた。遂に推されて助役に就任し現任中である。多年に亘る體験を有し、財力あり、信望ありて之に加ふ、氏の今後の雄飛は刮目して待望すべきである。名利に恬淡で最も責任を重んじ、明朗にして磊落、篤實にして素朴、自ら衆を容れて親しましめ、去りて離れ難からしめるは、その徳の力である。夫人は貞淑で勤勉、よく内助に努める。四男二女あり、男子二人は他家へ養子縁組してゐる。家門常樂至福である。

桃野村月夜野

桃野村長 杉 木 金 五 郎

細谷波次郎氏の二男として利根郡沼田町に生れ、先代杉木庄右衛門氏の養子となりたる氏は明治二十二年一月九日出生資性俊敏にして識見高邁なる氏は、又蕭

洒清雅なる紳士にして、精勵恪勤の人、

卓拔非凡の天稟と云ふより質實剛健の人で其蓄積された豊かな精力は氏の今後の進出を期待されてゐる。氏は沼田中學出身にして、曩に推輓されて村政の中樞に參畫し、村會議員(三期)農會長、學務委員、助役(一回)等を歴任し在職當時學校増築、道路改修等に盡瘁しその功績頗る顯著なるものがあり、又桃野村の養鶏指導者として、年額七萬圓程度の産卵の收穫を得る程度に發達せしめる等、氏の業績亦偉大なるものがある。現任當村長としてその人望名聲噴々たるものがあり、尙氏は自家に於て養鶏業を行ひ縣下唯一の指導者として聞えその年産額は二萬圓に上ると云はれてゐる。

家族は令閨アサ夫人との間に二男一女があり、外に一男一女の令孫がある。圓滿なる家庭である。

赤 城 根 村

赤城根村長 小 林 仲 吉

日本武士道精神の信奉者にして、古武的氣骨の稜々たる氏は先代重吉氏の二男として明治十二年九月九日呱呱の聲を擧げた。その資性清廉潔白にして信義の念厚く、識見高邁にして、高潔なる人格として其名聲噴々たるものがある。又當家は先代より戸長、區長を勤めし舊家に於て氏は先代より分家したもので郷土校卒業後は夙に家事に精勵二十一歳より役場に奉職し累進して助役の要職を占め村行政に盡瘁し、昭和三年六月村長の重職に在ること三期、農會副會長を兼ねて村産業自治に貢献寄與する處頗る顯著、その偉大なる功績は衆の等しく認める處である。氏の趣味は讀書及精密なる事柄にて、信仰は天臺宗、家庭は令閨たい夫人との間に二男二女あり、夫人は愛國婦人會幹部、國防婦人會副會長として、氏を扶け、社會の公共事業に活躍してゐる。因に氏の長男清氏は秀才の譽高く三高卒業後悠々と帝大に進みしに、惜くも二年の時病を以て夭折した。

東 村 平 川

東村助役 井 上 畷 造

當家は十五、六代連綿繼承せる舊家である。氏は先代六藏氏の男にして明治二十五年一月八日の生れ、代々農を家業とし、名主、戸長、地主總代を勤め、先代六藏氏又區長に在任し自治に功勞ありたる人である。氏は郷土校を卒業して前橋中學分校に學び、優秀なる成績で卒業す資性温厚篤實にして謹直なる氏は夙に村役場に奉職して事務に精勵し四十五年、その手腕を認められて收入役代理を勤め進級して助役に累進、村行政に精通せる氏の卓拔せる識見、手腕共に今後の活躍を期待されてゐる。氏は校舍増築、大原校新築、農村救濟道路に獻身的に盡力し又、村當局より一萬二千坪の拂下げを受け村の基本財産を造る等、その功績頗る顯著なるものがある。讀書に趣味を有し信仰は特に熱烈にして曹洞宗を奉ず。家族は令閨との間に、二男一女有り、令閨

は愛國婦人會副部長、國防婦人會副會長を勤め、公共事業に活躍してゐる。

沼田町原新町

町會議員 北野 隣作



氏は明治十四年二月二日に生る。夙に北野覺内師に

迎へられ、その養子となる。家は農を以て業とす。小學校を卒業してより、私塾に學ぶ。日露戰役に出征して三十七年八月伍長に任ぜられ、三十八年軍曹に陞任し勳七等を賜はつた。區長を勤めて十三年に及び、現に町會議員三期間當選し、また納稅組合長を兼務し、絲繭委託商を營んでゐる。縣道改修、中學校新築工事、女學校改築、水道敷設等の問題に就き、奔走盡力、寢食を廢して盡瘁しそれ〴〵成功して、感謝稱讚を博した。豪放磊落

にして奮闘努力の人、温厚篤實にして仁慈に富み、任侠の人である。曹洞宗を奉じて信仰が篤い。ルイ子夫人淑徳の譽あり、長男武一君十八歳は沼田中學校に修學中、二男榮次君、長女文子嬢十四歳がある。一家は常に圓滿平安にして春風駘蕩たるものがある。

利南村上久屋

村會議員 川田 和三郎



川田家は世々農を以て業とし、兼ねて商業を營み來

つた。令兄故嘉重氏は學務委員、青年團長、區長に歴任して功勞多大であつたが三十七歳を以て、可惜、永眠した。和三郎氏は亡父吾助氏の三男として明治二十九年五月十一日に生れて、嘉重氏の後を襲いで家督を相続したのである。區長を

始め、消防組副組頭、同小頭等を歴任し現に村會議員に擧げられて二期間に及んでゐる。また明治生命保險會社の代理店を營んでゐる。政友會員中一方の重鎮として推服せられ、熱誠公平に盡瘁貢獻するところ甚だ顯著である。資性は温厚にして堅實、また寛容にして洒脱である。曹洞宗を奉じて信仰を持すること堅固なるものがある。夫人は貞淑温良にして内助に力め、庭訓に頗る熱心である。三男四女あり、長男新次郎氏は沼田農學校を卒業してより、利南村役場に奉職中である。

白澤村下古語父

村會議員 戸部 又治

開祖以來九代目の舊家であり、また長壽の系でもある當家は、代々農を專業となして來たもので、先代嘉徳治氏は熱心家業にあたり、傍ら戸長役場時代の戸長更に區長として部落のために圖るところ大なるものがあつた。當主又治氏はその

東村 平川

村會議員 井上 義一郎



先代久治郎氏

貞宗以來七代を重ねてゐる。代々農業を主とし旁ら養蠶業を營む。祖父までは名主動役にて苗字帯刀御免であつた。亡父



當主義一郎氏

當主義一郎氏はその長男として明治二十年三月四日に生れ、前橋中學校利根分校を卒業した。爾來、信用組合幹部を始めとし、太陽生命代理店、群馬社供繭組合

事務等に敏腕を揮ひ、村農會評議員、同副會長に歴任し、遂に村會議員に當選二期に及んで、郷黨の博大なる信望を一身に集めてゐる。また信用組合長、農會評議員をも兼ねて、公共の事に奉じて頗る篤實を極めてゐる。氏は政友會の有力なる權威者として政友政敵の共に悉く推服する所である。多年に亘る地方自治産業上の功に依り、今上陛下即位の御大典記念章拜受の光榮に浴してゐる。氏はまた敬神崇祖の念に厚く、殊に曹洞宗を奉じて甚だ堅いものがある。家庭にはリヤウ子夫人あり淑徳極めて高く、長男金吉氏二男正男氏、長女トシ子嬢、次女イネ子嬢何れも秀才才媛の譽が高く、常に春風和樂に満ちてゐる。

東村信用購買 大正九年一月十七日販賣利用組合に創立せられたる有限責任平川村信用購買販賣利用組合が當組合の濫觴であつた。始めは平川村及び千鳥村の二箇村に亘つて組織せられ、昭和十二年九月二十日より組合組織に變更

長男、明治十六年八月十二日の出生、三十六年兵として日露の役に出征、功に依つて勳八等を賜はつた。歸來村政に與つて區長、村助役、村長(四期)等に歴任し、現在小學校の増築、尾合分教場の設置、道路改修などの諸問題の解決に奔走大に努め、また滿洲事變當時は村長在任中であり、銃後の護りを羣うするに極力盡瘁した。今、村會議員であり、選舉肅正委員、社會教育振興會支部長、郡農會評議員を兼務し、温厚にして俊敏、機略縱横の才を以て努力し、村の重鎮として貢献してゐる。滿洲事變の功に依つて木杯を下賜され、自治功勞に依り村からも表彰された。趣味は讀書を第一とし、また盆栽に造詣が深く珍裁を藏してゐる。母堂のきたさん當年八十歳にして頑健であり、夫人すがさんとの間に三男あり、長男眞治氏は夫人を迎へて既に一男一女がある。因に氏はまた、東京電燈會社出張所電球交換所を營んで甚だ深切丁寧に勉強し好評を博してゐる。

し、地域を編入擴大し、遂に現在に至つたものである。組合員は二百三十二名で出資一口二十圓、總額六百十口、一萬二千二百圓、貸付總額四千九百圓、貯金八百二十圓、積立金及び餘裕金は事業資金として利用運轉し、堅實確固、頗る巧妙を極めて成績觀るべきものが多い。村會議員井上義一郎氏は率先、畫策實行の事に當り遂に當組合を創立し、基礎を確實鞏固にし、組織制度を整備し、人材を糾合し、自らは初代理事長に推されて一意經營指導に没頭し、着々効果を擧げつゝある。

片品村土出

村會議員 吉野 律治郎

吉野家は創立以來、連綿として相傳相承して十三代を關したる舊家にして、代農業を以て業とし、養蠶業をも併せ營んで來た。嚴父和三郎氏は、村會議員に當選すること前後三回に及び、盡瘁貢獻するところ頗る多大、また農會長に擧げ



吉野 律治郎 氏

代等を歴任し現に村會議員に選任されてゐる。前途甚だ春秋に富む、最年少議員であるだけに、將來を刮目して期待される。嚴父君の遺徳を仰いで忘れ得ざる村民は氏を以て鳳雛に擬するもの尤もである。氏やまことに自重して可なりであらう。先考の天稟を受けて英俊明敏にして機略あり、穩健柔和にして甚だ篤實である。曹洞宗を奉じて信仰厚く、練丹修心修養尤も力む。今より徳望洽く圓熟大成の日や如何にと大いに待望せられてゐる。

役在 片品村青
年團副
團長、
檀家總



宮田 新一郎 氏

る。世々農を主業とし、兼ねて養蠶を副業とす。新一郎氏は重藏氏の長男として明治二十年九月十日に生れた。家業に精勵して令聞が高く、遂に學務委員及び消防組頭に擧げられてそれぞれ功勞多大で

村會議員 宮田 新一郎

川場村 中野

母堂みえ刀自は健勝にして、令孫を愛撫してゐる。たけ子夫人は才色兼ね備はり貞淑にして勤勉、慈悲の心深く、よく内助の功をつくす。よく母堂に仕へて至孝の令名が高い。長男和治郎君、長女とみえ嬢がある。家門益々繁榮し、春風駿蕩たる圓満平安なる家庭は、萬人の仰いで讚嘆して措かざるところである。

あつた。現に村會議員に任ぜられて二回に及んでゐる。また方面委員に任ぜられて活躍し、更にまた中野村農事實行組合長を兼務してゐる。盡瘁貢獻大いに力め功績甚だ著大である。氏の資性は豪放磊落、明朗にして恬淡、大日本農會よりその功勞を表彰せられた。禪宗を奉じて信仰頗る厚い、夫人は貞淑にして勤勉、三男二女がある。長男定儀君は沼田中學校に修學中である。氏は今や男さかりにあり、その活躍は刮目して期待すべきである。氏の性格が深切にして世話すきなため、萬人より信頼され絶大なる信望を博してゐる。

薄根村 硯田

村會議員 片野 新助

當家は天正時代の武將眞田伊豆守より初まり、爾來約四百年二十四代の間連綿たる舊家名門にして中興より片野姓を名乗り、代々名主の役をつとめて明治維新に至り、熊谷縣より戸長を命ぜられしこ



片野 新助 氏

とある本村有数の由緒ある家柄である。また世々農耕の業に従ひ、篤農家として聞ゆ。氏は先代藤作氏の長男にして、明治十四年二月十四日の岳降、郷儂卒業後は専ら祖業に従事して父を扶け、若き頃から衆望あり、人格高潔である。推されて村助役、村長、村會議員等自治の要職に歴任し、村内の圓滑融和と全般的進展を期して功勞多く、現在は村會議員中の元老として村會顧問格をつとめるほか、畜産組合副組長、村農會長、産業組合理事等の重責を帯び、永年村政に就いて功勞により 大正天皇並に 今上陛下より御大典祝賀の地方賜饌の光榮に浴した。趣味は園藝。資性恬淡、國家主義を信奉して衆望あり、令聞との間には二男四女を儲け家庭は圓満和氣に充ちてゐる。



阿部 周二郎 氏

先考常二郎氏の男、明治十九年九月二十四日に生る。當家は代々、連綿繼續せる舊家で先考常二郎氏は名主戸長を勤めし部落の功勞者にして、氏は郷土尋常校、高等小學校を卒業した。大正天皇皇太子殿下當時、騎兵上等として暴徒鎮壓の爲め朝鮮に派遣され警備の任に就き、皇太子殿下來鮮遊ばされるや氏は儀仗兵の大任を無事に果して原隊に歸還したといふ輝ける光榮に浴してゐる。その動功に依り勳八等、韓國勳七等に叙せられた。除隊後は家業に精勵、氏の代に至りて現在の材木商を營み今日の隆盛に家運を發展

古馬牧村 下牧 村會議員 阿部 周二郎

政友系に屬し、任侠の精神に厚き氏は

させたのも一に氏の捷ざる努力に依るもので、俊敏なる氏の商才よく時流に卓抜してゐたと云ふべきである。又公共精神に厚き氏は夙に村政に意を注ぎ村民の福祉に就いては獻身的に盡瘁その功績頗る顯著なるものがある。曩に村民の衆望を擔つて村會議員に出馬當選の榮を贏得した氏は又、消防組頭の公職も二ヶ年勤め現在は村會議員の要職に在り日夜氏は村勢の發展、産業自治、村政刷新に眞摯な態度で望んでゐる。家庭は圓滿で、夫人ゆうさんとの間に五男三女ある。

水上村湯檜會

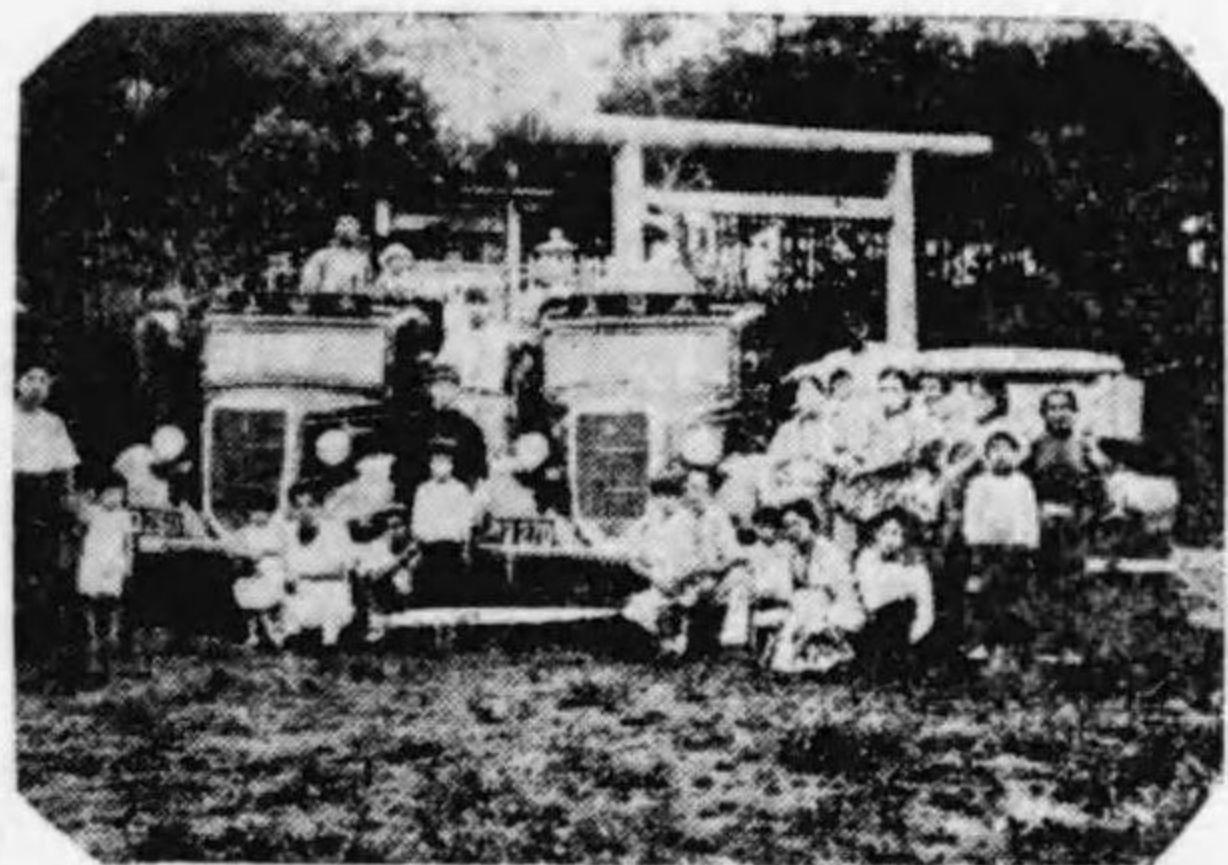
村會議員
水上温泉
自動車會社長

高橋 政之助



高橋家は代々専ら農を以て業とす嚴父乙市氏は新潟の人、當地に來住してより六十年を閲し

てゐる。政之助氏はその長男として明治二十八年十月二日に生れた。高等小學校を卒業し、自動車運轉手免許狀を享受し弱冠にして自動車業に先鞭を附した。消防組役員を十五箇年勤続し功勞多大なるものあり、現に村會議員二回目の當選にて、また區長を兼務してゐる。自動車業を營み、水上温泉自動車合資會社々長として苦心經營の重責を負つてゐる。郡内に於ける自動車の運輸輸送文化に關し貢獻寄與するところ極めて多大である。政友會系の權威者として人望甚だ高く、一方の重鎮である。讀書及び將棋に興味深い。殊に讀書に至つてはよく古今東西の智識を集め、研究調査に資するところあり、博學多識の氏にしてなほ且此くの如くに勉勵して止まざるは、まことに將來の大成期して待つべきである。氏の性格は剛毅果斷にして寛厚穩和、一度び志せば成さざればやまざる意志の人であり、信念の士である。禪宗を奉じて信仰頗る厚い。兩親はなほ矍鑠として健勝で



自動車會社

ある。藤子夫人は貞淑を謳はれる良妻賢母の人よく内助の功を盡す。一男六女あり。一家益々和樂を極めてゐる。
水上温泉 當會社は創立以後一年を**自動車會社** 閱したる、極めて新しきものであるが、村會議員高橋政之助氏を社長とし、阿部勝美氏これが主任たり、

社長が自らハンドルをとりて縦横に驅馳せし、特有の地盤を確保し、その財力と

技術と、事業眼と經營方針とは、既に各方面の絶對的信賴を博してゐる。貨物自動車二臺、乗用車十臺を備へ従業員は十人を算してゐる。貨物運搬及び一般運輸の事業を營み、着々として充實し、整備しつゝある。將來の大成期して待つべきである。

桃野村月夜野

村會議員 青柳泉之助



當家の開祖は不明なるも元祿時代に始まる舊家である

る。先代岩次郎氏は日露戰役當時兵事係として表彰されし人、氏は、その男にして明治二十年三月二十六日生れである。代々農を家業としたるも氏の代に至りて東京諸新聞取次販賣業、營利職業紹介、群馬無盡株式會社囑託、演藝興行所等を

營んでゐる。氏は曩に村會議員の要職を四期、二回に亘り最高點にて當選し、又區長代理、土地貸賃價格調査委員、消防部頭（四年）等を歴任し、その功績頗る顯著なるものがある。曩に桃野村に於ける水道設置の主唱者として幾多の障害を排して遂に現在の水道を開設し、又道路問題に就いても氏は私財壹千圓を獻納してこれが開鑿に貢獻し、更に村有山林時價六千圓のものを氏の奔走で九千圓にて賣却し之を資金として縣道開設した。その外學校の改築にも盡瘁して感謝狀を授與され、消防十五年勤績表彰等、氏の偉大なる功績全く枚擧に遑あらずと云つても過言ではない。その資性磊落にして明智、剛毅にして秀徹せる頭腦の所有者にして、又謹嚴、高潔の士として、村民より生神様の如く敬仰せられ、反對派の人人と雖も、今日氏が村に盡せし功績は賞嘆に値してゐる。家庭は令閨とみさんと間に一男一女が有る。一家は常に繁榮を極め至福至樂、春風家門に溢れる。

新治村布施

村會議員

石橋 幸高



忠誠醇朴、令名噴々として四隣に普き氏は石橋能二

郎氏の二男にして明治三十八年二月二十七日の岳降である。その祖先是六の花咲く北陸新潟縣の産、當地に轉住してより二代目である。即ち先代は商業を營み、清酒釀造に従事せる機敏明朗の商人肌の人である。氏は沼田中學校を卒業後、父業を繼承して清酒販賣に従ふほか薪炭商を營み、家産の増殖をなすこと著るしく村内有數の敏腕家と稱される。曾ては消防組頭に推されしことあり、現在は村會議員に任じ、更生村として共存共榮の實を擧ぐべく折角奮闘してゐる。趣味は讀書と釣魚。資性慧敏にして果斷である。

秀子夫人は明治四十一年の出生、氏との間に長男幸生君（昭和六年生）長女茅子さん（昭和十年生）の愛兒がある。

川田村下川田

村會議員 平井 瀧治



平井家は安政年間の創立にして、爾來連綿相承けて

今日に及べる舊家である。七代前の新右衛門より農を以て業とし、代を重ねるに



故保昌君

益々精農の家となり家業に精勵し

て巨富愈々築成され、今や比類なき素封家である。亡父新吉氏は區長、村會議員

等を歴任して大功があつた。瀧治氏はその二男として明治十七年一月四日に生れた。川田小學校を卒業し、農事穀物検査員檢定試験に合格して、縣農林課技手に任官した。退官してより信用組合理事を始め、消防組部頭、區長等を歴任し、現に村會議員に選任せられ、養蠶實行組合長を兼務して盡瘁しつゝあるが、功績決して少にあらす。日本赤十字社々員である。信用組合の基礎を鞏固にし、發展向上するに貢献するところ頗る多大である。穀物改良に興味を深く有す。事凡そ農事に關する限り、氏は常に三昧地に在つて醍醐味を満喫し得るのである。人格高邁にして資性は厚篤謹直、然も温順柔和、博聞多識にして、學才卓抜なるものがある。立志奮闘家としての活模範として仰がれるのも、まことに故ある哉である。消防に關する功勞により縣より表彰された。浄土宗を奉じて信仰熱心である。なみ夫人も亦た貞淑にして勤勉、人情に篤く慈悲心に富む。長男保昌氏は利根農

學校を首席を以て卒業した秀才であつたが、才子多病にして夭折された。惜しみてもなほ餘がある。なほ三男六女の子福者である。家門愈々隆昌して、至福至樂和合圓滿の理想的家庭である。

糸之瀨村糸井

村會議員 石井 彌十郎



當家は當地方切つての舊家にして祖先中には寺小屋

等をなしたる事蹟あり、石井家墓所には筆子中とした墓誌名あり、利根郡利南村金井藤左衛門、俗に多藏といへる人の再興によるもの、代々農を業として今日に至れるも、先々代は舊藩時代の教育に盡力せる人、先代竹松氏は區長その他の要職に擧げられて郷土の發展に活躍した材幹である。氏は先代の長男、明治二十四

年一月二十七日を以て生れ、郷校卒業後高崎歩兵聯隊に入營し、除隊後は村會議員、消防組頭十五年、在郷軍人分會評議員その他を歴任、出荷組長とし村民を指導督勵せし事、養蠶實行組長として指導方針を明かにした事、組頭としてガソリンポンプの購入及び貯水池（村内數ヶ所）を作りし事、農村消費經濟を改善せし事等、その業績枚擧の繁に堪へざるほどで、現在は村會議員、群馬社出荷供繭組長、養蠶實行組長、糸井産業組合理事、金錢債務調停委員を兼任するほか、軍友會々員、日本赤十字社社員として令名あり、また家業の傍ら太陽生命保險會社代理店を經營して優秀の成績を収めてゐる。純真素朴なる篤農家と評され、資性恬淡、温容なるその風采は性格そのものを現はし、言語流暢にして學措慇懃、村民一般より崇敬信任され、會では消防組十五ヶ年勤績の功により表彰さるゝの光榮に浴した。フセ夫人との間には一男一女を儲け、家庭頗る圓滿、ま

た令妹タキさんは令婿二郎氏を迎へ、これまた一男一女を有し、和氣霽々たるものがある。

沼田町馬喰町

町會議員 山田 政吉

資性俊敏にして商機を捉へるに巧みな氏は、先代幸太郎氏の男として、明治二十三年十二月二十日、山田郡福岡村朝原に生れ、當地に移住し來りたる人である。當家は代々米穀商を營み又先代幸太郎氏は區長等を歴任したる人である。氏は郷土校卒業後は夙に家業に精勵しながらも尙好學の念おさへ難く、よく克己不拔の精神をもつて中學檢定以上の學を修めし意志鞏固の人である。その學識、手腕共に衆の認める處にして、氏の眞摯にして圓滿なる人格は、町民の澎湃たる信望を一身に集め、曩に町會議員、區長等の公名譽職に携はり、現在は町會議員の要職の外、赤十字社々員の名譽職、材木製材業をも兼ねてゐる。氏の趣味は讀書に

利南村戸鹿野

村會議員 宇敷 藤造

曾ては戸鹿野區長、學務委員をして消防部長等に歴任、それ〴〵活躍、重責を果して功を數へられつゝある氏は、先代長五郎氏の四男として生を享け、農業を主とし、養蠶を副業とする今の家を繼いだのである。常に畜産の研究に没頭しつゝある温厚篤實の士であり、現在は二期目の村會議員であり、また養蠶實行組合理事を昭和十年來勤績、今に及んでゐるほどで、更に衆望の厚きを知ることが出来る。男子五人、女子三人の子福者、長男定雄氏は縣立沼田農學校を卒へ、今、家業のために精勵してゐる將來多望多囀

の青年である。

白澤村下古語父

村會議員 小林 正治



先考 市翁

是約二百年前の創家に係り始祖は



本村自治に賭るべき業績を残したる功勞者であり大恩人である。氏はその長男にして明治二十二年十一月十九日の岳降、

富、手腕卓抜の材幹として衆望あつて、

資性素朴にして剛毅、その反面に純情と温容の持主として知られ、人格高潔志操堅固の士である。夙に郷校を卒業し、推されて青年會長、消防組部長及び組長たるほか、消防組に關係二十有七年に上り異数の功績を樹てたる人、また白澤村青年修養會は、氏が青年會長時代に創設せしものにて、爾來本村青年の教化に盡瘁裨益せしこと一々筆紙につくし難きものがある。現村會議員に當選して村政に参畫するも、政黨に關係せず、眞に自治を認識し、圓滿なる自治の確立を期するこ

とが、村政に對する一貫した氏の主張であり、村民よりは誠意ある人として稀有の信望をあつてゐる。趣味は讀書である。家庭にははん夫人との間に一男二女を有し、積善の家に餘慶益々大なるものがある。

片品村下平

村會議員 高橋邦三郎

高橋家は名門の流を承けて連綿相承け



て、明治三十二年十一月十七日に生れた。片品小學校

を卒業し、農業の旁養蠶業を營んでゐる區長を始め、養蠶實行組合副組合長等を歴任し、現に村會議員に選任せられ、養蠶實行組合幹事及び農事實行組合顧問を兼任してゐる。交通機關の整備、産業の振興を期して活躍してゐる。農事に於ける練達は氏の趣味をもこゝに集中せしめ農事改良を以て趣味とし醍醐味を満喫せんとしてゐる。曹洞宗を奉じて信仰甚だ厚く、氏は實に熱心に募參をするので何人をも感動せしめてゐる。氏は全く温厚

にして寛容、而も剛毅果斷にして快刀亂麻を斷つ底の俊敏を以て聞えてゐる。母堂キチ刀自は益々健勝で、ユキ夫人は淑徳高く慈悲の心が深い。長男安次君十五歳、二男定次郎君七歳、三男光雄君五歳、四男京三君二歳、長女タマ子嬢十三歳、二女サト子嬢四歳があつて、大子福者である。氏の愛馬秋松號は軍馬たる資格を有してゐるが、昭和十一年十一月廿日近衛師團より木杯一組を授與された。また帝國馬協會よりも同年同月二十二日に表彰狀を授けられた。

川場村萩室

村會議員 外山 雅一



外山家はその創始は甚だ古く、代を重ねること十五

代にして現在に至つてゐる。代々農業を

主として養蠶を兼ねてゐる。當主雅一氏は亡父眞之助氏の長男として明治十年二月九日に生る。夙に青年會長に擧げられたからは、農事實行組合長を歴任し、助役に任ぜられて二期に及び令名を誦はれた。大正十三年四月同志を糾合して村産業組合を創立し、その理事として陣頭に立ち、苦心經營して着々効果を擧げつゝある。現に村會議員に任ぜられて二期に至り功勞甚大である。人物は温厚篤實にして情味津々、徳望博大なものがある。助役八箇年任期満了に際し功勞感謝のため村より銀盃一箇を贈られた。家庭には温順貞淑にして忠實勤儉なる夫人の下に一家常に和樂の春風満ち溢れ、男女子六人はよく父母の庭訓を受けて、各々家業にいそしみ、令名良聞頗る冷きものがある。家産益々富み榮え全村の稱讚して措かざる所である。

古馬牧村後閑

村會議員 櫛淵金兵衛

櫛淵家は創始以來四代を閑してゐる。代々専ら農を業としてゐる。亡父金兵衛氏は戸長を勤めて功勞多大であつた。當主金兵衛氏は先代の長男として明治八年七月二十九日に生れ、襲名して家督を相続した。區長、信用組合長、國勢調査員及び土地賃賃價格調査委員を歴任して、村會議員には數回當選し現に村會議員、方面委員に任ぜられ、また信用組合長として昭和五年より八年間勤続し、各々功勞顯著である。氏は實に村政界の長老である。農業、養蠶業、副業の各般諸問題を始め、特に學校問題、山林問題に關して卓抜なる抱負を藏してゐる。曹洞宗の篤信家である。また稅務監督局から表彰された。家庭は内助の功高き夫人を失ひ一味の寂寥を遺してゐるが、長男憲太郎氏はよく家業にいそしみて夫人カツミさんと琴瑟相和し一家を立て、嚴父君を安んぜしめて孝養を盡し、憲太郎氏夫妻には、長女リュウ、三女スギ、四女ミル、五女ナミ、六女キミ、七女ミエの令嬢が

恵まれてゐる。

水上村

村會議員 眞庭力雄



先代濱吉氏

氏は資性剛毅、武士的硬骨の人にて、

謹嚴寡黙、不言實行の實行家である。眞庭濱吉氏の長男として明治二十三年十月を以て生をこの世に享け、青年團長二回



國勢調査員、土地賃貸價格調査委員等を歴任し昭和十二年

年選ばれて村會議員となり、村政に献策寄與頗る多く、水上村に於て今後の氏の活動に期待するところ甚だ大なるものが

ある。風手たるや筋骨逞しく、心身共に高山彦九郎を想起せしめ、村民崇敬の的となるもまた宜なる哉である。嚴父濱吉氏は明治元年六月一日の出生、菊藏氏の長男にして、村會議員九年、區長三回、消防組頭多年を勤続し、ガソリンポンプの購入、消防組合の督勵統御、半鐘の増設、幸知學校の創設、向上橋の架設、その他、村内各方面に亘つて功績頗る顯著なるものあり、本村發展の偉大なる恩人と稱され、嵐の如き賞讃の辭を贈られてゐる。父子相揃つて公共のために竭し郷土のために働き、名譽これに過ぐる家はあるまい。家庭には現に濱吉氏夫妻健在のほか、家族八人の多きをかぞへ、慶福の限りを盡して一家ますく繁榮の一路をたどつてゐる。

川田村下川田前宿

村會議員 太田初太郎

當家は元祿時代の武士太田齋雲氏によつて創家され、當主を以て七代目とする



先々代及び先代代重郎氏は農事の傍ら製糸、煙草栽培、生糸の輸出、米穀販賣等の業務に従ひ家産の大を成した。當主は先代の長男にして明治十六年十月三日の出生である。郷黨卒業後煙草專賣局煙草栽培教師の免許を受け、祖業を承けて益々格勵し特に煙草栽培に就てはその技能傑出し、當地

方に於ける權威と稱される。また夙に青年團長、消防組副組頭、區長を歴任し、現村會議員二期目をつとめるほか、利根郡及吾妻郡煙草耕作聯合組合理事長兼教師の任にある。小學校増築及び肥料統制運動に盡瘁して功績甚大なるものあり、將來、村の産業開發に努めてこれが擴充を圖るべく周到な計畫を樹てつゝあり、殊に煙草栽培の改良進歩を計つて増産を期するは、氏の活動に俟つところ大であ

の寧馨兒である。

利南村

村會議員 津久井芳雄

津久井家の先代角藏氏は、今は亡き人となつたが、在世當時は家業農に精進し他面疾くより村内のことに與り、村會議員區長檀家世話人として、専念努力を續け、その業績著大なるものがあつた。當主芳雄氏はその三男、明治二十二年當家七代目として生れ父君の衣鉢を襲いで公共のことに關與、期せずして一村の信望を高め、現に村會議員として村政の刷新向上に盡瘁しつゝあるの外、第五區長、檀家總代を兼務してゐる。會ては養蠶實行組合長を一期、村産業組合理事を三期勤めてゐる。夫人は貞淑の譽れ高き内助の功勞者、間に二男二女があり、一家は常に和かな圓滿振である。

白澤村平出

村會議員 佐藤彦八

る。盆栽園藝に興味が深い。資性温良にして明朗、志操堅實の譽れあり、また寛容にして謙讓の美德を發揮することが多い。曩に縣警察部長、稅務監督局長より



長男福太郎氏

表彰せられしは、ひとり氏の光榮たるの

みならず、全川田村の誇りとするところである。令閨タネ夫人は内助の功多く、長男福太郎氏は現消防組頭及び統計調査員の要職にあり、他に一男二女を有して家内圓滿、和氣霽々としてゐる。

沼田町材木町

町會議員 町田文吉

當主文吉氏は越崎紋五郎氏二男として明治二十四年四月十日に生れ、町田家に迎へられて亥之助氏の養子となる。當家は代々農を業として相傳へたが、當主に



至り功勞少からず消防組役員に任せられて奔

走盡力大なるものがあつた。現に町會議員に擧げられ、また日本赤十字社正社員である。氏は實に立志傳中の人であつて刻苦精勵、不撓不屈、着々地歩を鞏固にし、家産を増殖し大同銀行沼田支店に取引口座を有し信用頗る大である。氏はその頭腦明敏、綿密にして果斷智略あり、忍耐に富み事に處して眞劍熱心である。眞宗の篤信なる妙好人の一人であつて、人格は圓滿温厚である。家庭はモト夫人が貞淑の譽高く内助の功を積んでゐる。長男勝藏君は十七歳、長女かね子嬢は十一歳、二女あき子嬢は九歳、何れも秀才

當家菩提寺は正眼寺、その一家創立の古きを語つてゐる。先代藤元氏は精農家であり、また區長として功もたゞへられ



氏はその長男、明治十六年九月八日の生れ、

疾く群童中に異彩を放つた人材若冠二十八歳にして村會議員となり、村の名物男として令名噴々たるものがあり、區長三回、消防部頭二回を重ね、村道開設委員として活動するの外、學校増築、消防の改善等にも大に手腕を揮つて目覺しい成績を挙げた。村會議員に現任、村會一方の雄をなしてゐる。人に接するや温容親切、村民の禮を以て迎へる故なしではない。夫人はとり子さん、長男晴親氏は今青年團會計係、次男泰彦氏は川田小學校訓導として何れも勤勞してゐる。益々資産に富み和樂して、常に春風を絶たず。

片品村東小川

村會議員 須藤助市郎



須藤家は家祖多市郎氏以來四代を重ねて現在に至る

名主動役の家柄である。農業を家業として今日に至る。當主助市郎氏は伊重郎氏の長男として明治十八年三月七日に生れた高等小學校を卒業してから信用組合理事、學務委員、區長、消防組小頭、國勢調査員二回を歴任し、村會議員に任ぜられ農事實行組合長を務めてゐる。圓滿なる村政を念とし協賛の實を盡し、更生村片品を模範村たらしめんとし、養蠶業に代るべき副業方策を確立し、椎茸培養を奨励しその發展を策せんとするが氏の抱負の一端である。氏は一面は剛毅果斷、素朴恬淡であり、他面は熱烈眞劍、氣鋭

潑刺たるものあり、寡黙實行の人として徳望を博し、曹洞宗を信すること篤く、篤農家の譽が高い。家庭には母堂フジ刀自健勝にて、モト子夫人は貞淑の人、長男不氏は現に青年團長の要職にあつて活躍し、トミエ夫人を迎へて琴瑟頗る相和し理想的新家庭を營んでゐる。二男晃君は十四歳、長女トクノ嬢は三十歳、二女三重嬢は二十一歳がある。

川場村立岩

村會議員 宮内 武道



社會は人間といふ糸を以て織られた布である。我々

は父母、兄弟、姉妹相睦みて家庭をなし家庭が集つて社會をなす。されば社會生活をなす上に於て、協心戮力は、缺くべからざる精神的糧である。氏はこの協心

協同、一致協力をモットーとして自治界

をリードする中堅人材である。郷土愛の鼓吹、團結心の涵養を以て優良村建設の根本方針となし、村會議員としては村政上に献策し、また昭和七年より川場産業組合監事に任じ、同十二年よりは養蠶實行組合長に推され、共に現任して産業經濟方面よりの協心戮力を説き、同存同榮を趣旨として組合の運営にあたり、事績大いに睹るべき點がある。資性温厚篤實時局の認識深く、リファインされた性格と卓抜なる手腕とは、萬人の讃仰の的となつてゐる。因に氏は宮内儀作氏の二男として明治三十二年二月二十日を以て生をこの世に享け、家業は農、副業として養蠶業を營み、令閨との間には二男一女の愛兒を有し、家庭圓滿にして慶福に充ちる。なほ嚴父儀作氏は篤農家との定評ありしほか、區長及び村助役等に推され村治に多大の事業を残したる徳望家であつて、その徳望に浴したる村民の敬慕して止まないところである。

古馬牧村後閑

村會議員 西山 隆惠



亡父幸五郎氏は本村役場に多年勤務したことがある

隆惠氏はその長男として明治二十四年二月二日に生れた。西山家創始以來三代目である。世々農を専業としたが當主は材木商及び製材業等を營んで大成してゐる。七歳にして嚴父に死別し一家の再興をその雙肩に擔ひつゝ奮闘する運命の下にあつた。郷里の高等小學校を卒業し家業に没頭して勵精努力を続け、業勢頗る盛大を致し、家運隆々なるものがある。現に村會議員に任ぜられ、又利根愛林會副會長を兼務して盡瘁貢獻すること甚だ多大である。また日本赤十字社正社員である。政友會の權威者として早くより名

聲高きものがある。本村の南尋常小學校の建設が竣功するや、建築委員として、その功勞を表彰せられた。資性は篤實にして緻密、堅忍にして熱誠、頗る人情に富む。霸氣ありて向上心抑へ難きものがある。寡言沈黙、最も實行力に秀で、實際的なる實行家である。曹洞宗を奉じて信仰が甚だ深い。夫人セイ子さんは貞淑にして勤勉内助の功が高く、夫妻協力して特に子女の教育につき用意周到にして熱心を極め、長男保之助君、二男重光君は、その小學校の成績拔群にして、利根教育會より表彰されたる神童である。なほ三男四女があるが、二女子き子嬢は文化女學院を卒業して、母堂の下に家政家事を見習中、芳紀正に二十歳才色並び備はつた麗人である。

水上村小日向

村會議員 木村 實次

木村家は始祖以來十代二百六十年を閲し、世々農を以て専業とす。亡父政太郎

氏は村長、信用組合長、縣會議員、郡會議員、郡會議長を歴任して功勞多大なるものがあつた。尙水上發電株式會社々長として功績少くなかつた。實次氏は其二



男として
明治二十
一年二月
十一日に
生る。小
學校を卒

業してより、補習科を卒業し、縣立農學校の前身たる産業講習科を卒業した。分家して一家を創立した。米穀商及び雜貨商を營む。四十一年入營したる陸運歩兵伍長たり。國勢調査員を始め、農業調査員、消防組頭、區長二回、方面委員、在郷軍人分會長、青年會長等を歴任し、それ〴〵功勞甚だ多大であつた。現に村會議員に當選し在任中である。また旭鑛山鑛業所を經營してゐる。水上小學校の御眞影及び勅語奉安殿を建設寄附したる時氏の莫大なる寄附と熱心なる努力とを以

て之を完成し、在郷軍人分會の名を以て寄附し、消防機具の整備に盡し、青年スポーツの振興を促したるなど、その功績は枚擧に遑がない。氏は民政系の有力者である。策謀の人にあらずして、正論正言の人である。寡黙不語、一度舌を振へば必ず正理人の肺腑を刺す。忙中閑を得て讀書を樂しみ、圓熟老成に自ら備ふるところあり、謹嚴にして温厚、任侠の志厚く人情に極めて厚い。曹洞宗を奉じて信仰厚く、信念不動である。縣知事及び縣警察部などよりその功勞を表彰せられた。ヒサ夫人は貞淑にして勤勉、三男一女がある。家門常に繁榮し、圓滿平安である。

新治村下羽場

村會議員 林 繁太郎

羽場産業組合長 林 繁太郎
温恭忠允にして至行純備、正義節操を重んずること氏の如きは稀である。祖先は本村草拓の舊家にして、氏は明治二十六年一月二十五日を以て林周次郎氏の二



特別助成
村から更
生村への
實を擧げ

男に生れ、長じて分家獨立した。實直温厚、農業の傍ら養蠶並に林業 營み、又早くから公名譽職に推され、區長、養蠶實行組合長、農事實行組合長、國勢調査員、土地貸賃價格調査員、消防組小頭を歴任、現時、村會議員並に羽場産業組合長を兼ね、豫算を節減し、非常時局下の國力増進のため、
ことに率先して活動しつゝあり、曩に稅務監督局よりその功を表彰された。趣味は骨董である。夫人モウさんとの間には長男太次郎君、二男益清君、長女タニ子さん、二女ミサ子さん、三女千枝子さん、四女イツエさんがある。なほ氏が組合長たる保證責任羽場信用購買販賣利用組合は、大正六年四月設立されし有限責任羽場信用組合に濫觴し、同年十月購販

利の三種事業を追加、昭和八年四月組織を更へて現名稱に改めた。組合員百十餘名は、共同一致組合を利用して經濟の更生を計らんと邁進しつゝあり、出資總額六千九百有餘圓、固定貸付は年賦償還の便を講じ、産業資金の融通には特に意を用ひ、農村部落經濟の更生を計ることに經營の重點を置き、貸付總額三萬二百圓貯金八千九百圓、購買四千三百圓、販賣一千六百餘圓の現況を示し、利用部は未だ見るべき業績を擧げざるも、部落懇談會及び講演會による組合精神の普及と共に漸次向上發展しつゝある。初代組合長は林實之助氏、二代組合長は原澤松次郎氏にして、現役員は組合長のほか、田村伊千郎氏、林國吉氏、原澤芳氏ほか二名である。

沼田町沼田

町會議員 永井 万吉

剛健質實、霸氣に富む氏は、先代吉五郎氏の三男、後ち分家せしもので明治廿



覇氣はよく
家業に
精勵し、
また夙に

四年二月二十三日生れである。代々農を家業とせるも氏は沼田小學校を卒業後東京して時計の研究に修業し、大正元年沼田町の現住所に開業せしものである。氏の不屈の精神と、
精神と、
覇氣はよく
家業に
精勵し、
また夙に
町政にも意をそそぎ、沼田町唯一の集合機關たる商會館を設立し、最初は預金其他、町内の金融機關たらんとせるも、現在其積立金により貸席に準用し、公集會等に於ては一切費用を徴收せず、無料貸與の便宜を計る等、氏が町に貢獻せる功績は頗る顯著である。その手腕、識見時流を抜き、氏の圓滿なる人格は町民の信頼頗る厚い。曩に氏は推されて區長の公職に就き町内の爲め盡瘁し、現在は町會議員として町政の中樞に執掌して町政刷新に盡瘁してゐる。氏はその他、商工

利南村横塚

村會議員 都所 初藏

會評議員、信用組合監事、沼田町評議員として重きをなし、また赤十字社正社員の名譽職をも兼ねてゐる。家族は令閨タミさんとの間に五男三女といふ子福者で長男敏一氏は沼田中學出身である。信仰は淨土宗と聞く。
氏は明治二十年五月二十三日、岡長作氏の五男に生れ、當家先代鹿造氏の嗣子となつて同家を繼いだ人で、農業を主に養蠶を副業に勵精 家産をふやしつゝ、今日至つてゐる。内心烈々たる公共の精神は、遂に發して區長となり、消防役員となり、延命寺檀家總代となつて鋭意盡力する多大なるものがある。今、村會議員であるの外學務委員、方面委員をも兼ねまた群馬社供養組合長、養蠶實行組合副組合長であり、村民の輿望に副はんことを念願となしてゐる。至誠恭儉、他に範を垂れてゐる。二男二女あり、長男徳次

氏は利根農校出身の逸材、目下家業を助けてゐる。因に先代鹿造氏は區長に選ばるゝ三回に及び、その功また尠なしとなす。

片品村菅沼

村會議員 星野 長三



星野家はその年代不詳なれども、當地に於ける舊家である。戸長を勤めたる人を輩出した。代々農を以て專業としてゐる。長三氏は亡父丑五郎の長男にして、郷里の小學校を卒業し、補充兵役に在る。先には區長を始め、學務委員、國勢調査員、土地賃貸價格調停委員、衛生組合副組合長、同組合長を歴任し、現に村會議員に任ぜられ、農事實行組合監事及び養蠶實行組合監事を兼務し、また信用組合のためにも

貢献するところ少からず、完全なる道路網の整備、農閑期利用の林業の振作、開墾事業の助長を抱負とし、盡瘁寄與すること多大なるものがある。資性は謙嚴にして緻密、寛容にして温厚である。幾多の人生苦に鍛錬せられて玉成したる人格は、實に圓滿無碍、廉潔にして高邁である。曹洞宗を奉じて信仰厚く、不動の信念を持つ。サイ子夫人は貞淑を誦はれ内助に力め、長男尙一氏二十六歳は、青年團幹事長の在職にりて、また消防組に貢献しつゝあり、夫人タマノさんを迎へて琴瑟相和し、令孫季佐男君五歳、頼次君二歳を恵まれ、なほ次男篤二氏二十三歳三男育三氏二十二歳は支那事變に出征して奮戦中である。四男隆四氏二十歳、五男千丸君十四歳がある。

村會議員に擧げられ、數多の公職、名譽職を勤めて、多年に互り功勞は頗る多くなるものがあつた。元近氏はその長男として明治三十三年三月一日に生れた。沼田中學校を卒業



し家業に精勵した。夙に區長に推され、氏子惣代をも奉仕して熱誠を極めた。現に村會議員に擧げられて二回を重ね、養蠶實行組合理事及び日華生命保險代理店を兼務してゐる。農作物及び養蠶の研究等に趣味を有すること甚だ深いものがある。資性は實直にして謙嚴また温厚にして寛容である。天台宗を奉じて信仰深なるものがある。夫人は貞淑にして勤勉を誦はれ内助に力め、三男二女を恵まれてゐる。一家は常に春風駘蕩を極め至福至樂である。村民その徳風を仰いで悉く信頼を寄せざるはない。

川場村生品

村會議員 松井 元近

亡父伊作氏は精農家にして養蠶を營んでゐた。収入役を始め、助役を歴任して

水上村湯原

村會議員 鈴木 辨吉



温容にして謙直一言一句を荷くもせず、孔夫子然たる風貌の持ち主たる氏は、明治二十四年三月五日の生れ、後ち土地に於ける最舊家、五十年前より洋品太物雜貨商に轉業し、名主、戸長、區長等に擧げられて功のあつた當家先代仁三郎氏の懇望によつて同家に入つたもので、獨力よく正教員の資格を獲得、水上小學校に在ること十九年一ヶ月の久しきに亘り數多の英才を世に送り出し、夙に一村の衆望をあつめ、養蠶に學務委員(三回)初代助役、消防組頭に歴任、それ〴〵業績を讃へられつゝあるが、現村會議員として村政に参し、また椎茸栽培に努力してゐる。趣味讀書

那教育會から表彰を受けた。タマ子夫人との間に二男五女の子福者である。

沼田町沼田

町會議員 野村 克己



當家は由緒ある家柄にして、氏は先代故米太郎氏の男として明治十年一月十二日利根郡薄根村に生れ、現在の處に轉住す。資性謙直にして果斷の氏は明治法律學校を優秀な成績で卒業後は、夙に町政に參與しその功績尠からず又氏の高邁なる學識、高潔なる人格は共に町民の敬仰する處である。氏は曩に推されて耕地整理評議員に就任し現在は、町會議員(今日二期)赤字正社員の公、名譽職に在り町政刷新に盡瘁してゐる。現在の沼田町は行詰りの状態にあり、更生策は、町内全般に亘

利南村

村會議員 武井 高信

當家は相當の舊家として知られ、農を本業とし、養蠶を副業となして來たもので、先代故庄太郎氏は區長を二期、収入役を一期、また氏子總代等に推されて今に獻する甚大、村自治の功勞者として今にたゞへられてゐる。高信氏はその長子、明治二十三年の出生、先に區長に擧げられた温厚篤實、極めて人望の高い人である。農業實行組合理事を今に勤めつゝあ

るが、更に村會議員として、農會總代として在任し、しかも村中堅的人物として多大の望みを囑されてゐる。スエ子夫人は内助の譽れ高き賢婦人で、間に六人の子女があり、一家和樂して笑聲常に門に溢れてゐる。

白澤村

産業組合長
前村長 池田 文作



資性俊敏にして
謹言なる
氏は明治二十年二月十日、

利根郡川場村に呱呱の聲を擧げた。氏の生家松井家は代々、戸長等を勤めし當地の舊家にして、氏は懇望されて先代池田傳左衛門氏の養嗣子となりたるものである。養父傳左衛門氏また村會議員、學務委員等を歴任せる當村の功勞者。氏は沼田中學にて修學。夙に農村改革に意を注

ぎ、又、村政に參與して村産業自治に貢獻する處頗る顯著である。その卓拔せる手腕と重厚なる人格は村民の深く信頼する處で曩に推輓され村會議員として出馬し見事に當選中樞に參畫するや、氏の眞價は光彩陸離たるものがあり、時流を抜く識見と頭腦の牙えとは堆積の滞税の整理に盡瘁してこれを處理し、又小學校増築工事、縣道改修等、氏の功績は光芒燦たるものがある。その間、氏は村長、信用組合長、學務委員等を歴任し、現在は、村會議員、學務委員、信用組合長、赤十字社正社員等の公名、譽職を兼任し縣農會群馬支會評議員をも兼ねてゐる。氏の如き人物は當代稀にみる逸材にしてその人望、名聲噴々たるものがあり、今後を刮目して期待すべきである。氏の趣味は、産業を奨勵し、農村の多角經營の研究である。家庭には令閨たま夫人との間に三男三女あり、圓滿をもつて聞ゆ。

白澤信用購買
販賣利用組合 本組合は、組合員四百四十九名にして

一口金額二十圓、出資總額は二萬六百四十圓である。貸付總額四萬九千五百五十六圓、貯金一萬四千八百七十六圓、購買價額は、二千五百二十圓にして販賣價額は二千三百四十五圓である。歴代理事長は、新井梅吉氏、山口磯一氏、池田文作氏、戸部盛近氏、理事長池田文作氏である。理事は桑原桂藏氏、樋口他二作氏、中村茂氏、松井皆吉氏、鶴淵伊勢松氏、新井梅吉氏、池田信次郎氏、戸部盛連氏、監事は根岸奈良司氏、萩原助次郎氏、松井釜三郎氏、小林俊六郎氏、新井角太郎氏、高橋桑次郎氏の諸氏である。

片品村 幡谷

村會議員 井上 勝次

井上家は創始以來相承繼して十代を重ねてゐる舊家である。農業を家業として今日に及ぶ。その間名主等を勤めたことがある。菩提寺の梁贊寺に在る墓碑銘に明記する所である。亡父佐五郎氏は名主を始め戸長、部頭、區長、村會議員、國

勢調査員を勤めて、功勞没すべからざるものがある。勝治氏はその長男として明治三十九年四月十四日に生れた。片品小學校及び農學校を卒業し、大正十五年兵



の陸軍歩兵上等兵である。早くより青年團長在郷軍人

會分會副會長を歴任し、現に村會議員、消防部頭に任せられ、また養蠶實行組合を始め、農業及び林業の事業に關係し熱心に努力奔走してゐる。本村を單位として農村交通の完備、農事の改良充實、村政の圓滿なる發達を期して盡瘁する所大である。少壯議員として村會の異色であり、その前途を大いに期待されてゐる。母堂スエ刀自五十二歳頗る健勝で、マサ夫人三十二歳甚だ貞淑である。長男定次君十三歳、二男郡二君十歳、三男環三郎君七歳は小學校に修業中であつて、なほ

四男正二君三歳があつて一家鍾愛の中心となつてゐる。家門は常に繁榮和樂を極めてゐる。

片品村 土出

村會議員 萩原 松藏



開祖以來七代、世々郷黨の信望高く、農耕を以て本

業とし、先代宗吉氏は永年の間區長をつとめたる部落の恩人である。氏はその長男、明治十四年七月二十八日を以て呱呱の聲をあげた。祖業のほか養蠶業を営んで家運を隆昌に導き、また擧げられて第二次國勢調査員、土地貸賃價格調査委員區長一回、學務委員二回を歴任、現時、村會議員に當選、老驅なほ軒昂たる意氣を有し、村のため夙夜淬勵怠りなく献身の努力を捧げてゐる。曩に國勢調査員並

川場村 湯原

村會議員 角田 實

溫厚篤實にして公共の精神に富める氏は、先代岩藏氏の次男として出生。先代岩藏氏は、學務委員を勤め、育英事業に功勞ありたる人、現在は方面委員として

村民の福利に盡瘁してゐる。氏は四年前より荒物雜貨を始め、よく家業に精勵し



今日の興隆の基礎を固めた努力家である。氏は亦、夙

に村政に心を砕きこれに盡瘁し貢獻寄與する處頗る甚大で曩に推輓されて村會議員の要職に就くや粉骨碎身、村自治産業方面に献身的に盡瘁し、その眞摯なる熱意は村民の信望頗る厚い。家庭は令閨との間に一女あり、琴瑟相和し圓滿なる家庭である。

水上村鹿野澤

村會議員 荒木 理一

資性恬淡磊落にして謹嚴なる一面あり舉措懇懇にして明朗を極め、本村人材中新鋭を以て開ゆるは、わが荒木理一氏である。氏は山口周次氏の二男として明治

三十二年三月十五日に呱呱の聲をあげ、長じて荒木西松氏の養子となつた。生家は素封家として廣く知られ、實父は村長に選任自治に幾多の業績を残せる功勞者であり、令兄は現に助役に任じて活躍中である。養家もまた村内屈指の素封家といはれる家柄にて、養父は木炭業並に旅館業を經營し、輿望を擔つて村會議員、



區長、その他の公名譽職に歴任せる傑材である。氏は

齡漸く不惑に達して村内に重きをなし、前途多望なる有力者との定評あり、曩に村會議員一期及び區長二期をつとめ、現時三期目の村會議員に選ばれ、村政上幾多の貢獻裨益あり、氏の手腕と力重にかけて今後の活躍は大いに期待されてゐる。家業は材木商。趣味は讀書並に將棋まん夫人との間には二男五女を有し、長

男正次氏は自宅にあり、長女よね子さんは沼田高女を卒業後、東京市に遊學し和洋女子文化學院師範部在學中である。因に養父の開業せる旅館荒木屋は水上驛の開通と同時に開設せしものにて、設備よく整ひ、サービスまた満點好評である。

水上村藤原

村會議員 林 義一



當家は先代泰次郎氏の時に分家創立されしものにして、

て、農を業とし、氏はその長男として明治二十一年五月二十六日を以て生をこの世に享けた。同四十二年兵役に服し、除隊後は農業のほか養蠶並に林業を經營、傍ら推されて村會議員となり、現時その四期目の任にあり、藤原小學校に高等科を設置せしは氏の功績に負ふところ大なり。

るものあり、また村道改修に盡力し、藤原部落の發展繁榮に絶大なる功勞があつた。現に村會議員たるほか學務委員、軍友會利根郡班長、同評議員を兼ね、令名愈々赫々たるものがある。資性剛毅果斷にして英氣潑刺、素朴赤誠の人格者である。スギ夫人は明治二十五年の生れ、長男連枝君(大正六年生)及び長女禮子さん(昭和四年生)があり家庭は幸福を極めてゐる。

沼田町沼田

町會議員 傳田太兵衛



當家は長野縣上水田郡より來住し既に百二十年を経

たる舊家である。先代太兵衛氏は白小豆にて羊羹の製造を創始した。元治元年沼田町字下立町大火に罹り白小豆の種を類

燒鳥有に歸したが、遇々厄を免がれたる自家倉庫より僅か五、六粒の種子を見出し、庭先に於いて種子の増殖に勉めた。その功は現在遂に當地の重要特産物として、宮内省御用商人東京赤坂虎屋に毎年二百五十俵を納入するに到つてゐる。

當家に傳はる白小豆を原料とする羊羣は其特殊なる製法により、優美風雅の味覺によつて、茶道の人々に愛用され、東京始め廣く一般に販路を持ち、當町の名物として知られてゐる。先代も町政方面に町會議員として多くの功勞を残したが當主太兵衛氏も先代の二男として呱呱の

呱を擧げ父業を繼ぐと共に、町自治方面にも思念する處厚く、曩に區長代理、區長、納税預金組合評議員、赤十字正社員等に歴任、現在は町會議員、沼田耕地整理組合副組合長として、町治に産業に大いに盡瘁する處がある。氏は又沼田中學に永年教鞭をとりし恩師飯田萬吉先生後援會に率先參畫し、現在自宅に事務所を置いて、逝ける恩師追善に努めてゐる。

白澤村高平

前村小野つる



故小野兵藏氏内届指の素封家である。明

小野家は創始以來八代を閱して現在に至り、代々名主動役に名帯刀御免の名門にして村の素封家である。明治維新以後は戸長、區長を勤めて功勞少からず、また寺小屋を開いて近隣の子弟を教育した。第六代の茂兵衛氏は縣會議員、郡會議員、等を歴任し、村長に任せられ功勞極めて多大であつた。特に白澤

村粟生街道開通の主唱者にて、遂に奔走努力して縣道の完成を見るに至つた。また高平小學校創設に努力して之に成功し雲谷寺の檀徒惣代として功勞あり、また



故小野雅氏

區長、消防組頭、初代郵便局長等を歴任

して、功績枚舉に遑あらず。木村達道、西川玉坪兩先生に教を受けて漢學に通曉し、漢詩に練達してゐた。その男兵藏氏は、また亡父の遺志を繼ぎて縣會議員、村會議員を歴任して村長に擧げられ、功勞多大である。財團法人公盡社を設立し區有林を高平部落有林に編入整理し、引きついで大いに植林事業に努力した。現在林相整備して莫大なる富源を爲すに至つた。御大典記念章を授けられ、縣知事、農林大臣、郡農會等よりその功を表彰せられた。雅氏はその長男にして村長

に任せられ、村會議員に在任したが、惜しくも四十八歳を以て早世した。その夫人つる子氏は純眞純情にして至誠貞潔の節婦である。令嬢梅子さん二十三歳は沼田町なる桔梗ヶ丘文化女學校本科を卒業し、令婿を迎へて琴瑟相和し、母堂の指導の下に育兒に没頭せる賢女である。母堂は村内外に命名高き節婦にして、その女は貞女賢婦である。家門の再興は期して待つべきである。

片品村東須川

村會議員 千明 新作



當家は村内に於ける舊家として知られ、代業を本業とし、副業に養蠶及び林業を經營せる家である。先代龜吉氏は特に精農家の聞え高かりしが、今より三十年前幽明境を

異にせられた。氏はその長男にして、明治十九年七月二十日を以て呱呱の聲をあげた。本村小學校を卒業後、高崎歩兵第二十五聯隊に入營、隊の模範として信望をあつめ、除隊歸郷後は、専ら家業に精勵努力し、傍ら自治公共の事業に盡力するところ多く、村の自治功勞者として著聞し、區長、衛生組長、學務委員等を歴任、村内道路の改修、東須川分教場の改築には特に寢食を忘れて奔走した。現時村會議員に選ばれて活躍しつゝあるほか、農事實行組長を兼ね、夙夜淬勵、公益を圖つて倦まず、功績愈々顯著なるものがある。資性實直にして篤實、農事改良を趣味とし、政友會系の才幹として人望をあつめてゐる。家庭には母堂ナツ刀自健在し、夫人きわさんは内助の功を樹てること多き賢夫人である。長男正氏は現在支那事變のため北支方面に出征活動中であり、他に二男計氏及び長女ツル枝さん、二女モトさんあり、家内頗る圓滿を極める。

水上村小日向

村會議員 阿部喜三郎

名聞利權を追はず、狷介不屈、衆望噴噴たる氏は、松井辰次郎氏五男として明治二十四年十月九日を以て生を享け、後阿部波之助氏の養子となつた。阿部家は當地に於ける有数の舊家にして、先代は農業の傍ら區長に任じ、部落發展に功績甚大なりし徳望家である。氏もまた夙に篤農家として知られるほか、自治公共のことに力を竭すところ多く、區長、消防組頭、國勢調査員を歴任、後、全村の輿望を負うて村會議員に選出せられて現にその職にあり、選舉民の意を體して自治に献身的努力を拂ひ献策頗る多い。また日本赤十字社特別社員である。先年、消防組十五ヶ年勤續の功により警察署長及び村當局より表彰されるの光榮に浴した。政黨は立憲民政黨に屬し、當地方の重鎮である。資性謹直にして濃厚なる點あり、素朴純眞、誠實眞摯、限りなき謙

辭を呈しても足りることなき偉材にして趣味も多方面に亘り、萬能である。令閨クラ夫人は明治二十八年の誕生、氏との間に五男五女を有し、家庭は圓滿幸福である。

池田村發知新田

池田郵便局長
元村長勳七等

發知 茂平



資性忠直辭令を善くし、敏腕と果斷を謳はれる氏は沼田中學校出身の俊英にして、近衛歩兵第二聯隊に勤務せる勇士である。その祖は當地開創の大恩人にして、發知新田の名もその姓より來るといひ、由緒深き素封家であり、代々名主をつとめて部落に重きをなし、先代平五郎氏は戶長、區長村會議員等に推され、東奔西走して成績大いに見るべきものあり、本村自治功勞

者中の異材との定評がある。氏はその長男として明治十六年三月十五日に生をこの世に享け、夙に收入役十年、村會議員二期、村長に任じ、村長時代、佐山、奈良、秋塚の道路を完成し、トンネルの開鑿に成功するなど、多大の事績を残し、また收入役時代には勤績功勞者として表彰されるなど、異数の人材である。現時村會議員、池田郵便局長、村農會長、方面委員、區長、郡農會副會長を兼任し、貢獻裨益愈々大なるものがある。令閨ユキ夫人は明治十八年の出生、長男宅平氏は支那事變に出征中、二男友平氏は沼田農學校在學中、長女次女は他家に嫁し、他に一男二女がある。因に池田郵便局は昭和十二年八月の開設に係り、爲替、貯金、振替貯金、集金郵便、代金引換郵便の事務を取扱ふ。

片品村

村會議員 星野 利

星野家は藤原鎌足公の子孫であると傳



へられる。菅沼より來住してより七代を
 開してゐる。名主動役に名帯刀御免
 であつた。また戸長に選任されたことも
 ある名門にして、代々の豪農、村内屈指
 の素封家である。福藏氏は戸長に任命さ
 れて功勞
 多大であ
 つた。利
 氏はその
 三男とし
 て明治二
 十一年四月一日に生れ、分家獨立した。
 小學校を卒へ、陸軍砲兵上等兵に任ぜら
 れた。國勢調査員、土地貸賃價格調査委
 員、區長、學務委員等を歴任して功勞少
 からず、現に村會議員に當選二期に及ん
 である。また養蠶實行組合理事、信信用
 組合評定委員を兼務してゐる。農業を營
 み傍ら養蠶を業としてゐる。經濟更生及
 び農業の改善作振を主張して、甚だ熱心
 である。讀書を第一とし、農業の多角的
 經營の研究を趣味として楽しんでゐる。

清廉高潔にして剛宥不羈、懇懇鄭重にし
 て謙讓抑遜、よく人を容れ、よく人に施
 して、信望絶大なるものあり、東京稅務
 監督局より感謝狀を授けられた。曹洞宗
 を奉じて信仰が厚い。はなのを夫人は貞
 淑を謳はれ、よく内助の功を積んでゐる。
 長男成一君十六歳、二男尙治君十三歳、
 三男實君十一歳、四男純男君六歳、二女
 日出子四歳、五男勝治君二歳があつて子
 福者の家庭である。一家は常に春風胎蕩
 として、至福至樂を極めてゐる。

に學び、衛生部隊に勤務して伍長となり
 除隊後鐵道省に入り、現在は東京鐵道局
 高崎診療所水上出張所の助手を勤務して
 ゐるが、勤績實に二十ヶ年に及んでゐる。
 當村に於ける鐵道従業員等は、戸數制そ
 の他に關して村當局との接衝の多きを考
 慮し、推されて村會議員に當選、特にこ
 の方面に活躍する大なるものがある。趣
 味は俳句、隠れたる藝術家である。夫人
 ウメさんとの間に長男信一郎氏外五女あ
 り、長女光枝さんは沼田高女に學び、常
 に優秀なる成績を見せてゐる。

水 上 村
 村會議員 高橋 三之助



氏は明
 治二十八
 年三月三
 十一日、
 前橋市神
 明町の家
 に、長八氏の三男として生れ、郷校卒業
 後、上京して明治藥學專門學校の前身校

白澤村上古語父

元村長 増田 惣二
 當家は從四位鎮守兼武藏守藤原秀郷よ
 り出でたる士族にして、増田右京の子孫
 仁兵衛を名乗り、分家して當主で十代目
 代々名主戸長を勤めし由緒ある家柄であ
 る。氏は利根郡久呂保村、澤浦良太氏の
 次男として明治十四年五月二十七日出生
 先代武市氏の養子として迎へられ當家を

繼承したものである。當家は農を以つて
 家業と爲し、養父武市氏は、當村初代村
 長を勤めた自治功勞者である。氏は久呂
 保高等小學校を卒業して沼田育濟館にて
 修業、夙に村政に參與してその功績尠か
 らず、曩に推輓されて區長在任時代、當
 村一本松より上古語父に至る道路の開通
 に寢食を忘れてこれより完成に奔走し、
 尙又、東京電燈電線の引込み等の成功は
 氏の顯著なる功績中特筆すべきものであ
 る。その識見の高邁さ、時流を豫見し、
 圓熟せる手腕、圓滿なる人格、明快なる
 決斷力は、高潔なる氏の人格に益々濃厚
 味を加へ、村民の信望噴々たるものがあ
 る。氏は曩に收入役、村長の要職を歴任
 し、現在は區長の公職に在る。氏は又、
 近代稀にみる謹直なる士にして、曩に御
 大典の節、自治功勞者として表彰されて
 ゐる。家族は令閨さい夫人(55歳)は貞
 淑を謳はれ、氏との間には一男二女有り、
 家門いよいよ富み榮えて、常に平安にし
 て圓滿なる家庭である。

古馬牧村後閑



前村長 櫛淵 里治
 當櫛淵
 家は寛政
 七年に祝
 融の災に
 見舞はれ
 て家屋と
 共に什寶古記録類を烏有に歸せしため、
 開祖當時の詳細不明なるも、當地の草分
 として一般に著聞し、代々名主役に任ぜ
 られ、先々代は沼田藩の養育係をなし、
 薄村から水上村の越後境たる藤原部落に
 至る間の青年子女の教化につとめ、令名
 殊のほか高かりし傑材、後、農業を専業
 とし、副業に蠶繭商を営んで家産の増大
 をなした。先代は精農家として聞え傍ら
 名主、戸長に任じた當地方發展の功勞者
 である。氏は明治三年六月二十一日の岳
 降、先代三男なるも長じて家督を相續し
 祖業たる農耕の業に従事するほか、有隣

水 上 村

元村長 眞庭 常太郎
 農事改良を以て生涯の使命とし、自治
 産業上に幾多の業績を遺せる氏は、眞庭
 菊藏氏の二男にして明治十年三月十日の
 岳降である。日露戦争に出征して拔群の
 戦功を樹て、軍曹に任ぜられた勇士であ

る。家業は農業、副業に養蠶並に林業を經營する。曩に助役、村長、消防組頭、在郷軍人分會長三期、村農會長等を歴任し、縣道



開鑿の工事、小學校舍増築の完成、軍友會より

り軍人分會への組織變更に際しての功勞など枚擧に遑なく、現時、常務委員方面委員、金錢債務調停委員を兼ね、郡下の有力者として名聲噴々たり、資性篤實にして剛毅の一面を有し、衆庶の儀表たるべき才幹である。キン子夫人との間に一男五女を儲け、他に愛孫一名がある。

永上村藤原

村會議員 八代 薛

國民精神總動員の線に沿うて東亞の盟主たるべき大日本の使命を深く認識活動しつゝある氏は、資性實直にして濃厚、

對人關係は頗る良く、庶民の信望あつき人格者である。當家は氏を以て十代目とする名門にて、先考徳次郎氏は農蠶業に従事して篤農家と稱されし一方、村の耕地整理事業に盡力し、本村農業の開發に多大の功績ありし努力家である。氏はそ



の長男として明治二十一年七月十八日に生を享けた。

農耕の業に携はりつゝ早くより區長、養蠶實行組合長等に擧げられ、部落の繁榮に寄與貢獻多く、現時、村會議員及び方面委員を兼ね、自給肥料増産獎勵をはじめ、村内産業の改善發達に意を用ひるほか、社會事業に盡瘁し、殊に生活改善の方法による貧困者救済に獨特の抱負と手腕とを持つてゐる。昭和九年には率先藤原森林組合の設立に參畫し、爾來組合長として今日に至り、これまた事業辦々たるものがある。また氏は信念の人にて意志鞏固である。マス夫人との間には三男三女を有し、家庭は和氣に満ちた團樂の目を送つてゐる。

片品村東小川

村會議員 須藤 嘉佐武



亡父彌三郎氏は彼の義人茂左衛門の徳風を慕ひ私淑

する所甚だ深く、氏の一生は全く公共のため犠牲的奮闘に終始してゐる。名主、戸長を歴任して功勞甚大、郷黨悉くその遺徳に照し遺功を仰ぎ讃嘆せざるものはない。氏の史實資料は多くは須藤家の菩提寺たる龍滄院に藏され、特に寺内の墓碑銘には詳細を盡してゐる。當主賀佐武氏はその長男として明治二十四年八月十一日に生る。片品高等小學校を卒業して

より近衛歩兵の服務を完了した。農業を以て家業とし、傍ら菓子商を営んでゐる夙に小川青年團分團長を始めとし、第一回國勢調査員、在郷軍人會評議員などを歴任し、陸軍大演習に當り前後三回に互り應召奉仕するの光榮に浴した。現に村會議員に任ぜられ、農會代議員、片品水道組合長、氏子總代、檀家總代を兼務してゐる。曾て税金滞納の整理委員として成績極めて優秀にして大いに稱揚せられた。政友會々員として平和明朗なる自治を念願とし、地方政界に雄飛してゐる。農事改良に頗る熱心にて特に世話好きの親切なる名聲高く信望甚だ廣大なるものがある。家庭は、ます夫人は淑徳を稱へられ、シン子嬢に養子茂吉氏を迎へ琴瑟相和し、一男一女を恵まれて、家門の隆榮著しく、常に圓滿和樂を極めてゐる。

沼田町西倉内

學務委員 勳八等 雨森 新六

書道、盆栽に興味を有する濃厚篤實な

人格者に郷民の信望すこぶる厚き氏は明治元年十月十七日當村屈指の名門にして城家に仕へし丹後守勝政を祖とする當家に呱呱を擧げた。夙に智慮業に勝れたる才人として聞え、郷校卒業後、縣師範學校に優秀なる成績を以て入學、卒業しては教育界に身を投じて育英界のため盡瘁すること四十年の永きに及び、その貢獻裨益する實に多大なるものあり、退職後は社會公共の爲に各公職に關與、現在學務委員、方面委員、結核豫防委員、縣記念事業指導委員の任にあり、表彰も、勳記に遑なく、勳八等に叙され、また御大典者として表彰を受け、今や氏の名は偉大なる教育功勞者として村内は勿論の事、郡下にも響いてゐる。長男新次氏は早大理工科出身の頭腦明晰なる材幹、いま大同銀行に奉職し、夫人てつ子さんとの間には二男一女あり、家庭頗る圓滿を極めてゐる。因に當家は天台宗に歸依せる篤信家である。

沼田町沼田

沼田信用組合長 桑原 幸吉



氏は先代故幸吉氏の長男として明治三十年八月五日

に生る。本家の桑原立之助家より分家して三代目に當る。代々呉服商を營み、先代は郡會議員に擧げられて令名が高かつた。當主幸吉氏は沼田中學校を卒業し、既教育補充兵役にて三箇月在隊勤務した。新進の實業家として立志奮闘の人であつて、逐年功を成し富を積み業勢大いに振ひ、群馬太田銀行沼田支店、足利銀行高崎支店に取引口座を有してゐる。夙に商工會長、農會長、耕地整理組合長、防護團長を歴任し、現に沼田信用組合長理事に任ぜられ、榛名神社氏子總代を兼務してゐる。氏は沼田信用組合の危機を

救ひ之を整理して復活せしめ、能く今日の發展を招來し、農村金融の第一線に在りてその使命を全うせるは一に氏の人格識見と、その財力信用と、熱誠なる努力經營の適切確實なるに由るといふべきである。日本赤十字社々員にして特別有功章を賜はつた。家庭にノブ夫人あり貞淑を誦はれ前橋高等女學校出身の才媛にて現に今、國防婦人會班長として活躍してゐる。長男浩二君あり、沼田中學校卒業の秀才である。

川場村

村會議員
産業組合長

高井臨作



高井家は創始以來現在に至るまで十五代を聞ける舊家である。亡父安兵衛氏は夙に村長、農會長を歴任して功勞多大であつた。更に

産業組合を創立して初代の組合長に任せられ盡瘁するところあり、臨作氏はその長男として明治二十年五月十六日に生れた。嚴父の後を襲ぎて川場信用販賣購買利用組合の組合長理事として現任中である。また昭和十二年四月推されて村會議員に就任した。氏はその資性豪放磊落にして明朗潤達である。よく人を容れて徳望絶大なるものがある。禪宗を奉じて信仰頗る厚く、確乎不動の信念を持す。夫人は淑徳の譽高く、一男二女あり、長男秀雄君は沼田中學校に修學中である。さすがに名門とて家風甚だ優雅にして敦厚を極め、慈仁義侠に富んでゐる。凡そ公共の事に關するかぎり寢食を忘れて東奔西走し、志したる事にして貫かざれば止まず、企たる事にして成らざれば廢せず全く信念の人たる家長によつて庭訓を受けたる令息令嬢は、他日社會に處し家を宰する日には、必ずや嚴父君の名を辱めることなく、今よりして既に大いに刮目して期待せらるゝといふ。一家は至福至

樂一門益々隆榮を極め、他の羨望の的となつてゐる。

産業組合 當組合は今より十五年以前に創立せられ、爾來、年數を關する毎に基礎愈々鞏固となり、組織益益調整せられ、成績優秀を持続して業界に卓出せる一權威である。今や組合員五百四十六人、出資口數は千六百九十二口に達し、その他に組合員たる法人は農事實行組合十七組、出資口數二十一、組合六百十五人を算してゐる。最近拂込済出資金は二萬四千九百四圓四十錢である。餘裕金は二萬千六百六圓餘、預金は一萬三千九百六十四圓餘である。理事は高井臨作氏、今井武重郎氏、關吉計氏、關吉司氏等十氏、監事は高井富士松氏、外山伊一郎氏、明田勘重郎氏、吉野荒次氏等七氏、信用評定委員は戸丸元吉氏、信澤篤彌氏、中村彌三郎氏等十四氏を選任してゐる。高井臨作氏組合長に任ぜられ今井孝次氏は同組合の顧問として在職してゐる。

池田村

池田産業組合
専務理事

左部專一郎

當家は當村屈指の舊家たる家系にして先代牧太郎氏が分家なしたものである。牧太郎氏は多年初等教育界に奉職して貢獻の尠からざる人である。當主專一郎氏は其長男として明治二十九年三月二十八日に呱呱の聲を擧げた。資性極めて剛毅眞摯殊に計數に明るく、その濃厚圓滿なる人格と共に村民の信望厚く推されて、養蠶實行組合監事、學務委員、農事實行組合副組合長たり。又池田産業組合の財政を整理して破産の危地よりこれを救ひ又農事實行組合とのタイアップを圖り、肥料購買の斡旋、木炭の統制販賣等に精力を傾注して産業組合内容の強化整備とその發展に大いに貢獻し、村民より多大の感謝を受けてゐる。最近に於ける大略の數字を見ると

差引純財産 一六、四四四圓
差引損失金 一、三七一圓

この損失金は三、三九二圓餘の未收利子の回収を爲し補填する。

貸付金 三八、四〇〇圓
内年賦貸付、定期貸付相半してゐる。
出資金 一六、二四〇圓

となつてゐるが、未だ將來への優良組合たるべき榮譽は今後の結果として俟たるべき問題にして、現組合専務理事たる氏の手腕と努力はもとより役員、組合員一致協同戮力の統制下に於いてのみ實現さるべきものである。因に氏の家庭はそう夫人(四十四)長男完一君(二十一)次男君(十三)三男敦男君、長女ひろさん(十六)次女たつさん、三女ともさんの三男三女の子福者である。

古馬牧村

在郷軍人
分會長

高橋林太郎

當家は今より三代前に分家獨立せるものにして、代々農を以て家業となし、徳望全村に普きのみならず、篤農家との名聲は嘖々として遠近に轟いてゐる。氏は

先代九平氏の長男にして、明治十九年五月十七日を以て生をこの世に享け、日露戰爭には出征第一線に立つて銃火の下に赫々たる武勳を樹てた。夙に東京に出で初め澁谷町役場に勤続五年の後、目黒町に轉じ、こゝ



に勤続十ヶ年、稅務關係事務にはその右に出づる者なしとまでいはれた。大正五年勳八等に叙され、同八年十月勳七等に陞り、更に同十一年にはシベリヤ事件出征の功により勳六等を賜はつた。故郷に歸つて後は農耕に親しみ、傍ら在郷軍人分會長、地方經濟委員の要職にありて事績著るべきもの多く、非常時局に際會し大いに國家的大局の上より郷土のため盡力してゐる。趣味は釣魚、圍碁及び將棋等。資性剛毅にして沈勇、磊落の風あり夫人モリさんとの間には長男基一氏、二

男玄二氏、三男吉藏氏あり、和氣に充ちた團欒を形造つてゐる。

水上村川上

方面委員 元助役 中島 恒雄

氏は明治十三年六月三十日、區長として部落のために盡瘁功勞のあつた故近治郎氏の長男に生れた。家は三代目、代々農を本業となした。氏は水上共同校の出身、家業に就いて勵精努力、實直の士としてたゞへられた。曾て、村助役に推薦されて村長を輔け、また村會議員に當選すること三回、その他國勢調査員、土地賃貸價格調査委員、氏子總代、健明寺檀徒總代等を歴任、その間讃稱された功績も決して尠なくはなかつた。今、方面委員として、忠實に社會事業に盡力貢獻してゐるが、また信用組合監事、養蠶實行組合副組合長でもある。稅務監督局から表彰されて木杯一個を贈られた。夫人との間に長男弘氏、二男節雄氏、三男喜三氏あり、外に二女がある。

川田村下川田

信用組合長 從七位勳七等 見城 孫治郎



當家は深代金平氏宅より分家せるものにして、氏は

源八氏の四男として、明治十三年四月九日に生を享けた。先代は名主、戸長、村會議員、區長、等に歴任せる自治の功勞者である。氏は明治三十四年群馬師範を卒業し、僅か一年の後、同三十五年には校長に拔擢されたる教育的手腕家にて、名校長と謳はれつゝ、その半生を初等教育のため捧げ、退職後は専ら自治公共のことに竭し、村會議員、川田産業組合長、産組郡部會長、群馬縣教育報國會支部長方面委員、社會教育委員等の重責に現任し、圓滿なる自治の運用に意を用ひ、川田村をして縣下の、延いては全國的優良

村たらしむべく努力を拂つてゐる。資性濃厚志操堅固にして深慮遠謀の人、至誠至純のその人格は萬人の敬慕措く能はざるところである。ツタ夫人は明治七年生れ、五男三女を有し、いづれも中等學校以上の教育を施し、秀才と謳はれてゐる長男貫一氏夫人ミキさんは目下教職に就いてゐられる。なほ氏が組合長たる川田信用購買組合(電話沼田七五〇番)は、組合員は四百八十五名、出資總額一萬四千五百圓をかぞへ、保證責任組織にて、貸付總額十一萬三千七百餘圓、貯金三萬四百餘圓、購買は肥料を主に四萬萬三千五百圓を越て、販賣は木炭及び大小麥を主として二萬圓弱、殊に小麥販賣統制の實施は、當組合が郡下に於ける嚆矢である。昭和十三年三月、製粉工場を設け、利用事業も着々實績を收めてゐる。主唱發起人は青柳佐健吾氏、初代組合長は萩野貞次郎氏にして、氏は二代目に當り、現任役員は小田源之助氏のほか理事六名監事四名をかぞへ、十六ヶ所の出張所と

二棟の倉庫を有してゐる。

沼田町材木町

方面委員 勳八等 高橋 宗太郎



當高橋家は當地有數の素封家として著聞し

古くは農業を以て家業とし、篤農家の定評があつた。先代直之助氏は殊に農事改良に多大の寄與貢獻あり、信望あつかりし人材にして、當主はその長男、明治七年八月十二日を以て呱呱の聲をあげた。日露戰爭の時は、近衛野戰砲兵聯隊に屬して出征し、暴虐ロシア打倒のため忠勇義烈の武功を樹て、勳八等に叙されて凱旋した。その後、在郷軍人分會評議員、軍友會沼田町理事に擧げられ、豫後備軍人の團結とその指導に任じ、功績大いに賭るべきものがある。現在は専ら方面委員として

夙夜寢食を忘れて活動し、方面事業第一線の權威者にて、貧困者より慈父の如く慕はれ、また一般町民からもその篤行を多とされてゐる。至情至純、謹直の人格者にて、花道に興味を有し、新遠流の達人といはれる。家業は氏の代に至つて祖業たる農耕を廢して、提灯製造業を創め現在には衣服紋あげ及び繪提灯商として當地方その右に出づるものなく、限りなき繁榮の道を進んでゐる。家庭には夫人タケさん、長女かず江さん、四男昭氏、六男勝之助氏等あり、極めて圓滿平和である。

白澤村下古語父

青年團支部長 小林 敏雄

小林家はその創始以來六代を閉して現在に至つてゐる。世々専ら農を以て業としてゐる。代々名主動役にして名字帶刀御免の名門である。引きつゞき戸長、區長等を勤め、全村屈指の素封家である。祖父春藏氏は夙に村會議員に任ぜられ、

消防組部頭をも兼任して功勞が多であつた。その間村小學校の改築及び道路の改修を主唱して之を完成した。更に産業



先代春藏氏 組合を創立したる功勞者として感謝され

てゐる。自治功勞者として御大典記念章を授けられた。その長男萬作氏は敏雄氏の卅歳の時に永逝し、爾來、祖父春藏氏母堂いわ子さんとの丹誠を盡せる努力の



下に成長した。敏雄氏は萬作氏の長男として 大正五年

十月十八日に生れた。利根農學校を卒業し、今や夫人を迎へて家を成し、青年團下古語父支部長の要職に在り、盡瘁貢獻

甚だ努力しつゝあり、資性は溫柔にして寛容、豪放にして磊落、一面に堅忍にして熱烈なるものあり、早くも人望を博して他日を期待せらる。特に祖父及び母堂に對する孝養は至れり盡せりにて、萬人をして感奮興起せしめざればやまない。祖父春藏氏は益々矍鑠として健勝であり母堂いわず刀自また強健なること壯者を凌ぐものがある。夫人まさ子さんは極めて貞淑にして内助に力め、琴瑟相和して一門益々至福至樂、家運隆々たるものがある。

片品村東小川

東小川區長

須藤 忠吉

謹直にして素朴、農業報國の念厚き氏は先代家松氏の二男として明治二十年二月十五日呱呱の聲を擧ぐ。代々農を家業とせる當家は篤農の聞え高く、先代家松氏は檀徒總代を十年勤め又區長を永らく歴任した温厚篤實の人、尙、氏の祖父兵三郎氏も亦戸長等を永らく勤め村に功勞

ありたる人である。氏は郷土校を卒業後夙に家業に精勵し、又、村自治産業にも寄與貢獻するところ頗る多くその識見、手腕共に衆の認めるところで推されて區長に就任したものである。農業の改良が氏の趣味で現在自治に參與して活躍中であり、今後の氏の進出こそ刮目に値すると云はねばならぬ。家庭は母堂ソメさん當年七十六歳の高齡なるも尙健在にしてその外令閨ミチさんとの間に、一男一女有り、圓滿にして春風常に氏の家庭に漲つてゐる。

古馬牧村上牧

第六區長

高橋

巳之吉

各戸早起の勵行廢物利用の徹底的強化、節酒節煙の實行、協同一致精神の發揚、郷土愛好精



神の漸養など、氏が區長就任以來、第六區の成績は頓に向上を來し、正に村内第一の好成績を示さんとして居り、四隣農村部落の模範となつてゐる。氏の努力の如何に甚大なりしか、また氏の手腕の如何に卓拔なりしかは、これを以て充分に窺知し得るのである。抑々氏は阿部嘉次氏の二男にして明治十五年一月六日の出生、長じて高橋家の養子となりしものにて、養家は代々農を本業とする舊家名門である。實父は區長をつとめ、養父房次郎氏また永年自治の事業に關係し、氏もまたこれら實父養父の薫陶により、夙に公共のため貢獻裨益するところあり、村農事耕作調査員たること多年、頭腦の明晰明敏と、手腕の拔群卓越なるとは、全村民の等しく畏敬するところであつた。その後區長の要職に推され、自治體の圓滿を圖り、村更生の道を邁進して叙上の成績を收め、聲望斷然他を壓するの觀がある。家庭には母堂タツさん、夫人テルさんのほか、長男忠次氏、同夫人桃代さ

ん、長女さわさん及び繁君、義高君、共子嬢の令孫がある。

新治村布施

布施區長

高野

熊三郎

電話布施三番



資性温厚篤實なる人格者にて、温容他に比較なき氏は一面苦勞人として知られ、若い頃から幾多の辛酸酸を嘗めて今日の地位を築きあげた、努力成功の士であり、立志傳中の異彩である。明治十年七月八日、高野甚平氏三男として新潟縣南魚沼郡三國村大字淺見に呱呱の聲をあげ、日露戰爭直前、氏が二十五歳の時、それまで農耕の業に従事してゐたが、感ずるところありて商業を志し、雄圖を抱いて當地に轉住分家した。爾來夙夜精勵大いにつとめる

ところあり、荒物、穀類、木炭、酒醬油の販賣を開始して漸次隆昌に向ひ、人に接して懇切、機を見るに明敏、加ふるに商略の才に長じ、今や當地屈指の商人といはれ、令名噴々として普く、家業繁榮の限りをつくして他の羨むばかりである。また日本生命保險會社代理店も兼營する。しかも早くから推されて村會議員區長、信用組合理事等の公名譽職に歴任して村勢發展に盡瘁なからず、現在もなほ引續き區長の任にありて部落のため寢食を忘れ活動してゐる。趣味は讀書。曩には自治組合長として表彰の榮に浴したることある功勞者である。夫人キクさんは明治十一年の出生、家庭には長男初太郎氏、同夫人ヒデさん、二男榮次郎氏長女ヨウさん、二女トラさん、三女キンさん、四女綾子さん等あり、圓滿至福を極めてゐる。

久呂保村

久呂保村長

七五三木政勝

當家は上杉家の家臣にして藤井姓を名乗りし人をその祖とし、代々農業を家業に養蠶を副業になせる當村屈指の舊家である。また當村開拓に功勞多き家柄にして今は亡き先代善兵衛氏は村收入役として執掌寄與せる村勢繁榮の功勞者、當主政勝氏はその男にて明治三十四年三月一日の出生である。温厚なる資性の中に俊敏の氣持を含み、自治に卓越せる手腕を有する材幹にて、未だ四拾歳の逸材なればその一舉一動は期待を以て矚目されその將來に多大の期待を繋げられ、當村發展の如何は氏の手腕如何によるものと言はれてゐる。青年時より自治に竭し消防組副組頭、組頭、青年團長等を勤めて活躍、衆望高まりて遂に村長に推輓を受け、いま村民の福祉増進の爲に一身を挺して活躍してゐる。また産業方面にも貢獻多く養蠶實行久呂準聯合會長、農業實行組合長の重任にある。トク子夫人は沼田女學校出身の淑徳の譽高き賢夫人、氏は利根農業學校出身にて間に一男二女あ

り、圓滿なる家庭である。

沼田町東倉内

方面委員 勳八等 坂 鎌 吉

今は爲すべきことのすべてをなし果した老軀を、夫人てい子女史と共に閑寂の生活にひたりつゝある氏は、明治三年六月二十七日先代彦平氏の三男として岐阜縣大垣市南畑町に生れた人、岐阜中學校の出身、小學校教員檢定試験に合格して本縣北甘樂郡黒岩小學校に奉職し、次いで沼田尋常高等小學校に轉じ、薫育事業に熱心従事すること多年に及び、縣教育界より勤績功勞者として表彰された。退職後は夙に町自治に心を馳せ、町會議員に選ばれること四期、學務委員、軍友會沼田會長等に就任、小學校の増築、道路の改修、沼田驛の開設、水道の開通等として關係せざるはなく、奔走周旋、完成せしむるに與つて功があつた。現在在は方面委員、金錢債務調停委員、榛名神社氏子總代を兼ね盡力しつゝある。生家は

戸田藩の士人だけに、剛毅にして謹直、他を責むる嚴格なるものがある。曾ては日清、日露の兩戰役に出陣、赫々たる武功を掲げて勳八等に叙せられた。趣味は讀三書味である。

古馬牧村下牧

下牧區長 村上 宗十郎



明治二十七年二月十九日 今亡 次郎氏の

長男に生を享けし氏は資性快爽淡明にして温厚なる人格者、郷校卒業後齊家修身に志を樹て専ら家業たる農に精進し、副業として養蠶業を営み、いま群馬社總代理業組合の任にあり地方産業發展の爲に奮勵してゐる。曾ては養蠶實行組合理事、土地貸賃價格調査員を勤めて盡瘁多大である。夙に自治公共の事に關與、

十ヶ年間の永きに亘つて消防部頭の責を果せし後、現在は區長、學務委員の任にあり、村勢發展、經濟産業更生の念を以て一身を挺して努力精進、その貢獻すこぶる大にして、功は人格と相俟ち衆望すこぶる高い。表彰も再三に及び、消防功勞者としては警察部長より表彰されてゐる。因に當家は當地屈指の舊家、累代當村伸展に功多き家柄にして先考作次郎氏は區長、村役場書記を勤めし人、先々代氏また名主、戸長をつとめし記録がある。曹洞宗に歸依し菩提寺は常恩院。家庭は春風洋々たる感あり、令閨ゆき子夫人との間に三男四女がある。

沼田町薄根

方面委員 大平 福太郎

大平家は新潟縣に於ける舊家、先代秀吉氏の代に當地に移住し、從來の家業をすて、理髮業にかへ、現在に及んでゐる。當主はその長男、明治二十三年五月十八日の出生、磊落にして剛膽、名利を度外

に措いて献身的に努力する人、夙に町の評判となり、現に方面委員として貧困者の救済、出征軍人家族訪問方法等に盡力し、多大の感謝を寄せられてゐる。なほ氏は薄根町衛生部長、町内會理事、利根美容組合評議員、沼田町耕地整理組合評議員等を兼務、私事をすて、奔走盡力してゐる。町内より役員十年記念功勞者として表彰された。令閨シゲ子さんとの間に長男尙正氏外四男がある。因に氏は南京攻略を目前に名譽の戦死を遂げた内山齡氏の遺言により、故人の好める場所の地を買収して、故人の靈を慰めてゐる。

沼田町坊新田

方面委員 小島 榮之助

先代勝藏氏の創始に係り、半農半商の家である。榮之助氏はその長男として明治三十一年二月十九日に生れた。沼田小學校を卒業してより、消防組小頭、區長等を歴任し、現に方面委員に任ぜられ、また商工會議所評議員を兼ねてゐる。公

營水道の敷設及び消火栓設置を計畫して成功し其功勞を稱へられてゐる。製綿業を営み、實業界に活躍せる中堅者である。貧困者の救済と、出征將兵の慰問後援を念とし、謹直にして温厚、至誠の人である。日蓮宗を奉ずることが篤い。母堂カノ刀自は益益健勝であり、イト夫人は淑徳の譽が高い。長男一三君、二男佳一君、三男稔君長女タカ子嬢あり、何れも多望多囀の秀才である。



活躍せる中堅者である。貧困者の救済と、出征將兵の慰問後援を念とし、謹直にして温厚、至誠の人である。日蓮宗を奉ずることが篤い。母堂カノ刀自は益益健勝であり、イト夫人は淑徳の譽が高い。長男一三君、二男佳一君、三男稔君長女タカ子嬢あり、何れも多望多囀の秀才である。

沼田町高橋場町

高橋場區長 角田 磯之

角田家は代々農を業としてゐる。氏は彦一氏の次男として明治廿四年七月十日に生れ、昭和四年一月十五日に分家して一家を創立した。池田村小學校高等科を



衛生委員 町内評議員等に歴任し、現に高橋場に區長に任

ぜられてゐる。氏は特に技術研究を熱愛し、今も尙ほ孜孜營々として倦まず撓まず、研究工夫を進めてゐる。資性は剛宕にして磊落、前途なほ春秋に富み大いに期待されてゐる。家庭はあさ夫人甚だ貞淑であつて、二男二女を恵まれてゐる。

沼田町西倉内

區長 眞下 康一郎

眞下家は傳統久しき舊家にして、始めは利根郡川田村下川田に住んだが、その後現地に轉住した。現在より七代前まで

は明確なるも、それ以前の事實は年代等一切不詳である。代々農蠶を以て業としてゐる。當主の康一郎氏は亡父新八氏の長男として、明治七年一月一日に生る。北勢多高等小學校を卒業した。現に區長に擧げられ四期に及んでゐる。また利根藩同業組合理事、日本赤十字社利根郡沼田町分區協賛員である。政友會の有力者にして一方の權威者である。書道に造詣が深く盆栽の趣味あり。氏の性格は優美典雅であつて謹嚴正直、廉潔にして篤實、時によつて保守、事によつて進取、拘泥するところなく、束縛することなく自由無碍、盧山八面である。浄土宗を奉じて信仰厚く妙好人の一人である。小學校に莫大なる寄附金を献じ感謝状を授けられた。氏は先に沼田町國防義會委員長として功勞顯著なものがあつた。なほまた群馬縣選舉肅正實行委員、交通安全委員等を歴任して功績があつた。こう夫人は淑徳の譽が高く、内助の功に富む。長男永雄君、二女董子嬢、三女とみ子嬢、

四女まさ子嬢、二男傳君がある。一家は常に繁榮して、圓滿平安を極め、和樂の聲が門に溢れてゐる。何人も來つてその春風に浴せんことを求めて、稱讚の聲が遠近に洽く廣がつてゐる。蓋し家長の徳の然らしめるところであらう。

水上村鹿野澤

水上醫院

當院の院長は正八位國府田品三郎氏である。氏は明治二十四年十月二十七日に生れた。大正四年九月東北帝國大學醫學專門部を卒業した。歩兵第五十九聯隊にて軍醫として一年志願兵役を了し、三等軍醫に陞任した。昭和六年九月、上越線の開通と同時に開業して今日に至つた。内科、外科、性病科を設置してゐる。氏の資性は謹嚴にして事を苟もせず、而も豪放磊落にして圓轉滑説、明朗安易にして寛容徳實、學理と技術と並び備はり常に研鑽を積んで怠らず、遠近より患者雲集して隨喜し、鰥寡孤獨、窮迫の人々

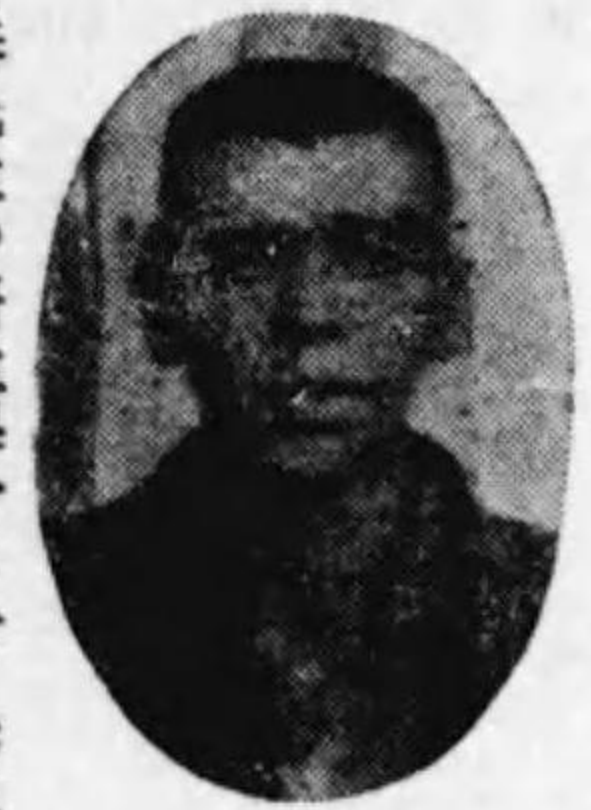
に施療施藥はいふも更なり、金品を以てこれを賑はし救済大に力む。氏の徳望四隣に高大なるまた所以なきに非ず。今や鐵道囑託醫、警察囑託醫を勤めて、精勵恪勤、絶大なる信任を寄せられてゐる。夫人も亦た氏の最も善き半身にして、淑徳高く慈悲の心に富み、よく内助の功を效す。一女四男を恵まる。長女は澁川高等女學校に修學中である。桃李不言、下自成蹊、まことに國府田氏は當世流行の賣名的宣傳を喜ばず、小心翼翼最もこれを恐る。しかも學識一世に絶し、篤行四隣に洽ねき氏は不言不語の間に、業勢日に月に繁榮し、家運年を追うて殷盛を極めてゐる。常に至富至福、平安圓滿にして和樂の聲門外に益れてゐる。

桃野村月夜野

秋山眼科醫院

本醫院は院長秋山賢三郎氏の専心經營する所であつて、父祖三代に互れる刀圭の家系である。嚴父はよく家礎を固くし

本院を開業した。眼科の名醫として遠近より襲ひ來つてその藥療を受け、その徳風に浴して衷心より悦服した。賢三郎氏はその長男として



明治十二年八月十三日に生れ、長谷川泰先生の濟生學舎に於て醫學を研鑽して業を卒へ、明治三十五年檢定試験に合格した。嚴父の遺風を承繼し、眼科を専門とす。村醫及び桃野小學校並に小倉小學校の校醫を兼務して、令名が高い。區長に任ぜられること四回。村會議員に擧げられ、盡瘁して功勞甚大である。家庭はマサ夫人貞淑を稱へられ、長男吉久氏の外に四男、三女がある。何れも中學校高等女學校卒業の秀才である。先に利根郡教育會より表彰され、また縣醫師會より表彰された。趣味は讀書と醫學の研究である。特に貧困窮迫の人々に對して

懇切なる施療を以て救助すること多年に亙り、四隣遠近より絶賞讃嘆、悉く感謝信賴する所である。

水上村小日向

中島醫院



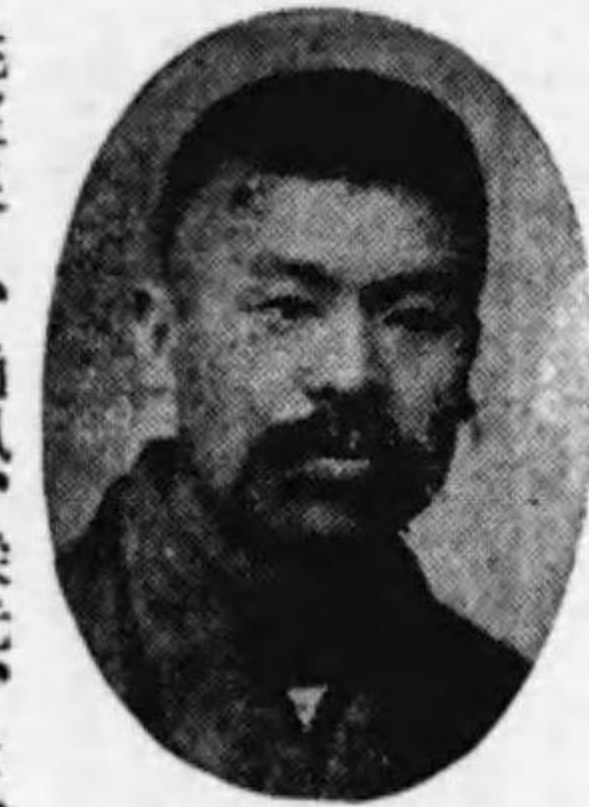
本醫院 電話水上一一番 長は中島竹松氏、明治元年九月二十

の七十二歳、しかもしやん／＼して村醫校醫を現任、壯者を凌ぐの概を以て職責の完了へと努力してゐる。東京本郷區湯島の濟生學舎を卒へ、醫術開業試験に合格、内科と小兒科とに特技を見せ、醫は仁術なりをわが家の家憲とし、請ふものあればその深夜たるも辭する事なく、熱心と懇切とを以て患家に接した。従つて氏の令名は四方に湧き、村民何れも氏を

徳としてたゞへてゐる。氏は曩に村會議員、郡會議員として村治にも郡政にも巨大なる足跡を印してゐる。氏は貧困者並に出動遺家族に對しては、三割引を標榜してゐるが、その生活程度によつては無料應診にもつとめてゐる。なほ縣、郡教育會及び村役場から表彰された。趣味は歌舞伎。

水上村湯檜會

湯元林屋旅館



館主 林 氏 泉第一の景勝地に其位置を占め、各室共眺望良く、通風、採光、また良く浴場清淨にして、温泉に浸りながら附近の風景

を一瞬に収め其壯快さ云はん方なく、空氣清澄自然の眺めは四季夫々の風致に富んで居り其効能に至りては恰く世人の知る所である。最近は來遊の客年々多きを加ふるの繁昌振りに三層樓の新館を増設



し又、鐵道省のツーリストビューローとして、大衆向き、茶代拜辭、サービス一割のモットーのもとに隆々たる發展振りをを見せてゐる。當主林音松氏は明治二十四年三月五日生れ、資性濃厚にして篤實誠心誠意を以て客に接し範を従業員に率先して示す當代稀にみる人物である。家族は、妻女タツさんとの間に二男二女有

り、春風駘蕩にして、和樂滿ちくゝてゐる。従業員は現在十名である。

沼田町原新町

住職 井上 覺淨

高德英邁の僧として令名高き師は先代徳亮師の男にして明治二十五年九月二十一日生れである。師は、芝區高輪中學卒業後、富山、越中地方を布教し、曩に佛教會沼田會長を勤め現在は利根佛教會副會長を兼ねてゐる。その識見人望は深く町民の敬仰するところで家族は令閨との間に二男有り、師の長男は沼田中學在學中である。

功德山菩提院 當寺の宗派は大谷派
平等寺 一にして御本尊は阿彌陀

如來である。祖先海野小次郎幸俊、宗祖親鸞に從ひて善性と號し信州高井郡唐澤村に於て一寺を開基す。子孫相續して井上氏を稱し第七世善空越後國魚沼郡上田庄眞吉宗坂戸山平等寺の衰退せるを中興し平等精舎と號し、後同郡鹽澤に移る。

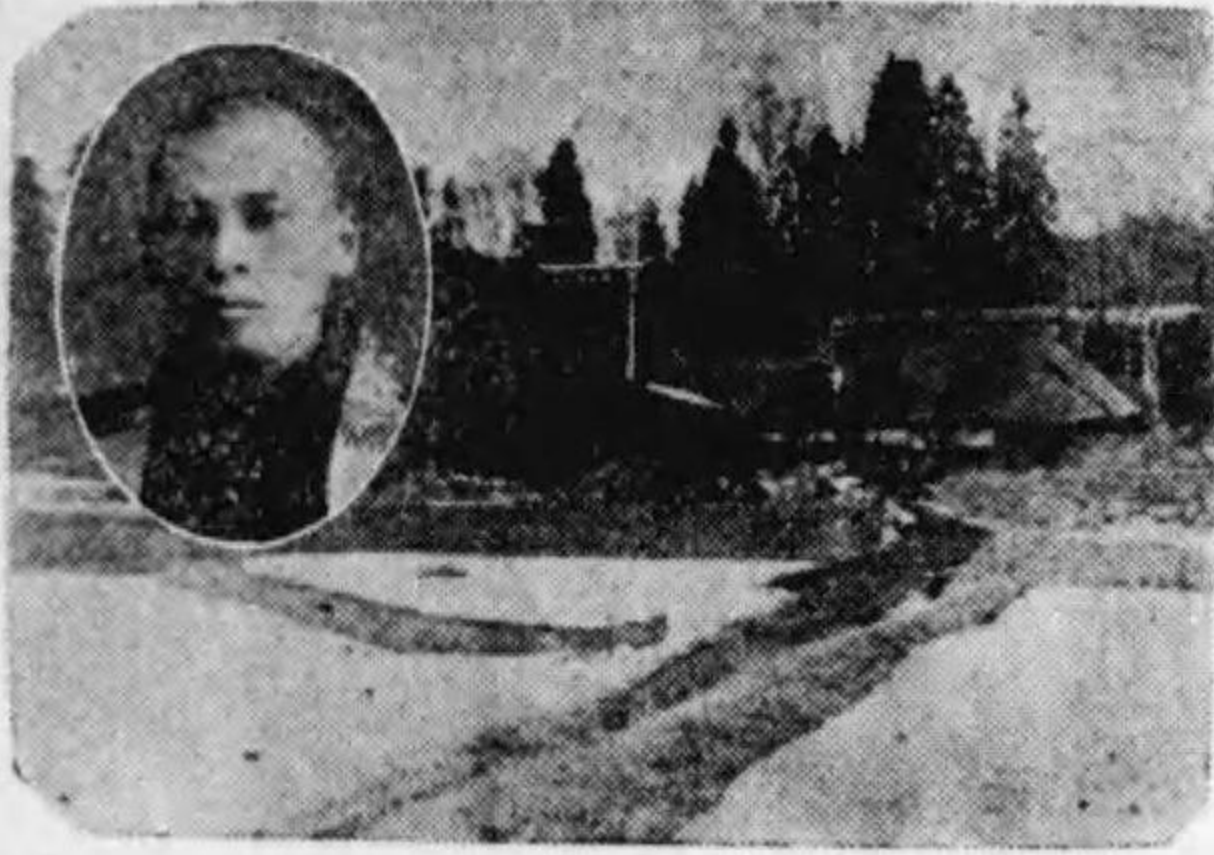
此頃眞田伊豆守信之の室に仕へし乳母の父、越後人澤本左右衛門西本願寺にて剃髮して澤本と號し慶長十五年紀共の原中に屋敷を占め一寺を開基し、同十四年十四世宗圓來り寓居す。澤本後に屋敷を請ひ材木町に移り亦一寺を開基し功德山平等寺と稱す。寛永三年澤本の舊院に移り更に現地に移りたるもので、元祿十六年本多伯耆守正永領主となりて菩提寺となし、正徳五年本多豊前守正矩堂宇を再築し後火災に遭ひ假建築として今日に至つたものである。現住職は井上徳亮師にして、高德明智の僧として聞えた人、檀徒總代は大谷福藏氏、眞宗東派、東京本願寺末である。

白澤村高平

加藤 玄道

師は東京市澁谷區向山町中川岩次郎氏の二男として明治三十五年十二月五日に出生、長じて加藤金藏氏の養子となつた養父は千葉縣下に於て警察官吏をつとめ

て謹嚴なる人格者である。師は夙に總持寺學林専門部に學び、神奈川縣中郡岡崎村滿願寺に修業し、後ち雲谷寺住職とな



つた。資性温良なる勤勉家、縣下佛教界稀に見る名僧といはれ、伽藍の再興、佛具の充實など寺運興隆に意を用ひること多く、曾ては利根郡佛教會評議員もつとめ、現時社會教育委員、振興會委員、國防婦人會顧問、青年團顧問、老人會顧問

新田氏尙古會幹事、國防義會委員等の要職にあり、寺内の興隆繁榮と社會教化には特に功績多く、檀信徒崇敬の的である。家庭には母堂千代さん並に夫人まつさんのがある。因に雲谷寺は武尊山と號し、本尊は延命地藏尊にして安阿彌作の



雲谷寺本堂

木像である。開基は鎌倉時代の人、代官大友殿、開山は天印保宥大和尚、薩摩國雲國寺末にあたり、眞田安房守、同伊賀

守の歸依を受け、また庶人の信仰頗る厚かつた。境内千二百十九坪、檀徒百六十戸をかぞへ、知名人士の參拜も多く、新田義宗戦死の跡、舟田長門守の墓などがある。

糸之瀬村貝瀬

川龍寺住職 今橋 大雄

師は亡父與之助氏の二男として明治十七年三月十九日に生れた。實家は代々繁榮を極めた素封家であり、豪農として敬慕されてゐた。夙に郷里の小學校及び補習學校を卒業してから曹洞宗認可僧堂に於て修行し、静岡縣榛原川崎町森龍寺住職を経て、昭和二年川龍寺に晋山した。師は實に岩山眞定和尚の法孫である。先に社會慈善會委員に任じ、現に利根郡佛教會糸之瀬支部長、教育振興會委員に任ぜられて盡瘁する。資性温柔にして謹直圓轉、滑脱、古今内外の書籍に眼をさらし、博學達識、一家の學風を爲す。はる子夫人五十二歳にして一男一女がある。

沼田町沼田
縣社 榛名神社



沼田城の捨曲輪を社地とし、その昔梅の馬場と稱した地を参道となし、彫刻の彩色に優雅を見せた本殿(十二坪)、幣殿(五坪)、拜殿(十坪)の莊嚴さ、自然襟を正してうなだるゝ當社は、創建の年月等は不詳であるが、恐らく平安朝中期のものかと傳へられる。埴山姫命、倭建命、菅原道真命の三柱を祭神とし、養蠶及び五穀豊穰の守護神として、崇仰される。昭和三年十月朝社に昇格され、境内一千

五百坪、攝社二、末社十二社を有する。四月八日を祭日となしてゐるが、近村より参拜者群をなし、さしもの境内を埋めてなほ餘りある。氏子は一干五百戸、總代に靱山清兵衛氏外十五氏あり、社司金子安平氏、社掌金子彌四郎氏。

社司 金子家は十九代の舊家、金子安平 神職を奉仕する十七代、先代志解氏はもと町收入役、助役として功あり、後ち當社々司を拜命したもの、當主安平氏はその長男、明治四十四年十二月十七日の出生、正に今後を約束された人材、國學院大學神職部の出身、神職會支部長、縣方面委員、社會教育委員、中等教員等を兼ねてそれ〴〵盡瘁貢獻してゐる。敬神愛郷の四字をモットーに他を望まず、社頭の踏踏に甘んじてゐる。趣味は短歌、萬葉集の研究。

沼田町沼田

天理教會 利根支教會

本支教會は明治二十八年六月四日の創

建で、信徒範圍を當沼田町をはじめ利南、池田、古馬牧の三ヶ村となし、現在男子約五百人、女子三百人弱を擁して旺んであり、宣教所を水上、東、川場、白澤(二ヶ所)、片品の各村に置いて布教宣傳に力を注いでゐる。本支教會は池田村出身の中澤半左衛門氏が、たまく病床に臥するや、天理教のありがたさを知つて終に信徒となり、その至誠をさへけての信仰は、さしも重病だつた身を回生せしめて以來、一層信仰を篤うし、他にも勸めるに及んで今日の大をなすに至つたもので、現支教會長はその男中澤新三郎氏である。信徒總代に小林一郎、平野彦太郎、千木良金重の諸氏で、月並祭は毎月十一日、教祖大祭は四月十一日、十月十一日に何れも賑々しく執行される。

白澤村平出

正眼寺

曹洞宗に屬して、釋迦牟尼及び文殊菩薩を本尊となす當山は、本村雲谷寺の末

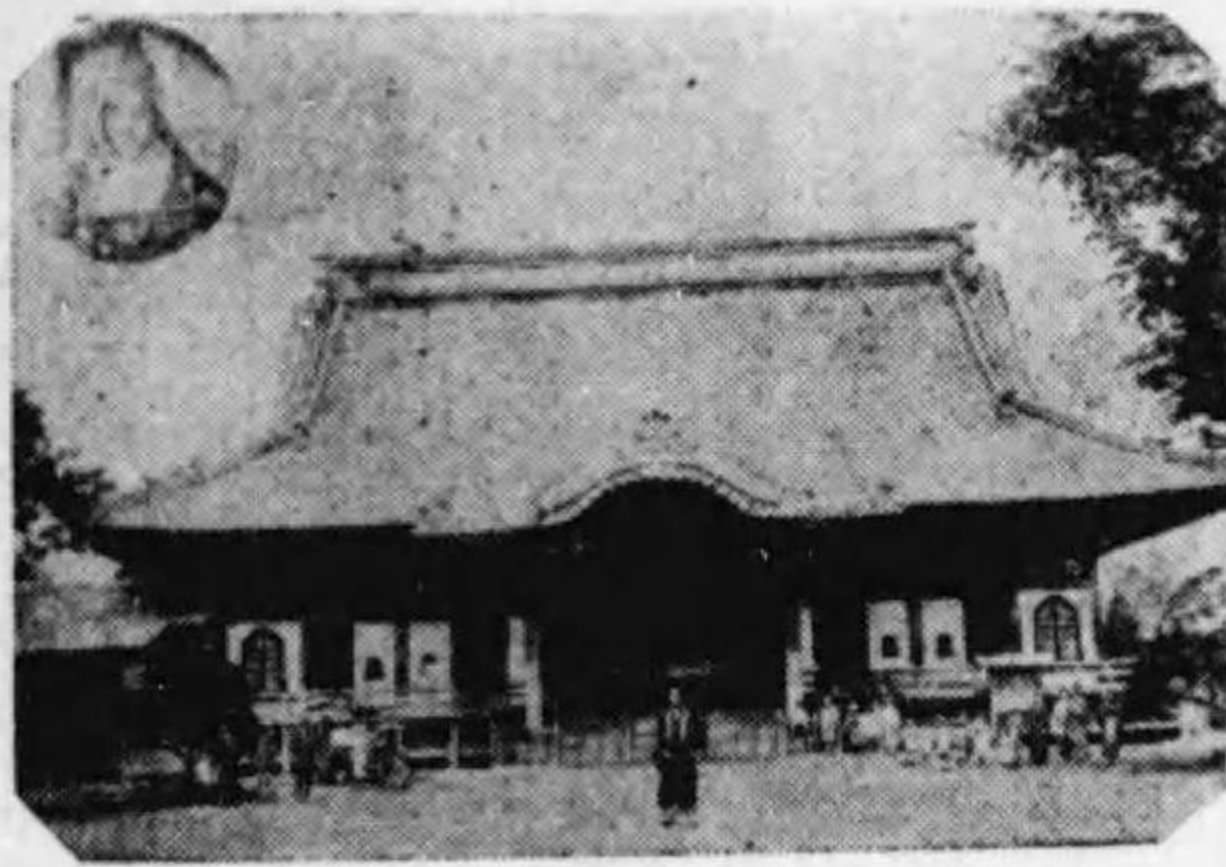
寺で、雲谷寺二世無邊泰育大和尚が當山を隱居寺となし、遷化後百五十年間は無住、殆んど廢寺となつてゐたのを、應山存變大和尚が當山二世として復興、現在に至つた。境内四百三十坪、本堂、庫裡等儼として備はり、行事は二月十五日、四月八日(花まつり)、十二月八日(涅槃會)に執行されてゐるが、當日は近郷近在からの参詣者によつて殷賑を極める。

住職 師は新潟縣北雉村の出生米倉謙龍 幼にして佛門に入り、宗學を極めて博識の名僧で、檀徒内外の歸依最も篤い。檀家總代に小野義嘉さん、新井梅氏等がある。

沼田町材木町

大感應山長壽院

當山は天臺宗に屬し、京都の比叡山なる總本山延曆寺の直末寺にして、本尊は阿彌陀如來、開山は慈覺大師、中興は忠純大僧正である。その後種々變遷混亂あり、後に至りて領主の祈願所となり、木



堂本

蘭色法衣の寺格に進み、享保十五年黒田豊後守は、當院第十六世良海法印に至るまで祈禱を勤められたといふ。寛文年中眞田伊賀守信俊侯が本堂を再建してより百餘年を隔て、零落に附した。明和八年より附近に勸化して、天明五年再建成り十一月幕府より感狀を賜はり、榛名山佛乘院の稱號を受けた。末寺には長廣寺、華藏院等十一箇寺がある。郡内最高の寺



堂樓鐘

格に列す。御朱印地五千石を賜はつたことがある。本堂は間口十二間、奥行十三間、玄關、客殿、山門、庫裡、寶藏、納屋七棟が備はり、天臺大師、傳教大師、及び桓武天皇の御掛圖、大般若經六百卷、十六善神等十八點を寶藏してゐる。行事には春彼岸中日、各寺合同大施餓鬼、涅槃會、降誕會花まつり、天臺會、傳教會等が殊に盛大である。明治戊辰の役に於て上野の東叡山輪王寺御門跡宮は日光へ落ち延びられる途次お立寄りがあつた。安部磯雄氏夫妻、鶴淵仙助中將夫妻、角田政之助少將夫妻、縣選出代議士等、多數の名士が参拜した。檀家三百五十戸、

信徒二千五百人、檀徒總代に金子健次郎、山田松之助、金井平三、角田由太郎、割田吉之助の諸氏が奉仕し、桑原半兵衛氏これが顧問に任じてゐる。現任職は中興第三十五世法印丸岡興舜師である。

住 職 氏は越前丸岡城主の血脈丸岡興舜を繼承したる名門にして、

代々長野市善光寺山内に於て僧職を奉じ中道にして家運稍衰退を見たが、その後隆盛、舜海、舜乘、舜晃、舜曜、舜英を経て興舜師に至り、家門再興して繁榮を極めてゐる。師は舜英師の長男として、明治三十三年五月二十七日、勢多郡敷島村龍泉寺に生れた。大僧正故青柳興賢師に就いて内典外典、宗乘餘乘の研鑽を積み、修行練丹大いに勵精するところがあつた。代々佛門に歸依して僧侶たること六代に及べる法界名譽の家柄である。師は天台宗大學の檢定に合格し、宗門教師に累進し、補充兵役の特務兵である。先には利根郡司法保護委員長等、社會事業方面の公職を始め、天台宗第十五教區主

事、同教區參事員、同布教師、御遠忌傳導師等に歴任し、現に群馬縣社會教育委員、沼田振興委員、利根郡佛教會長、北毛佛教同志會長に任ぜられ盡瘁貢獻頗る多大で、東奔西走席暖まるに暇がない有様である。師はまた文書の傳道や映畫の傳道にも熱心努力し、青年團、處女會、敬老會、國防婦人會及び各種の會社工場等に布教、講演に勵精し、感化感動甚だ強大にして、卓絶せる効果を挙げつゝある。専ら社會教化事業のために没頭専念して倦まず、資性は慈悲に富み圓滿柔和、温順にして寛厚である。大いに人情に富み義侠心が強大である。

東村平川

不動尊古瀧庵

桓武天皇の御代、延暦年間、僧空海當地の名勝を尋ね來りしに、その年は甚だしき旱魃にて百姓共雨乞を祈願なすも容易に降雨なく、困感し居りたるころなれば、空海上人は古瀧にて身を淨め、雨

乞ひの祈禱をせしに俄に降雨あり、靈驗顯著なりければ、茲に不動尊を建立し、雨乞ひ不動と稱したといふ。その後屢々



早魃の時は不動尊に祈願し、農家の利益大なるものあり、遠近に普く信仰をあつめてゐる。本堂、三夜堂、拜殿、倉庫等あり、宅地三十三坪、畑一反五畝、山林二反四畝、原野四反二十五歩の土地を有す。毎年三月二十八日には尊前にて盛大な修行の儀が行はれる。信徒百三十餘戸東、片品、白澤、赤城根、川場の諸村に互る。

藤井 初太郎 氏は明治廿四年九月三十日の出生農業學校卒業にて



理をつとめてゐる時區長代理

先代寅吉氏の養子である。曩に學務委員、村會議員、青年團支部長、區長、消防組小頭、農會代議員、國勢調査員二回、農業調査員一回等を歴任、現時區長代理をつとめてゐる。家庭にシモ夫人養子和三郎氏あり、和氣に溢れてゐる。なほ護摩講世話人には吉野彌三郎、千明定吉、吉野源次郎、井上八三郎、宇敷浩次、小林源次、井上説造井上仁平、井上時司、井上富藏、井上柳太郎、井上平五郎、吉野萬作、小林和市郎、井上武一の諸氏が擧げられて居り、本講は五人を以て一講とし、五ヶ年を以て改講することとなつてゐる。

片品村東小川

龍 滄 院

當寺は曹洞宗に屬して海藏寺の末寺で



師源格川田職往

若會、涅槃會が殊に有名である。當寺は

ある。本尊は釋迦牟尼佛、開山は海藏寺第二世巨山高吞大和尚である。靈域内には本堂を始め、庫裡、土藏、鐘樓、山門等の堂宇盛にして、宅地百餘坪、田地二段四畝畑二町四段餘、寺寶中の白眉なる本尊は木像坐佛である。行事中には大般若會、涅槃會が殊に有名である。當寺は藤原氏との因縁頗る淺からざるものがあるといふ。千明家菩提寺であつて千明賢治氏の參拜がある。檀家は百三十戸に餘り、金子保太郎氏、星野萬吉氏、宮田官次郎氏、星保氏が惣代を奉仕し熱誠を極めてゐる。現住は第二十世田川格源師、明治二十五年十月四日、多野郡に義水和尚の子として生る。義水和尚は學徳一世に秀でた高僧で教化甚だ廣大であつたが八十五歳にして遷化した。格源師は家學

池田村上發智

加葉山龍華院彌勒寺



當寺は曹洞宗に屬し、本尊は聖觀世音菩薩である。桓武天皇の御子葛原親王丹仁慈覺大師を開山とし、初め六百年間は天台宗寺院であつたが、曹天巽慶從禪師が相州小田原の最上寺より參してより曹洞宗となつたものである。武運長久の祈

願所として古來殷盛を呈し、境内に中峯
 籠堂あり、本堂、鐘樓は昭和四年祝融の
 災に罹つて焼失し、目下建築工事中であ
 る。山號加葉は印度加葉尊者が入寂した
 所の名、現在池田村道中のトンネルの所
 は、阿難坂といひ、加葉に阿難が禮をし
 たところと傳へられる。寺のあるところ
 は發智と稱し、當寺の水を呑めば智者と
 なる故に、この名ありといふ。名士の參
 拜する者も甚だ多い。檀徒總代は齋藤幾
 太郎、中澤盛江、關口幡之助の三氏であ
 る。現住職清水浩龍師は備後の人、明治
 十八年四月三日の生れ、貧兒教育者とし
 て令名高く、現代のベストロッツとまで
 いはれ、資性濃厚篤實、稀に見る純情高
 潔の士である。幾多の孤兒を自分の子同
 様に育て、それぞれ教育及び職技を授け
 て社會に獨立自營せしむ。現在師が養育
 せる成功者は十數名の多きを算し、なほ
 そのほかに四十名を養育し、現在も八名
 の子供を教育しつゝあり、實に現代宗教
 家の儀表たるべき大徳である。



田澤住職

當寺は釋尊を以て本尊とし、沼田平八郎景義の開基にかゝり、開山は行之繼善大和尚にして、宗派は曹洞宗に屬す。寺院所在の地は往古の小澤城地にして、宏壯なる丘上にあり、昔時、奥州の武士和田庄司この地に築城し、後、沼田景義の居城たりしところにて、同境内には景義の墳墓及びこれを祀れる沼田大明神がある。沼田大明神は虫除に靈驗あらたか

にして遠近の參拜者多く、世人に知られてゐる。大本山は越前永平寺及び鶴見總持寺にして、利根郡古馬牧村玉泉寺末にあたり、境内七百五十坪、外に山林竹林等約二町歩を有す。沼田景義公木像、永

薄根村町田八九

法城院

平寺開山禪師木像、總持寺開山禪師木像等寺寶として秘藏される。毎月一日及び十五日には祝聖の行事あり、毎年春秋二期、三月十五日と九月十五日を沼田大明神の御縁日とし、殷賑を呈する。往時は累代沼田城主の參拜あり、附近一帯に小



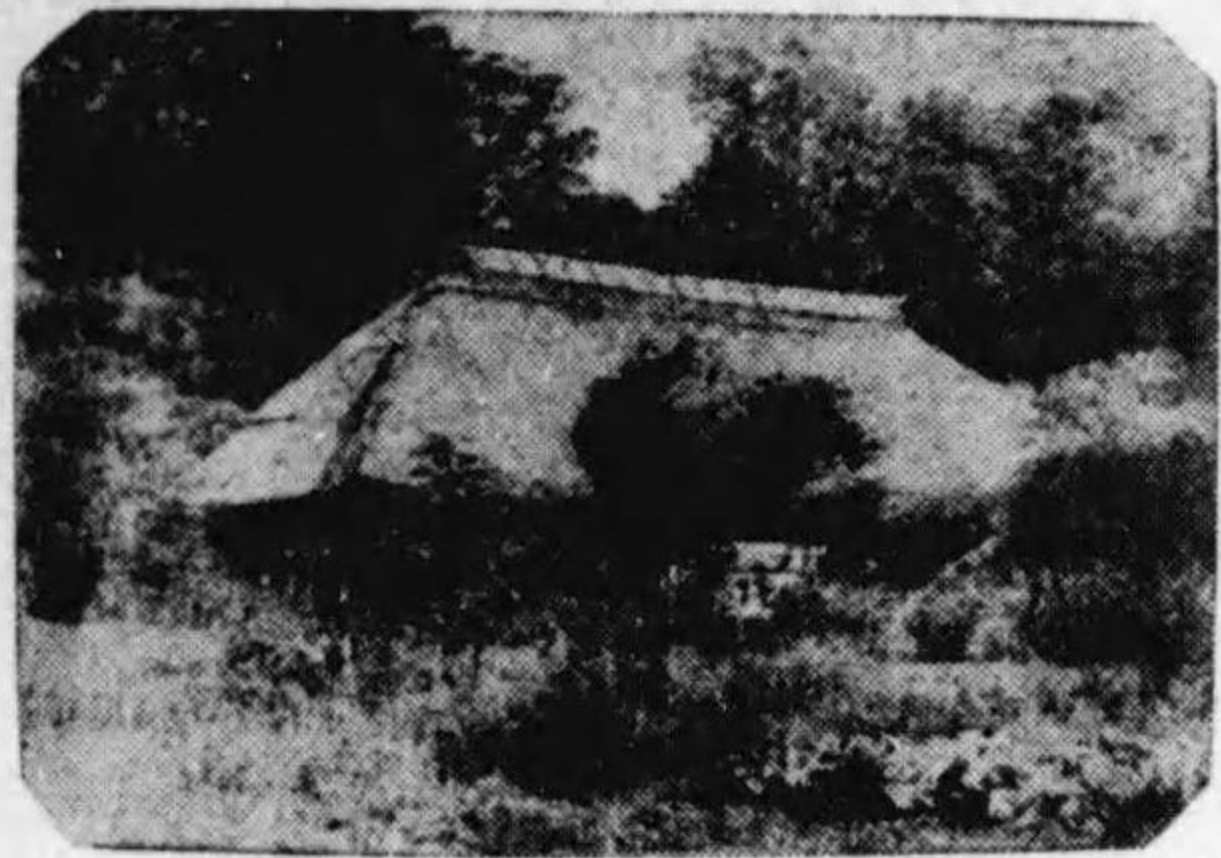
法城院

澤城の史料が非常に多い。現住職には田澤禪雄師が就任し、檀徒總代には七五三木萬作、小澤寅吉、入澤甚太郎、牛口林

作の諸氏が擧げられてゐる。

水上村湯原

寶珠山建明寺



本堂

當寺は曹洞宗に屬する古刹にして、開基は上杉憲政公、開山は秀翁龍樹大和尚である。その昔、關東管領上杉公が利根郡水上村大字粟澤へ赴く途中、病を得て岩室で治療せる傳説あり、本尊迦羅陀仙



當山開基の像

三年、現在地に海王文壽和尚が再建して今日に至つた。境内面積四町餘り、本堂、庫裡、倉庫、觀音堂、僧堂等輪奐の美を競ひ、附近には諏訪峽、水上峽、上杉公遺跡等の名所舊蹟が多く、寺寶として上杉公の木像が秘藏される。春秋二回の彼岸會及び七月の施餓鬼、四月八日の花祭等には段賑を極め、維新前には沼田城主の參拜があつた。檀家三百五十戸、總代は木村喜作、青山茂、中島常雄の三氏である。現住職堪山泰舟師は利根郡佛教會

支部長の要職にある青年僧侶として將來を囑望されてゐる。

利根郡桃野村上津

鳥越山如意寺



如意寺全景

當山は玉泉寺の末寺、本尊は釋迦尼佛脇立は文珠、普賢の兩菩薩で曹洞宗に屬し、別に寶珠院とも稱する。長祿の頃、沼田城を上野介影繁の三男名胡桃城主名

胡桃三郎景冬の姉如意姫、上洛して御花園帝の御寵愛を蒙り、御懷妊あるや月夜野より赤谷川を渡り急坂岩上の道を攀つて八幡神社に至り、その西北隅に一字を建立して安産を念じた。月満ちて生れたのが明賢親王で、姫は緑髪を落して玉泉寺に納め、開山一洲伊禪師の得度によつて如意庵尼と稱し、長享三年遷化し、寶珠院殿金石如意尼大師の法號を贈られ、これに因んで寺號とし、現在に至つた由緒ある名刹である。寺域は一千二百坪、本堂、庫裡、開山堂、禪堂等輪奐の美を飾り、そゞろに古往を偲ばしめる。檀家は三百三十戸、現住職は坂西道仙師、師は明治二十六年九月一日の出生、沼田中學校出身、常穩院住職より大正八年當寺に入山したもの、教區長、組長、理事を現任、三男五女あり、長女タカ子さんは十七歳、母亡き後を一身に引受けて父君を輔佐し、郡下唯一の孝行娘よと推稱されてゐる。



泉峯山泰寧寺

新治村須川

人皇九十五代花園天皇の延慶二年、細川伊豫守源綱利、法名泰寧寺殿奪洲善祺大居士の開基に係り、本尊は小觀音である。當時は亂世なりしたため永住する住持なく、或は一年または半年、後、世の中靜謐になり、天文六年王泉寺八代洞庵和尚隱居寺に當寺を望み給ふにより住持と定め、中興の開山となす近隣に聞えたる雄利にして庶民の信望頗る厚かつた。寶物に觀音木像あり、現本堂は百三十餘年前の建築、檀家約三百をかぞへ、總代は



尊本山當

西山照吉、關根良三郎、河近作、阿部周

藏、本田起三郎の五氏である。現住職山岸春雄師は山岸恭善師の長男にして明治三十二年二月十日の岳降東京市世田谷中學校を経て専修大學豫科を昭和四年に卒業し、當寺住職となつた。カヨ夫人との間には二人の愛嬢がある。

久呂村析久保

正禪寺

得岩亥良大和尚を開基とし、笑岩水傳大和尚を以て開山とする當寺は、釋迦如來を本尊に安置し奉り、古來曹洞宗の淨刹として附近男女の信仰をあつめ、寺運



職住澤田織

隆々として法燈常に輝き、教化大いに振

起して今日に及んだ。桃野村小川嶽林寺末に當り、歴代住職中には或ひは宗門の興起に、或は社會教化に、或は凡愚の救濟に幾多の功績を積みし大徳多く、檀徒は久呂村一圓に互つて約百三十戸をかぞへ、總代には眞下辨次郎、諸田甚藏、中島榮作、南雲左源太、綿貫萬作、眞下幸吉の諸氏が擧げられてゐる。宅地九百八十餘坪その他の土地を有し、今より五十年前祝融の災に遭ひて堂塔及び古書類を烏有に歸し、現在の本堂、庫裡等はその後建築に係る。二月十五日及び四月八日の緣日には遠近より參詣の客雲集して頗る殷盛を呈する。現住職織田澤憲示師は學徳兼備の大徳として信望あつく、教界の誇りとするに足る才幹である。



堂本院剛金

金剛院

利根郡沼田町坊新田

海平山善福寺金剛院と稱し、天臺宗に屬し、本尊は阿彌陀如來である。第三十一世宏榮法師が應仁元年四月の中興に係る。本尊は無量壽佛にして金銅作である。寛成元年、沼田領上野介長忠公崇敬宏榮浴奉納、延寶七年料發舊事纂集雲尊一卷

利南村横塚

延命院

を傳ふ。また本院には明治初年下總國より成田山を勸請したるものである。末寺には正福寺がある。境内は六百九十五坪八分を算し、本堂及び庫裏、山門等が備つてゐる。惠心僧都作の大黒天像等の寺寶がある。山門は舊沼田城東門を移して殘存せるものである。行事の中にて開山傳教大師生誕の四月十六日法會、成田山の節分會は特に有名であつて、遠近より善男善女が雲集して股賑を極める。明治維新當時活躍した沼田藩奥田元長氏の墓があり、また舟松、高砂松があつて有名である。檀家は百五十戸、武井千代三郎、武井嘉助、金井長治、阿佐見長之助、宮澤龜吉、宮澤吉太郎、木村熊太郎の諸氏が檀家惣代として熱誠に奉仕してゐる。現住は伊藤亮俊師であつて、遠近の歸依甚だ篤く稀に見る高德の名僧として仰がれてゐる。

當院は天臺宗山門派に屬し、京都比叡山延曆寺の末寺である。本尊は阿彌陀如来である。屢々祝融氏の災に罹り遂に古



住職 觀月全師

は、開山、開基、沿革等不詳に屬してゐる。寺域内には本堂を始め、庫裏、藥師堂、阿彌陀堂等が備はり、宅地は二段二歩、畑は三町三段九歩、山林原野は九段十三歩がある。檀家は横塚村一圓に亘つて四十五戸あつて、その惣代は小野三津五郎氏を始め、都所初藏氏、桑原半吉氏等が熱誠を以て奉仕してゐる。現住は觀月全師であつて内外の歸依甚だ篤いものがある。

沼田町材木町

月宮山天桂寺



阿部 住職

當寺は曹洞宗に屬し、永平寺直末にして、一等寺格である。本尊は釋迦牟尼佛にて、開基は眞田河内守信吉侯である。開山は永平寺第二十六世巖英峻大和尚である。眞田信吉侯及び、土岐頼知侯令息をも葬つてある。大般若經及び法華經八卷、開山遺愛法衣等を寶藏してゐる。本堂庫裏の外に四棟の堂宇あり、眞田家及び土岐家より參拜展墓の事ある外名士の來參が多い。檀家は百戸、總代は桑原三之助氏等三氏である。現住職は第二十二世阿部碩龍師、内田憲太郎氏長男として明治十二年に生る。阿部家に迎へられて養子となり士族である。認可専門僧堂を卒業し、組長、教區長を歴任す。廢寺を改修して現在に至り、各方面よりその功を表彰せられた。キク子夫人貞淑にし

及ぶ土岐家より參拜展墓の事ある外名士の來參が多い。檀家は百戸、總代は桑原三之助氏等三氏である。現住職は第二十二世阿部碩龍師、内田憲太郎氏長男として明治十二年に生る。阿部家に迎へられて養子となり士族である。認可専門僧堂を卒業し、組長、教區長を歴任す。廢寺を改修して現在に至り、各方面よりその功を表彰せられた。キク子夫人貞淑にし

て、長男峻峰師二十九歳は駒澤大學を卒業し、その夫人秀子さんは高女卒業の才媛である。

藥師 天桂寺に安置せる藥師瑠璃光如來は後小松天皇の御宇嘉慶元年に、肥後國河尼大慈寺の住職景秀禪師が或時病床に伏して苦患甚しかつた時、少年時代より信仰した藥師如來に祈願した所、その夜の夢に三州桐生山の老翁現れて、瑠璃壺中より妙藥を授けた。たち所にして病苦が平癒した。三州に至り鳳來寺に參籠百餘日、一體の藥師像を彫刻した。後に至つて東方に飛去つたと傳ふ。應永元年、利根郡須川の地に彼の木佛藥師像を發見した。沼田城主上野亮平朝臣長忠公は寺領等を寄進し堂宇を建立し景秀禪師を住持せしめた。天正年間兵火の爲めに烏有に歸し、その後眞田河内守源信吉公の崇敬厚く、須川より天桂寺内に遷座し法堂を建立した。藥師は飛藥師とも稱される。毎月八日が縁日で、四月と十月に大祭が行はれる。

東村追貝

洞谷山海藏寺



住田 淺

曹洞宗に屬する當山は、永祿十六年、迦葉山の末寺として建立されしものにして古くから善男善女の信仰をあつめ、法燈燦然と光芒を放ちし地方有數の大道場であつた。毎年春になると行はれる大般若經會には、遠近より參拜の客雲集して殷盛の限りをつくし、特内及び附近には上杉家關係の史蹟多く、これらを尋ねて杖を曳く者も常に影を絶つたことがない。また開基開山に關する寶物や、由緒沿革その他の古記録多數を秘藏し、靈域の森嚴なると相俟つて寺運の盛大なりしを偲ぶに充分である。境内千百十五坪に餘り

本尊 是釋迦牟尼佛を安置したてまつり 他に田畑山林等の土地も相當あり、寺堂並に建造としては本堂をはじめ、庫裡、土藏、鐘樓堂がある。檀家は四百二十戸の多きをかぞへ、總代には金子彌五郎、星野仙五郎、星野筆吉、星野善一郎、大竹梅吉、飯塚大作の諸氏が推舉されてゐる。現住職淺田敏彦師は明治四十五年二月三日の出生、共立普通學校三年修了後大本山三松學林に學び、昭和九年十一月當寺住職となり今日に至つた。資性剛毅果斷にして人格的に完成し、若冠乍ら衆望をあつめ、春秋に富む將來は多大の期待をかけられてゐる。

久呂保村川額

雲昌寺

當山は沼田町舒林寺の末寺にして、釋尊を本尊とし、宗派は曹洞宗である。開基萬治三年庚子十一月十四日通岩雲達和尚。現住職中村如山師は高德明智の師にして、近郷に令名高く檀徒の信望頗る篇し。當寺財産として、宅地、三九三反、

田宅一三一六反、畑一〇、八〇一反、山林二〇、六二二反、年中行事は三佛期として、四月八日、四月二十四日、祭典二月十五日、久呂保、川額一圓を檀家として現在百三十餘戸、檀徒總代は、七五三木政勝、茂木徳太郎、堤須、堤善七、堤寅雄、堤誠之助、竹内良平、竹内喜内、倉江清五郎、倉澤源藏、倉澤惠十郎、高橋清之助の諸氏である。

片品村越本

光福山音昌寺



住職 明正信師

當寺 是上杉民部大輔藤原顯定公を開基として創建されし曹洞宗の雄刹にして、本尊には釋迦牟尼佛を安置する。東村海藏寺の末等にあたり、古來衆庶の信仰頗る深く、法燈燦然として救世の光を放ち

寺運隆々として繁榮をつづけて来た。宅地五百餘坪、田地一町歩、畑地一町歩、山林一町歩の土地を有し、本堂、庫裡、土藏等の建造あり、靈域清閑にして壯嚴の氣に満ちてゐる。毎春、大般若經會が催はされ、殷盛を極める。檀家は越本部落一圓に亘つて百戸をかぞえ、笠原惣、笠原源三郎兩氏である。現住職明峰正信師は明峰玄海師の二男として生をこの世に享け、小田原町善隣學院に學んで後、鶴見本山に二年間修業し、昭和十一年五月當寺の法燈を襲ぎ今日に至つた。檀徒の信望があつた。

沼田町沼田

舒林寺

電話沼田二七番

當寺は寶徳元年の創建に係はり開基は大友民部卿憲儀氏、開山は心華乘芳大和尚にして、曹洞宗に屬し、本尊は釋迦牟尼佛を安置し奉る。神奈川縣高座郡三田村清源院を本寺とし、末寺は九ヶ寺をか



職住寺林舒野天

ぞへる。境内一千五百坪に餘り、本堂間に十間半奥行八間、開山堂は五間の四間、玄關も五間の四間、庫裡は十二間半に六間、他に土藏がある。總代に林藤助氏、ほか七氏が任ずる。現住職天野延秋師は大舜と號し、天野兵太郎氏の二男、明治二十八年十二月三十日を以て呱呱をあげた。産地は山梨縣本山梨郡岡部村、開祖以來十二代を關し、代々農業を營業とせしも、明治以後、養蠶業を營み、嚴父は養蠶指導員に任じたこともある。師は夙に東京に出で、芝區青松寺住職佐藤鐵額師の門に入り、大正八年東京府下和田堀町長延寺住職となり、同十二年曹洞宗大學卒業、同十四年臺灣中學林教授を拜命し、昭和二年群馬縣富岡町在光嚴寺住職に轉じ、翌三年當時に來り、現時管内寺

有財産調査會長、曹洞宗群馬縣第二宗務長を兼ね令名噴々たるものがある。俗間に於ける佛教徒が、社會事業の美名の下に布教に進出することは教理の冒瀆であり、住職は檀家を受持つ身なれば、自己の器の許す範圍内に於て努力し眞理を探求し、教理の普及に邁進し、釋迦牟尼佛の教に悟達すべきである、と、氏は主張する。趣味は讀書である。いそ子夫人とは琴瑟相和して幸福な家庭をつくつてゐる。

片品村土出

金嶺山大圓寺



師龍清瓜橋職住

住古迦葉山八世の住職海藏寺を創建し海藏寺二世巨山享春和尚當寺を開山せるものにして、開基は星野義基である。ま

れば當寺創建は永祿三年のことに當り、海藏寺末寺にして、曹洞宗に屬し、寺地は空海上人來遇の結縁の地として普く有名である。境内面積八百七十一坪本堂、庫裡、土藏等の建物あり、往古より老若男女參詣するもの多き淨刹にして、寺運隆々として盛大を極め、法燈燦然として四民の上に輝いてゐる。寶物等も珍重なものが多數秘藏され、由緒深き當時の姿を偲ぶに充分である。檀家は約百二十戸をかぞへる。現住職橋爪清龍師は明治四十三年九月二十日を以て金澤清氏第三子として生れ、母は橋爪サク女、夙に母方を繼いで橋爪と稱した。富岡高等小學校を卒業後、十六歳にして出家し、金澤市大乘寺専門僧堂に於て専門の學校を卒へ次で迦葉山住職に就いて修業の後當寺に參拜し法燈を享け今日に至つた。前途春秋に富む青年僧侶として檀信徒の聲望あつく、若年ながら佛教の眞諦に徹して、至信の道に生き、法悅の境に逍遙する。ウメ子夫人との間には二人の愛嬢があ

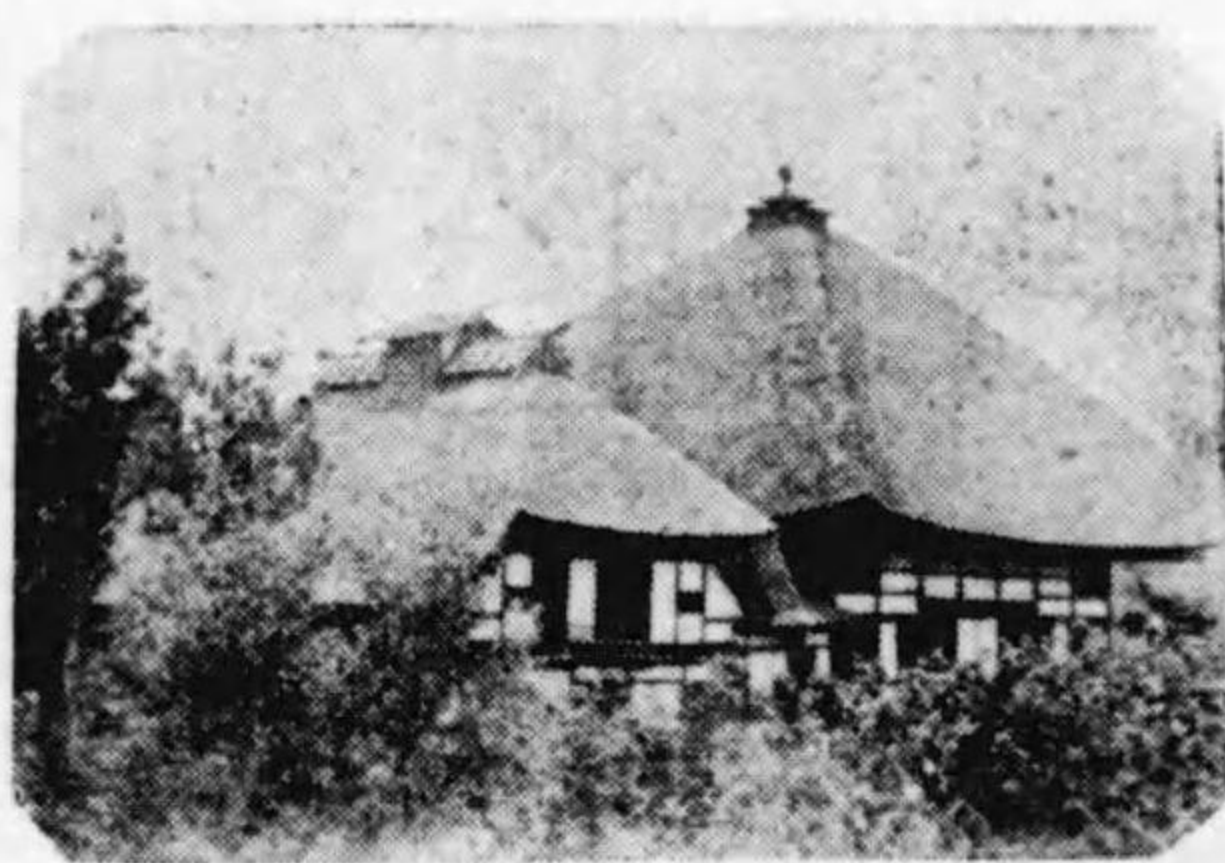
る。

新治村東峯須川

東覺院金泉寺



天臺宗の雄利といはれ不動明王を本尊



景全山當

ころ大なるものがある。

水上尋常高等小學校長

中村萬吉

桐生市錦町

桐生機械株式會社

當社は大正六年一月八日、資本金五萬圓を以て創立せられ、同年五月一日には明治十九年十二月十日の創立にして、資本金五萬圓なる合資會社桐生製作所を合併して、翌七年六月十八日二十五萬圓を増資し、昭和十年七月二十九日第二次の増資を斷行して二十萬圓を加へたが、同十一年三月十八日には、昭和十年十二月十一日の創立にして、資本金十萬圓なる第二機械株式會社を合併した。資本金は一千三百株五十五萬圓にして、その内拂込金四十萬圓、準備金九萬圓、別途準備金九萬圓、從業員養成基金五千圓、從業員優待基金三萬三千圓、森、大澤救濟基金一千一百圓、後期繰越金二萬二千八百五十圓、退職手當準備積立金二千四百圓特別勤續者退職手當給與資金二萬八千八百圓であつて、株主中の錚々たるものは千二百株前原準一郎氏、九百株森宗作氏、

六百株野間清治氏、五百六十株森口市太郎氏、四百株青木英作氏、書上文左衛門氏、岡谷惣助氏である。專務取締役は前原準一郎氏これに當り、取締役は書上文左衛門氏前原悠一郎氏、木村偉三郎氏、監査役は遠坂伊太郎氏及び齋藤庄平氏で、何れも適材を得て絶對的信任を博してゐる。敷地五千五百六坪、新敷地五千五百七十七坪、建物四十三棟、千八百七十一坪、電動機は七十二臺百六十四馬

力、諸機械は内外の精粹をすくつて集め百八十八臺を備へてゐる。生産高は年額九十萬圓に上り、絲編、針金、編金の金箆、特許撚絲機、紐繰機、整經機、管捲機、コーンワインダー等を製作してゐる製品特許十三種目、實用新案十二種目を有してゐる。取引銀行は第一銀行、安田銀行、足利銀行の各桐生支店である。業勢益々隆昌を極め、優秀なる製品は斯界に活躍しつゝあるのである。

在京縣人

本郷區動坂町八七

鑄金彫刻業 丸山 劍 一

氏は群馬縣邑樂郡館北町の人、嚴父故兵五郎氏は宮内省調度寮に勤務、初めは宮内省圖書寮に入り後日光田母澤御用邸に勤め更に本省に入り昭和八年病歿した

清廉高潔温雅の人格者であつた。氏はその長男として明治三十年一月十七日に呱呱の聲を挙げ、郷里の小學校を修了後、直ちに東京に出で、田端に在る鑄金彫刻の大家加藤辰雄先生に就いて、斯道の實地研鑽に精勵すること數年、二十一歳の時獨立して現在に及んだ。其の間に於け

る研究亦眞摯を極め漸く斯界にその名を喧傳さるゝに到つた、現在三越を初めその他の各デパート、銀座服部時計店其他と取引をなし、その作品の優美と雅緻は既に東都に定評がある。東京鑄金會主催第二回鑄金展覽會に於て技藝褒状を受け第九回東京工藝品展覽會に褒状を、更に第十二回同會に於いて三等賞を受けた。信仰は佛教、家庭はさだ子夫人との間に長男伊都雄君(十四歳)長女多佳子さんあり、常に春風の如き團樂を極む。

足立區河原町一七

建築材料商並に工事請負業 中 島 晴 吉

中島家は代々名主動役の名門にて、創始以來現在まで十數代を経たる舊家である。氏は群馬縣勢多郡横野村の出身にして亡鐵太郎氏の二男として、明治四十年四月二十三日に生れた。幼少にして嚴父に從つて上京した。十六歳にして甫めて建築業を志し、三箇年間修業を勵んだ。大正十二年關東大震災の直後、建築工事

請負業創設し、誠心誠意、經營苦闘、著々と地歩を擴大し強化して今日に至つた會て出張事務所を北品川、巢鴨等に設け盛に活躍したが、今や現住所に一切の事務を集中し、各出張所を廢した。業勢益々盛大にして、町内の信望極めて厚いものがある。町會幹部に任ぜられ、氏子惣代をも兼務してゐる。垂綸の趣味深く正に玄人の壘を摩し、煙霞の癖がある。タケヨ夫人二十七歳は貞淑にして内助に努め、長男一雅君七歳、二男利明君五歳、長女育子三歳がある。常に圓滿和樂を極めてゐる。

本郷區駒込坂下町二五四

彫刻家 尾崎徳太郎

當家の祖は、越後中頸城郡に住し、相當の名門にして、中古、當地に轉住、爾來代を累ねること八回に及ぶ。氏は仁左衛門氏の長男として明治十年七月七日、吾妻郡澤田村に出生、母堂は越後中頸城郡手島村にて代々名主をつとめたる豪農

の出である。明治二十九年、若冠十九歳の時上京し、彫刻界の先進藤井浩祐氏の門に入り、師事すること十數年の後、大正三年獨立、同年前橋市に開催されし博覽會に、聖上陛下の御肖像その他數種の力作を發表して大に好評を博し、後、その作品は縣下の中學校に納められた。主として銅像、肖像を得意とし、餘技としては洋畫に堪能である。大正二年彫刻競技會展覽會に銅賞牌二等褒状を得、同四年二十八回彫刻技術展覽會にて二等賞、翌五年二十九回同展覽會にて一等賞褒状を受け、大正七年彫工會第三十一回展覽會に團十郎像を出品して三等褒状を受け、先是、明治四十年二十二回彫刻競技會に三等褒状、同四十四年及四十五年の勸業展覽會に於て各褒状を受ける等、各展覽會に出品して褒状賞牌を獲得せること一枚學の遑がない。現在は帝展の分身三部會員として斯界に重きをなす。資性謹嚴、夫人藤江子さんあり。氏は又坂下町會長助役員に推され衆望を集めてゐる。

勢多郡南橋村
鹽原佐平



多野郡藤岡町
小林茂十郎



多野郡美九里村
坂本宗太郎



吾妻郡長野原町
中島丑藏



勢多郡南橋村

品川喜太郎



多野郡美九里村

須藤茂平



多野郡鬼石町

鬼石神社



多野郡入野村

金井市次郎

多野郡百場町

宮前益雄



利根郡水上村

應永寺住職 大橋徳宗



碓氷郡九十九村

小板橋増五郎



昭和十三年六月一日印刷
昭和十三年六月三十日發行

(非賣品)

不許
複製

東京市本郷區駒込富士前町一

著作兼發行 株式
兼印刷人 會社 内外通信社

代表取締役 佐藤億兆

東京市小石川區戸崎町九七

印刷所 本社專屬印刷部

發行所

東京市本郷區駒込富士前町一
振替口座東京八一一二番

株式會社 内外通信社

代表 電話大塚七四七〇番

終